笛吹市消防団　御坂分団第９部拠点施設新築工事

笛吹市

図面リスト

図面番号	図面内容	図面番号	図面内容	図面番号	図面内容
Ｄ０１	特記仕様書 1	Ｄ１７	外構図 2	Ｅ０１	電気設備工事　特記仕様書
Ｄ０２	特記仕様書 2	Ｄ１８	ホースポール詳細	Ｅ０２	配置図
Ｄ０３	特記仕様書 3			Ｅ０３	電灯分電盤結線図・照明器具姿図
Ｄ０４	特記仕様書 4			Ｅ０４	1･2階幹線・ｺﾝｾﾝﾄ設備図
Ｄ０５	配置図・案内図	Ｓ０１	構造設計標準仕様	Ｅ０５	1･2階　電灯設備図
Ｄ０６	仕上表・工事概要	Ｓ０２	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ構造配筋標準図１		
Ｄ０７	平面詳細図	Ｓ０３	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ構造配筋標準図２	Ｍ０１	機械設備工事　特記仕様書
Ｄ０８	屋根伏図・面積表	Ｓ０４	鉄骨構造標準図１	Ｍ０２	配置図
Ｄ０９	立面図・断面図	Ｓ０５	鉄骨構造標準図２	Ｍ０３	衛生設備器具表・空調設備器具表
Ｄ１０	矩計図	Ｓ０６	ﾍﾞｰｽﾊﾟｯｸ柱脚工法標準図	Ｍ０４	平面図(衛生)
Ｄ１１	階段詳細図	Ｓ０７	ﾃﾞｯｷ合成ｽﾗﾌﾞ設計・施工標準	Ｍ０５	塩ﾋﾞ桝施工詳細図・桝リスト・埋設要領図
Ｄ１２	天井伏図	Ｓ０８	基礎伏図・基礎リスト	Ｍ０６	平面図(冷暖房･換気)
Ｄ１３	建具表	Ｓ０９	梁伏図・軸組図	Ｍ０７	冷媒管保温施工図
Ｄ１４	展開図 1	Ｓ１０	部材リスト・継手リスト		
Ｄ１５	展開図 2	Ｓ１１	鉄骨詳細図		
Ｄ１６	外構図 1・仮設工事				

笛吹市消防団　御坂分団第９部拠点施設新築工事

仕 様 書

Ⅰ　工事概要

敷地所在地	笛吹市御坂町蕎麦塚 628-3
用　　途	消防詰所
構　　造	鉄骨造
階　　数	2階建て
面　　積	1階床面積：48.75㎡　　2階床面積：48.75㎡
	延面積：97.50㎡
工 事 種 類	新築

工事種目　図示の内容全て

Ⅱ　工事範囲

※「3．工事種目」全てを工事範囲とする。

・「3．工事種目」のうち ＿＿＿＿＿＿ の工事範囲は下記表のとおりとする。
　ただし、他の工事種目は全て今回工事範囲とする。

工事種目	範囲
2　仮設工事	工事範囲全て
3　土工事	根切
4　地業工事	砂利
5　鉄筋工事	SD295A・SD345
6　コンクリート工事	普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞ
7　鉄骨工事	SN400B　BCR295　STKR400　SS400
~~8　コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事~~	
9　防水工事	ｼｰﾘﾝｸﾞ
10　石工事	御影石
~~11　タイル工事~~	
12　木工事	床ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ
13　屋根及びとい工事	折板屋根
14　金属工事	軽量間仕切り壁、軽量天井下地
15　左官工事	防水ﾓﾙﾀﾙ
16　建具工事	住宅用ｱﾙﾐｻｯｼ
~~17　カーテンウォール工事~~	
18　塗装工事	鉄骨部OP、内壁吹付け
19　内装工事	床フローリング、壁石膏ﾌﾟﾗｽﾀｰﾎﾞｰﾄﾞ
20　ユニット及びその他の工事	ﾐﾆｷｯﾁﾝ

Ⅲ　建築工事仕様

1. 共通仕様
　(1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（最新版）」（以下、「標仕」という。）による。

2. 特記仕様
　(1) 項目は、番号に ○ 印の付いたものを適用する。
　(2) 特記事項は、○ 印の付いたものを適用する。
　　○ 印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
　　○ 印と ⊗ 印の付いた場合は、共に適用する。
　(3) 特記事項に記載の（　　　）内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。
　(4) 特記事項に記載の（別　　　）は（5.3.7）による別図「各部配筋」の当該項目を示す。
　(5) 製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また（　）内は製品名を示す。
　(6) Ｇ 印は「国等による環境物品等の調達の推進に関する法律」の特定調達品目を示す。

章	項　目	特　記　事　項

① 一般共通事項

① 適用基準等

⊙建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部建築課監修　最新版）
⊙工事写真の撮り方（改訂第二版）建築編（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）

② 工事実績情報の登録

※適用する　(1.1.4)

3 品質計画

・建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は次による。　(1.2.2)
　※風速（Vo＝　　　　）
　※地表面粗度区分（　・Ⅰ　・Ⅱ　・Ⅲ　・Ⅳ）
　・積雪区分　建告示第1455号　別表（　）

④ 電気保安技術者

工事現場におく電気保安技術者は、電気事業法に基づく電気主任技術者の職務を補佐し、電気工作物の保安の業務を行うものとする。　(1.3.3)
⊙要　　・不要

5 条件明示項目

工事着手については監督職員と協議し着手する。　(1.3.5)

平成25年
3月　4　5　6　7　8　9　10　11　12　1　2　3　4月

⑥ 発生材の処理等

※現場説明書による　⊙構外搬出適切処理　(1.3.8)

⑦ 建築材料等

本工事に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、ＪＩＳ及びＪＡＳマークの表示のない材料及びその製造者等は、次の（１）～（６）の事項を満たすものとする。
　(1) 品質及び性能に関する試験データが整備されていること
　(2) 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること
　(3) 安定的な供給が可能であること
　(4) 法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること
　(5) 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること
　(6) 販売、保守等の営業体制が整えられていること

なお、これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外部機関（（社）公共建築協会　他）が発行する資料等の写しを監督職員に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りではない。

また、備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監督職員の承諾を受ける。

⑧ 化学物質を放散する建築材料等

建築材料の使用制限

建築材料等について、規制の対象となる範囲は下地、仕上げ材共にＦ☆☆☆☆または規制対象外の建材を用いることとし、該当する材料が無い場合は監督職員の承諾を受けＦ☆☆☆のものを採用するを含む）を使用すること。

9 特別な材料の工法

標仕に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。

⑩ 技能士

(1.5.2)

適用工事種別	技能検定の職種
鉄筋工事	⊙鉄筋施工（鉄筋組立て作業）
コンクリート工事	⊙型枠施工
鉄骨工事	⊙とび
ブロック・ALCパネル工事	・ブロック建築　・ALCパネル施工
防水工事	・アスファルト防水工事作業　・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塗膜防水工事作業　・シーリング防水工事作業
石工事	⊙石材施工（石張り施工）
タイル工事	・タイル張り
木工事	⊙建築大工
屋根及びとい工事	⊙建築板金（内外装板金作業）
金属工事	⊙内装仕上げ施工（鋼製下地工事作業）
左官工事	⊙左官
建具工事	⊙サッシ施工　⊙ガラス施工　・自動ドア施工
カーテンウォール工事	・カーテンウォール施工　・サッシ施工　・ガラス施工
塗装工事	⊙塗装（建築塗装作業）
内装工事	⊙プラスチック系床仕上げ工事作業 ⊙ボード仕上げ工事作業　・表装（壁装作業）
植栽工事	・造園

11 電子納品

・工事関係図書を電子納品すること

・書面による署名及び捺印の取り扱い（電子成果物の原本性保証に関する処置）
　電子納品の導入にあたっては、従来の署名または捺印に代わる措置として、
　電子署名の導入が求められるが、電子署名の導入は現時点では困難であるため、
　1）　受注者は電子媒体の内容の原本性を照明するために、電子媒体に署名又は捺印の上、提出する。
　2）　共通仕様書に基づく各書面に対する署名又は捺印は、上記１）の措置を持って代えることができる

・設計図CADデータ貸与する。

・設計図CADデータの著作権は以下の者にある
　貸与するCADデータを当該工事における施工図面又は完成図の作図のため以外に使用してはならない。

12 化学物質の濃度測定

(1.5.9)

施工完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンの５物質について測定し、厚生労働省で定める指針値以下の濃度であることを確認し、測定結果報告書を監督員に提出すること。（測定結果が指針値を超えた場合は、発生源を特定し、換気などの措置を講じた後、再度測定を行う。）

測定対象科学物質	厚生労働省の指針値（25℃の場合）
ホルムアルデヒド	0.08 ppm（　100μg／㎥）
トルエン	0.07 ppm（　260μg／㎥）
キシレン	0.20 ppm（　870μg／㎥）
エチルベンゼン	0.88 ppm（3,800μg／㎥）
スチレン	0.05 ppm（　220μg／㎥）

測定はパッシブ型採取機器により行う。
着工前の測定　・行う
測定対象室　・図示　・　全居室
測定箇所数　・図示　・　１２箇所
測定結果の報告

⑬ 完成図等

⊗作成する　・作成しない　(1.7.1～3)（表1.7.1）
　⊗完成図　提出部数　※各2部　・　部（A3版第2原図及び電子媒体（CD-R））
　⊗施工計画書　提出部数　※2部　・　部
　⊗施工図　提出部数　※2部　・　部
　※保全に関する資料　提出部数　※1部　・　部

⑭ 完成写真

下記のものを監督職員に提出する。ただし、原板は撮影業者の保管とする。

分類・規格	撮影箇所数	提出部数	原板の大きさ（mm）
⊙カラー　※キャビネ版　⊙サービス版	外部（７）内部（各室４）	※2　⊙1	※100×125以上
・カラー半切木製パネル　324×400（mm）	外部（　）内部（　）	※ 2	
・電子データ	外部（　）内部（　）	※ 2	※200万画素以上 ※300dpi以上

100×125以上の原板を使う場合は、監督職員にあらかじめべた焼を提出し確認を受ける。
電子データは、RGB（フルカラー）、JPEG形式最高画質とし、CD-Rにて提出とする。
撮影業者　※監督職員の承諾する撮影業者（ただし、建築完成写真撮影の実績のある業者とする）

⑮ 設備工事との取合い

設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。

⑯ 設計ＧＬ

図面指示ＧＬを設計ＧＬとする

⑰ 工事写真

・「営繕工事電子納品要領（案）（平成14年11月改訂版）」による。

② 仮設工事

1 監督職員事務所

※設ける　(2.3.1)
　規模　・１号　・２号　・３号　・４号　・５号
⊙設けない
・備品（必要備品は適宜設置）

② 工事用水

構内既存の施設　(2.3.1)
・利用できる（　※有償　・無償　）⊗利用できない

③ 工事用電力

構内既存の施設　(2.3.1)
・利用できる（　※有償　・無償　）⊗利用できない

③ 土工事

① 埋戻し及び盛土

種別　・Ａ種　⊗Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　(3.2.3)（表3.2.1）
　・建設汚泥から再生した処理土　Ｇ

② 建設発生土の処理

※現場説明書による　(3.2.5)
・構外搬出適切処理　・構内指示の場所にたい積　⊙構内指示の盛土に利用する

4 地業工事

1 既製コンクリート杭地業

種類　(4.3.1～2)
　※高強度プレストレストコンクリート杭

	杭径（mm）	杭長（m）及び種別	継手数	セット数	備考
試験杭					
本　杭					

杭頭の処理　※切断しない　・　(4.3.7)
先端部形状　※開放形　・閉そく平たん形　(4.3.2)
杭の継手　建築基準法に基づく指定又は認定を受けた継手を使用してもよい。　(4.3.6)
施工法　(4.3.3～5)
　・特定埋込み杭工法
　　工法　・プレボーリング拡大根固め工法　・中堀拡大根固め工法
　　H13国交告1113号第6による支持力算定式でα=250程度を採用できる工法
　　杭周固定液　・使用する
セメントの種類　6章コンクリート工事のセメントの種類による

2 場所打ちコンクリート杭地業

コンクリートの種別及び設計基準強度　(4.5.3)（表4.5.1）
　（　　）種かつ（　　）N/mm²以上
鉄筋の種類　5章鉄筋工事の鉄筋の種類による　(4.5.3)
堀削工法　・アースドリル工法（・安定液使用　・無水堀削）　(4.5.4)
　・リバース工法
　・オールケーシング工法（孔内の水張　・行う　・行わない）
　・場所打ち鋼管コンクリート杭工法　(4.5.5)
　・拡底杭工法（※安定液使用　・　　　）
側壁測定　・行う（　　　　）　・行わない　(4.5.4)
セメントの種類　6章コンクリート工事のセメントの種類による

③ 砂利地業

⊗再生クラッシャラン　Ｇ　・切込み砂利及び切込み砕石　(4.6.3)

4 床下防湿層

施工箇所　※建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下（ピット下を除く）　(4.6.6)

⑤ 鉄筋工事

① 鉄筋の種類

(5.2.1)（表5.2.1）

種類の記号	呼び名（mm）
・SD295A	※D16以下　・
・SD345	※D19以上　・

② 鉄筋の継手

呼び名19mm以上の柱、梁の主筋　※ガス圧接　・重ね継手　⊙継手を設けない　(5.3.4)

③ 鉄筋の最小かぶり厚さ

最小かぶり厚さは目地底から算定する。　(5.3.5)
・耐久性上不利な箇所の鉄筋の最小かぶり厚さは下表による。

施工箇所	標仕表5.3.6の値に加える寸法（mm）
・柱、梁、壁及び庇などの外気に接する打放し面	※10　・

4 既製コンクリート杭の杭頭補強

・Ａ形　・Ｂ形　※図示　(5.3.1)（別1.1）

5 最上階柱頭補強

※行う　・行わない　(別2.1)

6 帯筋

※Ｈ形（□は除く）　(別2.2)

7 壁開口部の補強

一般壁　・Ａ形　※Ｂ形　・図示　(別4.2)（別表4.3～4）
耐震壁　※図示

8 梁貫通孔の補強形式

※Ｈ形　・ＭＨ形　・Ｍ形　(別7.1)（別表7.1～3）

9 機械吊上げ用フック

・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種（　　ヶ所）　(別7.3)

10 圧接完了後の試験

※超音波探傷試験　・引張試験　(5.4.9)

⑥ コンクリート工事

① 普通コンクリートの設計基準強度

(6.1.4)

設計基準強度Ｆｃ（N/mm²）	施工箇所
⊗ 18	基礎捨てｺﾝｸﾘｰﾄ
⊙ 21	基礎・土間・2F床

② レディーミクストコンクリートの類別

⊗Ⅰ類　・Ⅱ類　(6.1.5)（6.4.1～2）（表6.1.1）

③ スランプ

18cm　(6.2.3)

④ セメントの種類

(6.3.2)（6.13.2）（6.16.2）（表6.3.1）
⊗普通ポルトランドセメント又は混合セメントのＡ種
・高炉セメントＢ種　Ｇ　（・　　　　）

普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。

水和熱	7ｄ	352Ｊ/ｇ以下
	28ｄ	402Ｊ/ｇ以下

⑤ 骨材の種類

アルカリシリカ反応による区分　(6.3.3)（6.5.4）
※Ａ
・Ｂ（※コンクリート中のアルカリ総量Ｒｔ＝3.0kg/m³以下）

⑥ 混和材料

混和材　仕様箇所　屋外タタキ部分を除く全体：コンクリート躯体防水剤
　躯体軸部：高性能AE減水材

7 無筋コンクリート

設計基準強度　※18N/mm²　(6.14.3)

8 コンクリート躯体表面の処理

外装タイル後張り面の躯体表面の処理
　MCR工法を行う場合は、せき板面にMCR工法用気泡ポリエチレンシート張りとし、仕上がり面凹凸状態とする。高圧水洗工法の目荒しを行う場合は、水圧50N/mm²以上かつ、2.5分/m²以上とし、施工計画書を監督に提出し承諾を受ける。また、目荒しの状態は、事前に監督職員に承諾を受ける。

コンクリートの増打ち厚さ　※20mm

※施工範囲は図示による。

9 断熱材兼用型枠

適用及び適用個所について
　標仕19章内装工事14断熱材による。

⑦ 鉄骨工事

① 鉄骨の製作工場

製作工場の加工能力 (7.1.3)

⊙監督職員の承諾する製作工場

⊙建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた（株）日本鉄骨評価センター又は（社）全国鐵構工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「（ R ）グレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場。

入熱、パス間温度の溶接条件

適用箇所　・図示　　・柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部

鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件

※図示　　　　・

② 施工管理技術者

適用する (7.1.4)

③ 鋼材

鋼材の材質 (7.2.1) (7.2.10) (表7.2.1)

種類の記号	使用箇所	規格等
ＢＣＲ295	柱	※ＪＩＳ規格による
ＳＴＫＲ400	間柱	※ＪＩＳ規格による
ＳＳ400	梁	※ＪＩＳ規格による
ＳＮ490Ｃ	通しダイヤ	※ＪＩＳ規格による
ＳＳＣ400	胴縁	※ＪＩＳ規格による

④ スカラップ

改良型スカラップ

⑤ エンドタブ

鋼製エンドタブ

切断する個所（　　　　　　　　　　　）

⑥ 高力ボルト

⊗トルシア形高力ボルト　・JIS形高力ボルト　・溶融亜鉛めっき高力ボルト (7.2.2) (7.12.4)

⑦ 溶接部の試験

AOQL　⊗100%　・2.5% (7.6.11)

検査水準　※第6水準　・図示 (7.6.11) (表7.6.2)

試験の種別	試験箇所	試験方法
⊗超音波探傷試験	完全溶込み溶接部	※標仕7.6.11 (b) による ・図示
・放射線試験		
・マクロ試験		

8 耐火被覆

(7.9.2～7)

種　別		所要性能及び適用構造部位
・ラス張りモルタル塗り		
・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール ・半乾式吹付けロックウール	
	・湿式ロックウール	
・耐火板張り		

⑨ アンカーボルトの保持及び埋込み工法

⊙構造用アンカーボルト　（⊗図示　　・　　　　）

・建方用アンカーボルト　（・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種） (7.10.3) (表7.10.1)

⑩ 柱底均しモルタル工法

※Ａ種　・Ｂ種　⊙ﾍﾞｰｽﾊﾟｯｸﾒｰｶｰ仕様 (7.2.9) (7.10.3) (表7.10.2)

無収縮モルタル

混和材	セメント系（酸化カルシウム及びカルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するもの）とする。
セメント	JIS R 5210（ポルトランドセメント）による普通または早強ポルトランドセメントとする。
砂	土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。
配合比	（各重量比） （セメント＋混和材）：砂＝1：1

無収縮モルタルの品質及び試験方法

コンシステンシー	Ｊロートによる流下時間 練混ぜ完了から3分以内の値は　8±2秒
ブリージング	練り混ぜ2時間後のブリージング率　：　2.0%以下
凝結時間	凝結開始時間　1時間以上 終結時間　10時間以内
無収縮性	材齢7日　収縮しないこと
圧縮強度	材齢3日　25.0N/mm²以上 材齢28日　45.0N/mm²以上
付着強度	材齢28日　3.0N/mm²以上
塩化物量	0.30kg/m³以下
試験方法	1）日本道路公団規格（ＪＨＳ）「無収縮モルタル品質管理試験方法」312-1992による。 2）塩化物量は、JIS A 5308「レディミクストコンクリート」付属書5（規定）「フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験方法」による。

11 溶融亜鉛めっき工法

(7.12.3) (表14.2.2)

亜鉛めっきの種別	材　料	適用部位
A種	最低板厚6.0mm以上の形鋼、鋼板	
B種	最低板厚3.2mm以上、6.0mm未満の形鋼、鋼板	
C種	普通ボルト、アンカーボルト 最低板厚2.3mm以上、3.2mm未満の形鋼、鋼板	

素地ごしらえは、JIS H 9124溶融亜鉛めっき作業指針による。

8 コンクリートブロック・ＡＬＣパネル・押出成形セメント板工事

1 補強コンクリートブロック造

※空洞ブロック16　・空洞ブロック16－W (8.2.2)

2 コンクリートブロック帳壁及び塀

※標仕表8.3.1及び下表による (8.3.2)

適用箇所			厚さ (mm)
・間仕切壁　・地下二重壁　・外壁			・
・塀	高さ	２m以下	・120
		２mを超える	・150
・衛生配管用裏積みブロック			・100 ・

3 ＡＬＣパネル

(8.4.2～5) (表8.4.2～4)

種　類	単位荷重 (N/m²)	厚さ (mm)	取付け工法種別
・外壁パネル	・1180　・1960	※100　・	・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種
・間仕切壁パネル		※100　・	・Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　・Ｅ種
・屋根パネル	・980	※100　・	※標仕8.4.6による
・床パネル	・2350　・3530	・100　・150	

・床パネルの耐火性能（・1時間　・2時間）

4 押出成形セメント板 (ECP)

(8.5.2～4) (表8.5.1～2)

種　類	表面形状	厚さ (mm)	幅 (mm)	工法種別
・外壁パネル	※Ｆ　・Ｆ－Ｒ			・Ａ種 ・Ｂ種
	・Ｄ　・Ｄ－Ｒ			
	・Ｔ　・Ｔ－Ｒ			
・間仕切パネル	※Ｆ　・Ｆ－Ｒ			・Ｂ種 ・Ｃ種
	・Ｄ　・Ｄ－Ｒ			
	・Ｔ　・Ｔ－Ｒ			

耐火性能　・有り（　　　　）

・無し

⑨ 防水工事

1 アスファルト防水

(9.2.2～3) (表9.2.3～8)

種　別	施工箇所
※ＡＩ－２	
・Ａ－２	
・Ｄ－２	
・ＢＩ－２	床型枠用鋼製デッキプレートを使用したコンクリートスラブ

アスファルト　※３種　・４種 (9.2.2)

断熱工法の断熱材　厚さ (mm)　※25　・

ただし、特定フロンを含まないもの。

立上り部の保護

・乾式保護材　※押出成形セメント板（厚さ　15mm） (9.2.5)

2 改質アスファルトシート防水

(9.3.2～3) (表9.3.1)

種　別	・ＡＳ－１　・ＡＳ－２	厚　さ	（　　　）
施工箇所			

3 合成高分子系ルーフィングシート防水

(9.4.2～3) (表9.4.1)

種　別	厚さ (mm)	施工箇所	仕上げ塗料塗り	使用分類
・Ｓ－Ｆ１	※1.2　・1.5		・シルバー	※非歩行 ・軽歩行
⊙Ｓ－Ｆ２	※2.0　⊙1.5	屋上	⊙カラー	
・Ｓ－Ｍ１	※1.5　・			
・Ｓ－Ｍ２	※1.5　・			
・Ｓ－Ｍ３	※1.2　・			

4 塗膜防水

(9.5.2～3) (表9.5.1～2)

種　別	施工個所	備　考
・Ｘ－１		仕上げ塗料塗り ・シルバー ・カラー
・Ｘ－２		
・Ｙ－１		Ｙ－２工法の保護シート ※適用する　・適用しない
・Ｙ－２		

脱気装置

・設ける　材質（　　　　）　設置数量（　　　m²当たり１箇所）

⑤ シーリング

下表以外は、標仕表9.6.1による (9.6.2) (表9.6.1)

施工箇所	シーリング材の種類（記号）
外壁廻り	変成シリコン

⑩ 石工事

① 天然石張り

石の種類・表面仕上げ (10.2.1) (表10.2.1～2)

施工箇所	種　類	産地・名称	厚さ (mm)	仕上げの種類
２階玄関 框	御影	県内	４５*４５	本磨き
２階玄関 巾木	御影	県内	３０*１００	本磨き

2 テラゾ張り

種石の種類　※大理石　・ (10.2.1) (表10.2.2)

表面仕上げ　※本磨き　・

形状・寸法　※図示

3 壁の石張り工法

外壁石張り (10.3.2～3) (10.5.2～3)

工法

・外壁湿式工法（※流し筋工法　・　　　　　）

・乾式工法

石裏面処理　・行う（・小口共）

裏打ち処理　・行う

ドレインパイプ　※ステンレスSUS304　・

内壁石張り (10.4.2～3) (10.5.2～3)

工法

・内壁空積工法（※あと施工アンカー横筋流し工法　・あと施工アンカー工法）

・乾式工法

裏打ち処理　・行う

4 床及び階段の石張り

床石張りの裏面処理　・行う (10.6.2)

屋内のワックス掛け　・行う (10.1.5)

11 タイル工事

1 陶磁器質タイル

タイルの種類 (11.2.1)

施工箇所	形状寸法 (mm)	きじ 磁器	きじ せっ器	きじ 陶器	うわぐすり 施ゆう	うわぐすり 無ゆう	役物 あり	役物 なし	色 標準	色 特注	再生材の適用 G	備考
												段鼻

役物：標準的な曲がり（小口、標準、二丁、屏風）の役物は一体成形とする

タイルの見本焼き　※行わない　・行う（※外壁タイル　・　　　　　）

2 張り付け用材料

既成調合モルタル（仕上げ表の仕様により合成樹脂を添加する）

保水率 (%)	単位容積質量 (kg/l)	接着強さ (N/mm²) 標準時	接着強さ (N/mm²) 温冷繰返し後	長さ変化率 (%)	曲げ強さ (N/mm²)
70.0以上	1.80程度	0.60以上	0.40以上	0.20以下	4.0以上

接着剤のホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・第三種 (11.2.3)

3 壁タイル張りの工法

内装タイル　※壁タイル接着剤張り　・積上げ張り (11.3.3) (表11.3.2)

外装タイル　※密着張り　・マスク張り

躯体表面の処理　・行わない　※行う（施工範囲　※図示　・　　　）

躯体表面の処理方法　ＭＣＲ工法又は目荒し工法（６章コンクリート工事）

下地モルタル塗り　※標仕15.2.2～15.2.5（仕上げ表の仕様により合成樹脂を添加する）

タイルの試験張り　※行わない　・行う（※外壁タイル　・　　　） (11.2.1)

4 陶磁器質タイル型枠先付け工法

(11.2.2) (11.4.2) (表11.4.1)

種　別	適用タイル	タイル型枠先付け面のせき板
※タイルシート法	・小口タイル	※標仕6.9.3［材料］(b) (2) 又は 金属製タイル先付け用パネル
・目地桝工法	・二丁掛タイル	
・桟木法	大型タイル	

⑫ 木工事

1 木材の品質

※標仕12.2.1　・市販品 (12.2.1)

・保存処理木材を適用する箇所（　　　　　　　　）

2 樹種

※標仕表12.2.3による (12.2.1) (表12.2.3)

・代用樹種を適用しない箇所（ 県産材指定箇所　　　　　）

3 集成材等 G

(12.2.2)

品　名	規格・品質	芯材の種類	化粧単板の樹種
※集成材	※一般材	・たも　・なら　・しおじ	
・構造用集成材	・１種　※２種　・３種	・	
・造作用集成材	※１等　・２等	・	
・化粧ばり造作用集成材	※１等　・２等	・	・

ホルムアルデヒドの放散量　※規制対象外　・第三種

④ 接着剤

接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。 (12.2.6)

ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤（以下、「ユリア樹脂等」という）を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量

⊗規制対象外　・第三種

5 防腐・防蟻処理

行う箇所（　　　　　　　　）

防腐処理　※行う（※図示　・　　　　） (12.2.8)

防蟻処理　・行う（※図示　・　　　　） (12.2.9)

防腐、防蟻処理の種類、品質

表面処理用木材保存剤（防腐・防蟻剤）は監督職員の承諾するものとする。

6 床板張り

フローリング及び縁甲板張り床 (12.7.1) (表12.7.1)

下張り用床板	※無し		
	・有り	※合板張り	ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外　・第三種
		・板張り	
床板	※単層フローリング（標仕19.5.2による）		ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外　・第三種
	・縁甲板		※ひのき　・

⑬ 屋根及びとい工事

1 長尺金属板葺

(13.2.2～3) (表13.2.1)

屋根葺形式	長尺金属板の種類	板厚 (mm)
・段葺き	※塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯（CGLCCR-20-AZ150）	※0.4

② 折板葺

(13.3.2～3) (表13.2.1)

形　式	※重ね形　⊙はぜ締め形　・かん合形
形状 (mm)	山高（　155　）　山ピッチ（　500　）　板厚※0.6　⊙0.8
材　料（規格等）	※塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯（CGLCCR-20-AZ150） ⊙カラーガルバリウム鋼板
軒先面戸板	⊗有り　・無し
断　熱　材	⊗有り（種別：　　　　厚さ：　　mm）　・無し
耐火性能	※30分耐火　⊙無し

③ とい

材　種　※配管用鋼管　⊙硬質塩化ビニル管 (13.5.2) (表13.5.1)

・ステンレスJIS G4305　G

・既存使用

鋼管製といの防露　※標仕表13.5.5による (13.5.3) (表13.5.5)

防露材のホルムアルデヒド放散量

※規制対象外　・第三種

掃　除　口　※有り　・無し

⑭ 金属工事

① ステンレスの表面仕上げ

(14.2.1)

種　類	施工箇所
⊗ＨＬ程度	下記以外の見え掛かり全て
・No.２Ｂ程度	
・鏡面仕上げ	

2 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

(14.2.2) (表14.2.1)

種　別	施工箇所
・Ｂ－１種（無着色）	
・Ｂ－２種（・ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー）	

3 鉄の亜鉛めっき

(14.2.3) (表14.2.2)

表面処理方法	種　別	施工箇所
溶融亜鉛めっき	・Ａ種	
	・Ｂ種	
	・Ｃ種	
電気亜鉛めっき	・Ｄ種	
	・Ｅ種	
	・Ｆ種	

4 金属成形板張り

(14.6.2) (表14.2.1)

形　状	製　法	材　種	寸法 (mm)	厚さ (mm)	表面処理
・スパンドレル形	・押出し ・ロール	※アルミニウム製			・Ｂ－１種 ・Ｂ－２種（　　）
・パネル形	※プレス				

伸縮調整継手　※設けない　・設ける（施工箇所は図示）

5 アルミニウム製笠木

(14.7.2) (表14.2.1) (表14.7.1)

種　類	呼称肉厚 (mm)	表面処理	固定間隔	備　考
・250形	1.6以上	※Ａ－１又はＢ－１種 ・Ｂ－２種（　　）	固定方法及び間隔は品質計画で定めたもの	隅角部及び突当たり部等の役物は本体製造所の仕様による。
・300形	1.8以上			
・350形	2.0以上			
・100形				

6 手すり及びタラップ

(14.2.1) (14.8.2～3) (表14.2.2)

種　類	材料の種別	表面処理
手すり	※ステンレスSUS304	※ＨＬ程度　・鏡面程度　・
	・既製品	亜鉛めっき　外部　※Ｃ種　・ 内部　※Ｅ種　・
	※ステンレスSUS304	※研磨無し　・
	・鉄	亜鉛めっき　内外部　※Ｃ種 ・

⑮ 左官工事

① モルタル塗り材料

吸水調整材 (15.2.2)

全固形分 (%)	吸水量 (g)	接着強度 (N/mm²)	界面破断率 (%)
表示値±1.0	30分で1g以下	0.98以上	50以下

均質で有害と認められる異物の混入がないこと。

防水剤（防水モルタル塗りの混入剤） (15.2.2)

防水剤の種類　建築用のモルタルに用いるセメント防水剤

混合割合	凝結時間	曲げ及び圧縮強度比	吸水比	透水比
セメント重量の5%以下	JIS R 5201の試験において 始発　1時間以上 終結　10時間以内	70%以上	95%以下	80%以下

膨張性のひび割れ及びそりがないこと。

② 床コンクリートの直均し仕上げ

下表以外は標仕表6.2.4及び標仕15.3.2による (表6.2.4) (15.3.1～2)

施工箇所	平たんさ (mm)	備　考
	1mにつき10以下	
	3mにつき7以下	

3 仕上塗材仕上げ

(15.5.2) (表15.5.1)

種　類	呼び名	仕上げの形状等
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Ｓｉ	
	・可とう形外装薄塗材Ｓｉ	
	・外装薄塗材Ｅ	・砂壁状　・着色骨材砂壁状
	・内装薄塗材Ｅ	・砂壁状じゅらく　・ゆず肌状
	・可とう形外装薄塗材Ｅ	・砂壁状　・ゆず肌状　・さざ波状
	・防水形外装薄塗材Ｅ	・ゆず肌状　・さざ波形　・凹凸状
	・外装薄塗材Ｓ	砂壁状
	・内装薄塗材Ｃ	
	・内装薄塗材Ｌ	
	・内装薄塗材Ｓｉ	
	・内装薄塗材Ｗ	京壁状じゅらく
・複層仕上塗材	・複層塗材ＣＥ ・可とう形複層塗材ＣＥ ・複層塗材Ｓｉ ・複層塗材Ｅ ※複層塗材ＲＥ ・複層塗材ＲＳ ・防水形複層塗材ＣＥ ・防水形複層塗材Ｅ ・防水形複層塗材ＲＥ ・防水形複層塗材ＲＳ	・ゆず肌状　・凸部処理　※凹凸模様 耐候性　※3種　・ 上塗材 溶媒　※水系　・溶剤系 樹脂　※アクリル系 ・ 外観　※つやあり　・つやなし ・メタリック 防水形の増塗材　※行う
・軽量骨材仕上塗材	・吹付用軽量塗材	砂壁状
	・こて塗用軽量塗材	平たん状

建物内部に使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量

※規制対象外　・第三種

防火材料の指定

※屋内の壁、天井の仕上げ材は防火材料とする。

摘要		設　計	承　認	縮　尺
1 2 3 4				設計年月日

工事名称　笛吹市消防団　御坂分団第９部拠点施設新築工事

図面名称　特記仕様書　Ｎｏ２

NO　D-02

⑯ 建具工事

1 見本の製作等

・特殊な建具の仮組（建具符号：　　　　）　(16.1.4)

② アルミニウム製建具

外部に面する建具　(16.2.2)（16.2.4）（表16.2.1）

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み（mm）	施工箇所
・A種	S－4	※A－3	※W－4	※70	※図示　・
・B種	S－5				※図示　・
・C種	S－6	A－4	W－5	100	※図示　・

断熱等級・H－3以上 < 0.287m2・k／W以上 >

枠・障子 ： 100見込つらいち枠　枠障子断熱構造　断熱サッシアンカー　結露受けアングル
ガラス溝幅34mm以上

ガラス ： 【居室】FL6（low-E）＋A12＋FL6（一部FW6.8）　【非居室】FL6＋A12＋FL(F)6

表面処理　※B－1種　・B－2種（・ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー）　(表14.2.1)

屋内建具
表面処理　※C－1種又はB－1種　(表14.2.1)
・C－2種又はB－2種（・ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー）

③ 網戸

防虫網　(16.2.3)
網の種別　⊗ガラス繊維入り合成樹脂製　・合成樹脂製　・ステンレス製（SUS316）
形式　※外部可動式　・固定式

4 鋼製建具

簡易気密型ドアセットの適用は建具表による　(16.3.2)（表16.3.1）
耐風圧性の適用は建具表による
特定防火設備の戸　・適用あり

5 鋼製軽量建具

簡易気密型ドアセットの適用は建具表による　(16.4.2)

6 ステンレス製建具

簡易気密型ドアセットの適用は建具表による
耐風圧性の適用は建具表による
表面仕上げ　※HL程度　・鏡面仕上げ　・　(16.5.4)
曲げ加工　※普通曲げ　・角出し曲げ（補強あり）　(16.5.5)
特定防火設備の戸　・適用あり　(表16.5.1)

7 自動ドア開閉装置

(16.8.2～3)（表16.8.1～3）

開閉方法	センサの種類
※スライディングドア ・スイングドア	・マットスイッチ　・電子マットスイッチ ※光線スイッチ　・音波スイッチ ・熱線スイッチ　・光電スイッチ

・凍結防止措置（適用箇所は建具表による）

8 自閉式上吊り引戸装置

品質規格　※標仕表16.9.1による　(16.9.2～3)
・製造所標準仕様による

9 木製建具

かまち戸の樹種　かまち（　　　）　鏡板（　　　）　(16.6.2)

ふすまの上張り　(表16.6.3)
※新鳥の子又はビニル紙程度（押入等の裏面は除く）　・鳥の子
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒドの放散量　(16.6.2)
※規制対象外　・第三種

10 建具用金物

マスターキー　※製作する　・製作しない　(16.7.4)
建具用金物　(16.3.6)（16.4.6）
錠類はシリンダー箱錠（レバーハンドル）とする
なお、錠前類は建具製作所の指定するものとし、監督職員の承諾を受ける　(16.7.2)
吊金物
・丁番（内部建具については、軸を鉄芯としてもよい）
・ピボットヒンジ
・フロアヒンジ

⑪ ガラス

※建具表による　(16.13.2)
・ガラスブロック　標仕16.13.5による　(16.13.5)

表面形状	呼び寸法（mm）	厚さ（mm）	色調	防火性能
・正方形 ・長方形			※クリア	※無し ・有り

⑫ ガラス留め材及び溝

ガラス留め材　(16.13.2)（表9.6.1）

建具の種類	材種
アルミニウム製	※シーリング材　⊙ガスケット（FIX部はシーリング材）
鋼製及び鋼製軽量	※シーリング材
ステンレス製	※シーリング材

防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能を有するものとする。
板ガラスをはめ込む溝の大きさ　(16.13.3)
標仕16.13.3 以外のアルミニウム製建具及び板ガラスの場合は（社）日本建築学会JASS 17ガラス工事「3.1納まり寸法標準」によるほか、性能値が確認できる資料を監督職員に提出する

13 ガラス用フィルム

名称	種類	張り面	性能値
※ガラス飛散防止フィルム	第2種	※内張り　・外張り	飛散防止率　D１

品質　JIS A 5759による

14 重量シャッター

(16.10.2)

シャッターの種類	
・一般重量シャッター	耐風圧性能（　　　）N/m²
・外壁用防火シャッター	耐風圧性能（　　　）N/m²
・屋内用防火シャッター	
・屋内用防煙シャッター	

開閉機能　※上部電動式（手動併用）　・上部手動式　(16.10.2)（表16.10.1）

危害防止機構
※障害物感知装置（自動閉鎖型）
・シャッターの二段降下方式
一般重量シャッターのシャッターケース　※設ける　・設けない　(16.10.2)

15 軽量シャッター

開閉形式　※手動式　・上部電動式（手動併用）　(16.11.2)（表16.11.1）

スラット　材質　※塗装溶融亜鉛めっき鋼板　・鋼板　(16.11.3)
形状　※インターロッキング形　・オーバーラッピング形　(16.11.4)
ガイドレール等　※鋼板製　・ステンレス製SUS304（厚さ1.5mm）　(表16.11.2)
耐風圧性能　（　　　）N/m²

⑯ オーバーヘッドドア

(16.12.2～3)

セクション材料	開閉方式	収納形式	ガイドレール
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ⊙ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	・溶融亜鉛めっき鋼板 ※ステンレス鋼板（SUS304）

耐風圧性能　（　　　）N/m²

17 カーテンウォール工事

1 メタルカーテンウォール

設計図書による規定の他、特記無き事項は（社）日本建築学会JASS14による。
カーテンウォール材料の種類　(17.2.2)

種類	規格等
※アルミニウム製	※標仕16.2.3のアルミニウム製建具の材料による

カーテンウォール方式
・方立方式
・バックマリオン方式（・単純２辺支持構法　・ＳＳＧ構法）
・スパンドレル方式
・パネル方式
・小型パネル組み合わせ方式（・ノックダウン方式　・ユニット方式）
シーリング材及びガラス取付け材料
下記以外は標仕表9.6.1による　(9.6.2)（17.2.2）（表9.6.1）

被着体の組合せ		記号	主成分による区分	耐久性による区分
		シーリング材の種別		
金属	ガラス			
金属	石、タイル			
ガラス	ガラス			

構造用ガスケット　※適用しない　(17.2.2)
・適用する（施工箇所：図示　　　）
断熱材　※適用しない　(17.2.2)
・適用する（種類：　厚さ（mm）　：施工個所※図示　）
製品の寸法許容差　※標仕表17.2.1による　(17.2.3)（表17.2.1）
・製造所標準製作規定寸法許容差による
アルミニウムの表面処理　(17.2.3)（表14.2.1）

種別		色彩等
・A－１種	・B－１種	無着色
・A－２種	・B－２種	※ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー　・
・着色塗膜	塗装材料（　　　）焼付け方法（　　）コート（　　）ベーク	

耐風圧性能　(17.1.3)
性能値　※建築基準法施行令第87条及び建設省告示第1454号に定められた風圧力に対して安全であること。
・正圧　N/m² 以上及び負圧　N/m² 以上に対して安全であること。
主要部材のたわみ

支点間距離（h）	たわみ量	状態
※4m以下	※±（1/150）×h　かつ絶対量20mm以下	※各部の破損、残留変形　有害な変形が起こらないこと
・4mを超える		

耐震性能　(17.1.3)
設計用震度　水平方向（K_H）　※1.0　・
垂直方向（K_V）　※0.5　・

建物の構造種別	層間変位量（h＝支点間距離）	状態
鉄骨造	※±（1/100）×h以上	※部材の脱落、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらない　シーリングは補修程度
鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造	※±（1/200）×h以上	

水密性　・W－4　・W－5　・　(17.1.3)
気密性　・A－3　・A－4　・　(17.1.3)
耐火性能　※適用しない　・適用する（　　時間、施工箇所：図示）
映像調整　※行わない　・行う（建具表による）
製造所　性能等の確認できる資料を提出し監督職員の承諾を受ける

2 PCカーテンウォール

設計図書による規定の他、特記無き事項は（社）日本建築学会JASS 14による。
コンクリートの種類及び品質　(17.3.2)
※標仕17.3.2による
・下表による。ただし、下表以外は標仕17.3.2による。

コンクリートの種類	設計基準強度（Fc）	所要スランプ（cm）

鉄筋　※SD295A　・

取付け用金物の表面処理（鉄の亜鉛めっき）及び材質　(14.2.3)（表14.2.2）

金物種類及び部位	内部	外部
PC版打込み金物	※E種　・	※A種　・
PC版打込み取付けボルト	※E種　・	※ステンレスボルト
2次ファスナー	※E種　・	※A種　・
取付けボルト	※E種　・	※A種　・
レベル調整ボルト	※E種　・	※A種　・

上記以外はカーテンウォール製作所の仕様による

シーリング材料
下記以外は標仕表9.6.1による　(9.6.2)（17.3.2）（表9.6.1）

施工箇所	記号	主成分による区分	耐久性による区分
	シーリング材の種別		
カーテンウォール板間目地			

断熱材　※適用しない
・適用する（種類：　厚さ（mm）　：施工箇所　※図示）
製品の寸法許容差　※標仕表17.3.1による　(17.3.3)（表17.3.1）
・製造所標準製作規定寸法許容差による
表面仕上げ　（　　　）
耐火材料

施工部位	種別	規格等
・ファスナー部		
・取付けブラケット		
・パネル目地部		
・層間ふさぎ		

耐風圧性能　(17.1.3)
性能値　※建築基準法施行令第87条及び建設省告示第1454号に定められた風圧力に対して安全であること。
・正圧　N/m² 以上及び負圧　N/m² 以上に対して安全であること。
耐震性能　(17.1.3)
設計用震度　水平方向（K_H）　※1.0　・
垂直方向（K_V）　※0.5　・

建物の構造種別	層間変位量（h＝支点間距離）	状態
鉄骨造	※±（1/100）×h以上	※部材が損傷せず、破損脱落もしない。ガラス等の破損もない　シーリングは補修程度
鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造	※±（1/200）×h以上	

⑱ 塗装工事

① 材料

屋内の壁、天井仕上げ材は防火材料とする　(18.1.3)
建物内部に使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒドの放散量
※規制対象外　・第三種

② 素地ごしらえ

木部の素地ごしらえの種別（制作工場で行うもの）　(18.2.2)（表18.2.1）
種別　⊗B種　・A種（施工箇所：OSCL OS UC塗装下地）
鉄鋼面の素地ごしらえの種別　(18.2.3)（表18.2.2）
種別　⊗B種　・A種（施工箇所：　　　）

亜鉛めっき面の素地ごしらえの種別　(18.2.4)（表18.2.3）（表18.3.4）

種別	施工部位及び塗料種別
A種	鋼製の建具及び、2液形ポリウレタンエナメル塗り、常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗りの場合
B種	A種、C種以外
C種	下塗りに変成エポキシ樹脂塗料を塗装する場合

せっこうボード及びその他のボード面の素地ごしらえの種別　(18.2.7)（表18.2.7）
種別　⊗B種　・A種（施工箇所：図示による　　　）

3 床用塗料塗り

材質　ウレタン樹脂系塗料（※標準色　・　　）
仕上種別　※平滑仕上げ　・防滑仕上げ
塗布量　プライマー塗りのうえ主剤２回塗りとし、総塗布量は0.5kg/m² 以上とする

4 防塵用塗料塗り

材質　溶剤系エポキシ樹脂塗料（※標準色　・　　）
仕上種別　コーティング（ローラー刷毛塗り）
塗布量　主剤2回塗とし、総塗布量は0.25kg/m² 以上とする。

⑲ 内装工事

① 接着剤

(19.2.2)（19.3.3）
壁紙施工用でん粉系接着剤、ユリア樹脂等を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量
※規制対象外　⊙第三種
※接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。

2 ビニル床シート張り

(19.2.2)

種類	JISの記号	色柄	厚さ（mm）
※発泡層のないもの	※NC　・	※無地　・マーブル柄	※2.5
・発泡層のあるもの		※柄物　・無地	

工法　※熱溶接工法　・突付け（施工箇所：　　　）　(19.2.3)

3 ビニル床タイル張り

(19.2.2)

種類	JISの記号	厚さ（mm）	備考
※コンポジションビニル床タイル（半硬質）	CT	※2	
・コンポジションビニル床タイル（軟質）	CTS		
・ホモジニアスビニル床タイル	HT		

4 帯電防止床タイル張り

(19.2.2)

種類	厚さ（mm）	性能
・コンポジションビニル床タイル	※2　・	体積抵抗値（JIS K 6911による）
・ホモジニアスビニル床タイル	※4.0又は4.5	$1.0X10^{9}$ Ω以下、または、
		漏えい抵抗値（JIS A 1454による）
		$1.0X10^{10}$ Ω未満

⑤ ビニル幅木

高さ（mm）　⊗60　・75　(19.2.2)

6 カーペット敷き

・織じゅうたん　(19.3.3～4)（表19.3.1～2）

種別	パイル形状	色柄等	備考
・A種	・カットパイル	※無地	
・B種	・ループパイル	・柄物（標準品）	
・C種	・カット、ループパイル併用		

耐電性　※人体帯電圧3kV以下　・

・タフテッドカーペット　(19.3.3～4)（表19.3.2）

パイル形状	パイル長（mm）	工法	備考
・カットパイル	※5～7　・	※全面接着工法 ・グリッパー工法	
・ループパイル	※4～6　・		
・レベルループパイル	※4　・		
・カット、ループ併用			

耐電性　※人体帯電圧3kV以下　・

・タイルカーペット　(19.3.3)（表19.3.2）

パイル形状	種類	寸法（mm）	総厚さ（mm）	備考
※ループパイル	※第一種 ・第二種	※500×500	※6.5	
・カットパイル				
・カット、ループ併用				

耐電性　・人体帯電圧3kV以下（フリーアクセスフロア敷設範囲）

7 合成樹脂塗床

(19.4.2～3)（表19.4.1～7）

種別	仕上げの種類
・弾性ウレタン塗床材	※平滑仕上げ　・防滑仕上げ　・つや消し仕上げ
・エポキシ樹脂塗床材	※薄膜流し展べ仕上げ ・厚膜流し展べ仕上げ（※平滑　・防滑） ・樹脂モルタル仕上げ（※平滑　・防滑） ・防滑仕上げ

ユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒドの放散量　(19.4.2)
※規制対象外　・第三種

⑧ フローリング張り

(19.5.2～7)（表19.5.1～4）

種別	樹種	工法	仕上げ塗装等	備考
⊗天然木化粧複合フローリング ・県産材檜フローリング	⊗なら ・ひのき	※釘どめ工法（C種）	⊗塗装品 ・無塗装品	

ホルムアルデヒドの放散量　※規制対象外　・ 第三種　(19.5.2)

9 畳敷き

(19.6.2)（表19.6.1）

下地の種類	畳の種別
標仕表12.5.1による床組	※B種　・
ポリスチレンフォーム床下地	※C種　・

畳表及び畳床はVOC含有量が少ないものとする

⑩ ポリスチレンフォーム床下地材

畳下地　厚さ（mm）　※40　・65　・80
フローリング類　厚さ（mm）　※80　・95
⊗設計図による

⑪ せっこうボードその他のボード張り

(19.7.2)（表19.7.1）

種類	JISの記号	厚さ（mm）、規格等
・硬質木毛セメント板	HW　G	・15　・20　・25　・
・普通木毛セメント板	NW　G	・15　・20　・25　・
⊙けい酸カルシウム板	0.8FK	タイプ2（無石綿）（・6　・8　・　）
・ロックウール化粧吸音板	DR	※フラットタイプ（※9（不燃）・12　・　） ・凹凸タイプ（※12（不燃）・15・19・　）
・ロックウール化粧吸音板（軒天井用）	DR DR（凹凸） DR（軒天） DR（軒天凹凸）	※フラットタイプ 9（不燃） ・凹凸タイプ（※12　・15）（不燃）
⊙せっこうボード	GB－R	⊗12.5（不燃）　⊙9.5（準不燃）
・不燃積層せっこうボード	GB－NC	9.5（不燃）　化粧無（下地張り用） 化粧有（トラバーチン模様）
・シージングせっこうボード	GB－S	12.5（不燃）
・強化せっこうボード	GB－F	12.5（不燃）　15.0（不燃）
・せっこうラスボード	GB－L	9.5
⊙化粧せっこうボード（木目）	GB－D	9.5（不燃）幅440mm程度 模様（※柾目　・板目）　専用下地材付き
・難燃合板	G	・生地、透明塗料塗り（ラワン合板程度） ・不透明塗料塗り（しな合板程度）
・メラミン樹脂化粧板		JIS K 6903による　厚さ1.2
・ミディアムデンシティファイバーボード	MDF　G	・3　・7　・9　・12　・
・単板張りパーティクルボード	G	・無研磨板　・研磨板 ・10　・12　・15　・18　・
・ハードボード（素地）	HB　G	・無研磨板（・スタンダード　・テンパード） ・研磨板（・スタンダード　・テンパード）
・インシュレーションボード	IB　G	A級（・天井仕上　・内装仕上　・　） ・9　・12　・15　・18　・

合板類、繊維板、及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量
※規制対象外　・第三種
軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材
※適用する　・適用しない

12 吸音材

(表19.7.1)

種類	JISの記号	厚さ（mm）
・ロックウール吸音ボード1号	RW－B	※ 25
※グラスウール吸音ボード32K	GW－B	※ 25

⑬ 壁紙張り

(19.8.2)

施工箇所	紙	繊維（織物）	プラ（ビニル）	その他（化学繊維）	無機質	防火性能	備考
	壁紙の種類						
			掲示板			・不燃⊙準不燃・難燃	
						・不燃・準不燃・難燃	
						・不燃・準不燃・難燃	
						・不燃・準不燃・難燃	
						・不燃・準不燃・難燃	
						・不燃・準不燃・難燃	

素地ごしらえ　(表18.2.4)（表18.2.7）
モルタル、プラスター面　※B種　・A種（施工箇所：　　　）
せっこうボード面　※B種　・A種（施工箇所：　　　）
壁紙のホルムアルデヒドの放散量　※規制対象外　・第三種　(19.8.2)

14 断熱材

(19.9.2～3)

種類		施工箇所	厚さ（mm）	品質等
・押出法ポリスチレンフォーム保温板	※２種b	※一般部	※25 ・100	特定フロンを使用しないもの
	※３種b（スキン層付）	・接地部分	※25 ・	
・現場発泡断熱材		※断熱材補修部分	——	特定フロンを使用しないもの 難燃性※３級　・２級
		・一般部	※15 ・40	
		製造所　性能の確認できる資料を監督職員に提出する		
・断熱材兼用型枠	・木質系 ・コンクリート系 ・プラスチック系	※壁（図示の範囲）	※40以下	断熱抵抗＝厚さ/熱伝導率＝0.676以上（m²・k/w）
		製造所　建設技術評価「建築物の断熱材兼用型枠工法の開発」において、評価を取得したもの		

ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材のホルムアルデヒドの放散量　※規制対象外　・第三種

15 浴室天井材

市販品

材質	表面仕上げ	性能	幅（mm）	備考
※アルミニウム製	※焼付け塗装品 ・アルマイト処理品	準不燃品	※200 ・100	回り縁は樋付きとし、製造所の標準品とする。
・硬質塩ビ製	※塗装品 ・木目調		※300 ・100	

摘要
1
2
3
4

設計　承認　縮尺　設計年月日

工事名称　笛吹市消防団　御坂分団第９部拠点施設新築工事
図面名称　特記仕様書　No３
NO　D-03

⑳ ユニット及びその他の工事

1 フリーアクセスフロア

(20.2.2)

施工箇所	構　法	仕上り高（mm）	適用地震時水平力	耐荷重性能	表面仕上げ材	備　考
	・パネル構法 ・溝構法		・1.0G ・0.6G	・3,000N ・5,000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット	
	・パネル構法 ・溝構法		・1.0G ・0.6G	・3,000N ・5,000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット	
	・パネル構法 ・溝構法		・1.0G ・0.6G	・3,000N ・5,000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット	

5,000Nについては、平成元年建設省告示第1322号「耐震型フリーアクセスフロアの開発」の建設技術評価において評価を取得したもの又は同等品とする。

表面仕上げ材の品質・規格等は、19章内装工事による
スロープ及びボーダー　※製造所の標準仕様　・図示
コンセント等の取付け対応　※製造所の標準仕様　（コンセント本体は別途設備工事）
　コンセントの箇所数は図示
配線用取り出しパネル　配線取り出し開口：パネル１枚につき40㎜×80㎜程度の開口１ヶ所以上
　フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合
　※20～30%　・
空調用吹き出しパネル　※無し
　・有り（※固定式　・可変式　：施工箇所は図示）

2 可動間仕切

(20.2.3)

構造形式	パネル部の総厚さ（mm）	表面材種 厚さ（mm）	表面仕上げ	遮音性能	防火性能
・スタッド式 ・スタッドパネル式 ・パネル式	・６０	※鋼板 （※0.6　・0.8）	※メラミン樹脂又は アクリル樹脂焼付け ・	・あり （　） ・なし	・あり ・なし

3 移動間仕切

(20.2.4)

遮音性能	厚さ（mm）	表面材	表面仕上げ	操作方法
・一般タイプ		※鋼板	・焼付け塗装 ・壁紙張り	・手動式　・電動式 ・部分電動式
・遮音タイプ （36db以上）		※鋼板	・焼付け塗装 ・壁紙張り	・手動式　・電動式 ・部分電動式

表面仕上げの壁紙張りの品質は19章内装工事による
遮音性能はJIS A 6512の遮音試験に準拠する

4 トイレブース

表面仕上げ材　(20.2.5)
　※メラミン樹脂系化粧板（標準色　アルミ製コーナーエッジ付き）
　・ポリエステル樹脂系化粧板
足形状　※幅木型　・足金物型

5 階段滑止め

材　種　ステンレスSUS304　(20.2.6)
形　状　ビニルタイヤ入り
　両端フラットエンド　※有り（・ステンレス製　※ビニル製）　・無し
幅（mm）　約35
取付け工法　※接着工法　・埋込み工法

6 階段手すり

種　別	施工箇所
※集成材クリアラッカー仕上げ （市販品　径　約45mm）	
・既成品	

7 黒板及びホワイトボード

(20.2.8)

種　類		寸法（mm）	色　彩	備　考
・黒板	※焼付け		※緑　・黒	※平面　・曲面　・スクリーン付引分
			※緑　・黒	
・ホワイトボード	※ほうろう		※白	※平面　・曲面　・スクリーン付引分

8 鏡

寸法（mm）　・図示　・　(20.2.9)
厚さ（mm）　※5　・

9 表示標識

衝突防止表示　(20.2.10)
　※図示（市販品　※ステンレス製　径約30mm　・　）
　（・両面　・片面）
　・無し
表示標識、案内用図記号についてはJIS Z 8210による
誘導標識、非常用進入口表示等は市販品とし、その他は共通詳細図による。

10 煙突用成形ライニング

・煙突用成形ライニング材　(20.2.11)
　最高使用温度　※650℃　・400℃

・キャスタブル耐火材
　工　法　※こて押さえ
　最高使用温度　※400℃

11 ブラインド

(20.2.12)

形　式	種　類	スラットの材質	スラットの幅（mm）
※横型	※ギヤ式　・コード式 ・操作棒式	※アルミニウム合金製	※25
・縦型	・１本操作コード ・２本操作コード	・アルミスラット ・クロススラット	・80 ・100

12 ロールスクリーン

防炎性能　※有り　(20.2.13)

施工箇所	装置 電動	装置 手引	備　考

13 カーテン

(20.2.14)

施工箇所	形式 片引	形式 引分	装置 電動	装置 ひも引	装置 手引	ひだの種類	性　能	備　考

14 カーテンレール

材　種　※アルミニウム製　・ステンレス製　(20.2.14)
形　式　・片引き　・引分け（※暗幕用は300mm以上の召合せの重掛けとする）

15 ブラインドボックス及びカーテンボックス

・市販品（アルミニウム製　押出し型材）
　溝幅×深さ（mm）　・90×150　※120×80　・120×150　・150×80　・
　色彩　※Ｂ－１　・Ｂ－２（※ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー）
・図示

16 耐震スリット

方　向	タイプ	耐火性能	防水性能
・垂直方向 ・水平方向	※完全（全貫通型）スリット	・耐火型 ・非耐火型	・有り ・無し

目　地	内壁（幅×深さ）	外壁（幅×深さ）
目地材	シーリング材（見え掛かりのみ）	シーリング材（内外とも）
目地寸法（mm）	※20×10　・	※20×10　・

17 止水板

形　状　・据置式　・壁張り式　・差込式
寸　法
製造所

⑱ 天井点検口

材　質　アルミニウム製（※額縁タイプ　・目地タイプ）

19 床点検口

材　質　アルミニウム製（受け枠　※アルミ製　・ステンレス製）

20 鋼製書架及び物品棚

種　類	規格等	耐荷重による種類
・鋼製書架	JIS S 1039の規格による	水平荷重Ｉ又は水平荷重Ⅱ
・鋼製物品棚	JIS S 1040の規格による	※１種　・２種　・３種

21 かぎ箱

市販品
形　式　・30組用　・60組用　・120組用　・

22 くつふきマット

市販品
材　質　・塩化ビニル製（コイル状　ステンレス製受枠）　・ビニル製（ステンレス製受枠）
　・硬質アルミニウム製（受枠とも）　・ステンレス製（受枠とも）

㉓ 流し台ユニット

㊟ミニキッチン L=900

種　類	寸法（Ｌ＝　mm）	適用内容	規格・品質等
・流し台	※1200　・1500　・1800	トラップ付き	※優良住宅部品 （セクショナルキッチンＩ型）
・コンロ台	※600　・700	バックガード ※有り	
・つり戸棚	※1200　・900　・600		
・水切り棚	※1200　・900	ステンレス製 ※１段式	※市販品

24 屋内掲示板

枠の材質　※アルミニウム製
表面の材質　※塩ビ発泡シート張り　・

25 洗面カウンター

材　種　・メラミン樹脂化粧板張り（心材：集成材）　・人工大理石
奥行き（mm）　・約450　・約600

26 防煙垂れ壁

・固定式

材　質	厚さ（mm）	高さ（mm）	備　考
※網入り磨板ガラス ・線入り磨板ガラス	※6.8	※500	アルミ製枠付き

・可動式

種　類	材　質	高さ（mm）	備　考
・垂直降下式 （巻取り型）	※不燃布 （不燃認定品）	※500 ・800	ガイドレール ※固定式（壁埋込型） ・可動式（天井収納型）
・回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・800	表面仕上げ ※天井材張り

降下機構　煙感知器連動及び手動開放装置（埋込型）

27 視覚障害者用床タイル（誘導用及び注意喚起用床材）

ブロックパターンはJIS T 9251による　(19.2.2)
色彩は黄色を原則とする
屋　内　※塩化ビニル製　⊙磁器又はせっ器質タイル（※300　・　）
　・レジンコンクリート製
屋　外　※レジンコンクリート製　・磁器又はせっ器質タイル（※300　・　）

28 旗竿

材　質　※アルミニウム合金製
形　式　※テーパー型　・同一断面型
地上高さ（m）　・6　・8　・10　・12
操作方法　※ハンドル式　・ロープ式
固定方法　・埋込式　・ベース式　・バンド式
製造所

29 旗竿受金物

材　種　ステンレス製SUS304

30 フェンス

・ビニル被覆エキスパンドフェンス
・樹脂塗装メッシュフェンス

31 屋外掲示板

照明器具　※有り　・無し
施　錠　※有り　・無し
製造所

32 車止め支柱

※ステンレス製（上下式鎖内蔵型）　径114.3mm　t＝2.5mm　H＝ＧＬ＋700mm
　※スプリング付　・スプリング無し

33 収納家具

材質
形状・寸法　※図示
ホルムアルデヒドの放散量　※規制対象外　・第三種

34 エキスパンション・ジョイント金物

材質　・アルミ　・ステンレス
クリアランス　・50　・100　・150　・
耐火性能　・有り（　）　・無し
防水型　※適用する　・適用しない

21 排水工事

1 排水管

排水管用材料　(21.2.1)　(表21.2.1)　(21.3.3)

材　種	管の種類	管形状（接合方法）
※遠心力鉄筋コンクリート管	※外圧管（※１種　・２種）	Ｂ形（ゴム接合）
・硬質ポリ塩化ビニル管	※ＶＰ　・ＶＵ	
・排水用リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管	・ＲＥＰ-ＶＵ [G]	

車道部の排水管の敷設　(21.3.1)　(21.3.3)
　※図示
　・砂基礎（地業厚さ20cm以上　材料　山砂の類）

2 排水桝及びふた

鋳鉄製マンホールふた　(21.2.2)

種　類		適用荷重
・水封形 ・簡易気密形（パッキン式）	・密閉形（テーパー・パッキン式） ・中ふた付密閉形	・Ｔ－２用 ・Ｔ－６用 ・Ｔ－１４用 ・Ｔ－２０用

グレーチングふた　(21.2.2)

材　質	形　式	種　類	適用荷重	メンバーピッチ	上面形状
・鋼製 ・ステンレス製	※受枠付き ボルト固定 ※無し ・図示	・溝ふた用 ・桝ふた用 ・かさ上げ用 ・Ｕ字溝用	・歩行用	※細目	※凹凸形
			・Ｔ－２用 ・Ｔ－６用 ・Ｔ－１４用 ・Ｔ－２０用	※普通目 ・細目	※平形 ・凹凸形

3 埋戻し土

※Ｂ種　・　(21.2.3)　(表3.2.1)

4 浸透管及び浸透桝

製造所

㉒ 舗装工事

① 盛り土に用いる材料

・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　(22.2.3)　(表22.2.1)

2 遮断層及び凍上抑制層の材料

・遮断層　※川砂、海砂又良質な山砂　・　(22.2.2～3)
　厚さは図示
・凍上抑制層　※再生クラッシャラン　・クラッシャラン　切り込み砂利　・砂
　厚さは図示
・フィルター層　※透水性舗装　車道部150mm・歩道部50mm　(表22.2.1)

3 路床安定処理

※添加材料による安定処理　(22.2.2～3)　(表22.2.2)
　種類　・普通ポルトランドセメント　・フライアッシュセメントＢ種
　　・生石灰（　）　・消石灰（　）
　添加量　kg/m^3　（目標ＣＢＲ　※5以上　・　）

4 路床土の支持力比試験

※行う（※乱した土　・乱さない土）　(22.2.5)

5 路床締固め度の試験

※行う　(22.2.5)

⑥ 路盤材料 [G]

※再生クラッシャラン（RC-40）　(22.3.3)
・クラッシャラン（C-40）又はクラッシャランスラグ（CS-40）
　透水性アスファルト舗装にもちいる場合は透水性の高いもの

⑦ アスファルト舗装

(22.4.2)　(表22.4.1)

舗装の種類	車道部の基層	カラー舗装の種類
※アスファルト舗装	※無し　・有り	※顔料混入加熱アスファルト混合物
・カラー舗装	※無し　・有り	

カラー舗装の着色骨材　・有色骨材（焼成）　・着色骨材（樹脂被覆）
アスファルト　※再生アスファルト [G]　・ストレートアスファルト　(22.4.3)

加熱アスファルト混合物の種類　(22.4.4)　(表22.4.6)

区分	※一般地域	・寒冷地域
表層	※密粒度アスファルト混合物（13） ・細粒度アスファルト混合物（13）	※密粒度アスファルト混合物（13F） ・細粒度ギャップアスファルト混合物（13F）
基層	・粗粒度アスファルト混合物（20）	

シールコート　※行わない　・行う（施工範囲：　）　(22.4.5)

アスファルト混合物の抽出試験　※行わない　・行う　(22.4.6)

8 コンクリート舗装

早強セメント　※使用しない　・使用する　(22.5.3)
注入材料　※低弾性タイプ　・高弾性タイプ　(22.5.3)　(表22.5.3)

溶接金網　※有り　・無し　(22.5.3～4)
厚さ試験　※行わない　・行う　(22.5.6)

9 透水性舗装

アスファルト混合物の抽出試験　※行わない　・行う　(22.7.4)　(22.7.6)

10 排水性舗装

アスファルト混合物　(22.7.3)　(表22.7.2)
　・改質アスファルトＩ型　※改質アスファルトⅡ型
タックコート用ゴム入りアスファルト乳剤の種類　(22.8.1)　(表22.8.2)

適用時期	種　類
下記以外	ＰＫＲ－Ｔ１
冬期	ＰＫＲ－Ｔ２

アスファルト混合物の抽出試験　※行わない　・行う　(22.8.4)

11 ブロック系舗装

・コンクリート平板舗装　(22.9.2～4)

種　類	寸法（mm）	厚さ（mm）	目地材
※普通平板（Ｎ）　・カラー平板（Ｃ） ・洗出平板（Ｗ）　・擬石平板（Ｓ）	※300角	※60	※砂 ・モルタル

・インターロッキングブロック舗装　(22.9.2～4)

種　類	厚さ（mm）	色彩及び表面加工等
※標準ブロック ・透水性ブロック ・誘導、注意喚起用ブロック	車道部　※80　・ 歩道部　※60　・	※標準品 誘導、注意喚起用は黄色系とする
・植生ブロック	※80　・100	

インターロッキングブロック

項　目		品　質　・　性　能		
材料	セメント	JIS R 5210ポルトランドセメント、JIS R 5211高炉セメント、JIS R 5212シリカセメント、JIS R 5213フライアッシュセメント、白色ポルトランドセメントとする。		
材料	骨材	清浄、強硬、耐久性で、適当な粒度をもち、ごみ、泥、有機物、薄い石片、細長の石片を含んでいない。		
材料	混和材料	インターロッキングブロックの品質に有害な影響を及ぼさない。		
材料	着色材料	無機質材料を用い、耐候性に優れ、かつインターロッキングブロックの品質及び環境上有害な影響を及ぼさない。		
外観		使用上有害なきず、ひびわれ、欠け、変形等がない。		
寸法許容差（mm）		長　さ	幅	厚　さ
普通タイプ		±3	±3	±3
透水性タイプ		±3	±3	＋5～－1
植生用タイプ		±3	±3	±3
曲げ強度（N/mm^2）		普通タイプ	5.0以上	
		透水性タイプ	3.0以上	
		植生用タイプ	4.0以上	
透水係数（cm/sec）		透水性タイプ	1×10^{-2} 以上	
圧縮強度（N/mm^2）		普通タイプ	32.0以上	
		透水性タイプ	17.0以上	

・舗石舗装　(22.9.2～4)

種　類	厚さ（mm）	施工方法	基　層
※小舗石（花こう岩）	※80～100　・	※うろこ張り	※コンクリート舗装 ・アスファルト舗装

12 路面標示用塗料

JIS K 5665（路面標示用塗料）による

種類	施工	適用	色	幅（mm）	布厚さ（mm）	揮発性有機溶剤の含有率
・１種 [G]	常温	液状	※白	※150	※1.0	塗料総質量に対して 5%以下
・１種 [G]	加熱					
・３種１号	溶融	粉体状				

23 植栽工事

1 樹木の植栽基盤整備

芝及び地被類　(23.2.2～3)　(表23.2.1～2)

適　用	有効土層の厚さ（cm）	工　法	整備範囲
※行う　・行わない	※２０	※Ｂ種	※植栽範囲　・図示

樹木　(23.2.2～3)　(表23.2.1～2)

樹木の樹高（m）	有効土層の厚さ（cm）	工　法	整備範囲
・12以上	※100　・	※Ａ種	・葉張りの範囲 ただし、低木は植栽範囲 ・図示
・7超～12未満	※80　・	・Ｂ種	
・3超～7以下	※60　・	・Ｃ種	
・3以下	※50　・	・Ｄ種	

工法Ｄ種以外の工法で、現状地盤高と計画地盤高が同一でない場合は、計画地盤高からを有効土層とする。ただし、計画地盤高が現状地盤高より高い場合は、計画地盤高まで植込み用土で盛土を行う。

2 植込み用土

※現場発生土の良質土　・客土（※畑土　・黒土）　(23.2.3)

3 土壌改良材 [G]

※適用する　(23.2.3～4)
　施工箇所　※植栽範囲　・図示

バークたい肥
　有機物の含有量（乾物）　：70%以上
　炭素窒素比（C/N比）　：35以下
　陽イオン交換容量（乾物）　：70meq/100g以上
　pH　：5.5～7.5
　水分　：55～65%
　幼植物試験の結果　：生育阻害その他の異常を認めない
　窒素全量（現物）　：0.5%以上
　りん酸全量（現物）　：0.2%以下
　加里全量（現物）　：0.1%以上

発酵下水汚泥コンポスト
　「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第一の基準に適合する原料を使用したもので、植害試験の調査の結果、害が認められないものとする
　ひ素　：0.005%以下
　カドミウム　：0.0005%以下
　水銀　：0.0002%以下
　ニッケル　：0.03%以下
　クロム　：0.05%以下
　鉛　：0.01%以下
　有機物の含有量（乾物）　：35%以上
　炭素窒素比（C/N比）　：20以下
　pH　：8.5以下
　水分　：50%以下
　窒素全量（現物）　：0.8%以上
　りん酸全量（現物）　：1.0%以上
　アルカリ分（現物）　：15%以下

4 支柱材

※杉の焼丸太（間伐材）[G]　・真竹　(23.3.2)

5 幹巻き用材料

※幹巻き用テープ　・わら及びこも　(23.3.2)

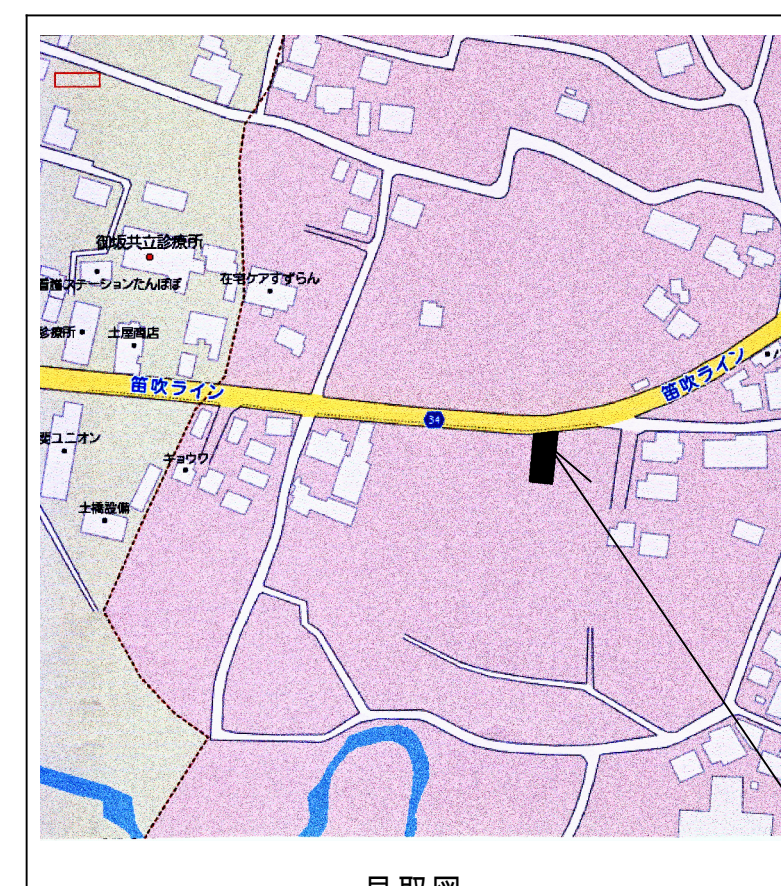
6 芝張り

種類　・こうらい芝　・野芝　(23.4.2)

7 屋上緑化

屋上緑化システム [G]　(23.5.2)
・管理方法による区分　・省管理型
　質量の上限値　（　）kg/m^2
　かん水装置　・設ける（工事区分は図示）
　透水層、保水層及び排水層等
　　保水層及び排水層の鉛直方向の排水性能：240 l /m^2・h以上
　耐荷重性能
　　省管理型：$3\times10^4 N/m^2$ 以上の載荷重で異常のないこと。
　耐根層の材料　(23.5.3)
　合成樹脂耐根シート（厚さ3mm以上）又は抗根性剤とする（耐根性能の実績を有すること）
　植込み用土　製造所の仕様による
　植栽の種類　製造所の指定するものとする
・管理方法による区分　・管理型

摘要	1 2 3 4		設　計	承　認	縮　尺 設計年月日	工事名称　笛吹市消防団　御坂分団第９部拠点施設新築工事 図面名称　特記仕様書　Ｎｏ４	NO　D-04

番号	底　辺	高　さ	倍　面　積	面　積
1	22.78	2.20	50.1160	25.05800
2	23.39	3.40	79.5260	39.76300
3	24.21	2.40	58.1040	29.05200
4	24.42	0.46	11.2332	5.61660
5	22.78	7.85	178.8230	89.41150
6	8.30	2.08	17.2640	8.63200
合　計			395.0662	197.53310
敷 地 面 積				197.53 ㎡

工　事　概　要

1，敷　地

敷地面積	197.53 ㎡	防火地域	指定なし
用途地域	都市計画区域内（区域区分非設定）	日影規制	指定なし
その他の地域・地区	指定なし		
指定建ぺい率	７０％	指定容積率	２００％

2，構造・規模

主要用途	消防拠点施設
構　　造	鉄骨造
階　　数	地上　２階
工事種別	新築

外　部　仕　上　表

屋　根	軒　天	外　壁	建　具	基　礎	樋	摘　要
屋根：馳折板　ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.8mm 断熱シート付き	屋根：馳折板 表し	ｹｲｶﾙ板 t=6mm 捨張り	住宅用アルミサッシ（カラー）	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し(型枠：塗装合板)	軒　樋　　角　型	
		透湿防止シート貼り	ｵｰﾊﾞｰｽﾗｲﾃﾞｨﾝｸﾞﾄﾞｱ　ﾛｰﾍｯﾄﾞ型　ﾊﾞﾗﾝｽ式	補修仕上げ	硬質塩ビ(前高130WIDE)	
ｹﾗﾊﾞ：ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.8mm曲げ加工		金属製サイディング縦張り t=15mm			吊り金具@600	
雪止め：L-50*50*4 亜鉛ﾒｯｷ仕上げ						
軒先見切面戸					竪　樋　　円　型	
					ｶﾗｰ塩ビ　７５φ	
					支持金物：ｽﾃﾝﾚｽ	

内　部　仕　上　表

区　分	室　名	床	巾　木	壁	天　井	摘　要
1階	車庫	再生砕石 40～0　転圧	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し　補修	軸組表し(ｹｲｶﾙ板 t=6mm 素地表し)　不燃材	ﾃﾞｯｷ表し(素地のまま)	木製棚：建築工事
		ｺﾝｸﾘｰﾄ土間金鏝仕上げ　水勾配付き		軸組・柱：鉄部　防錆塗装下地　OP塗り仕上げ	１階車庫鉄部(柱・梁・胴縁)：防錆塗装下地 OP塗り	換気扇(設備工事)
						車止め（ｺﾝｸﾘｰﾄ製）600*190*115 反射板付き　※設置位置は現場にて決定
2階	玄関	ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ+溶接金網+ｺﾝｸﾘｰﾄ金鏝仕上げ	ﾐｶｹﾞ石	外壁廻り：LGS(25×50)下地PB（GB-R）t=12.5mm	LGS(19型)下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞGB-D直張り t=9.5mm	框：ミカゲ石本磨き 45*45
		防水モルタル塗り		仕上げ：目地処理後 ＥＰ塗り	野縁 @303　吊りﾎﾞﾙﾄ @900　廻縁：塩ビ	巾木：ミカゲ石本磨き 30*100
	待機室	ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ+溶接金網+ｺﾝｸﾘｰﾄ金鏝仕上げ	ｿﾌﾄ巾木 H=60mm	間仕切り壁：ｽﾀｯﾄﾞ65mm下地PB（GB-R）t=12.5mm	同上	ﾐﾆｷｯﾁﾝIH仕様(建築工事)換気扇付き 給排水・換気接続：設備工事
		根太ﾌｫｰﾑ(洋室用)ｔ＝40mm		外壁廻り：LGS(25×50)下地PB（GB-R）t=12.5mm	同上	冷蔵庫・食器戸棚・神棚・ｶｰﾃﾝ・ｶｰﾃﾝﾚｰﾙは別途工事
		ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ t=12mm張り		柱型：LGS(25×50)溶接止め下地PB（GB-R）t=12.5mm		天井点検口・ｼｯｸﾊｳｽ給気口(建築工事)
				柱型：防錆塗装下地　OP塗り仕上げ		ﾋﾟｸﾁｬｰﾚｰﾙ・掲示板(建築工事)　換気扇(設備工事)
				仕上げ：目地処理後 ＥＰ塗り		
	便所	同上	同上	間仕切り壁：ｽﾀｯﾄﾞ65mm下地PB（GB-R）t=12.5mm	同上	上部棚：栂 30×240×770 CL塗り(建築工事)
		同上		外壁廻り：LGS(25×50)下地PB（GB-R）t=12.5mm	同上	化粧棚：栂 30×300×520 CL塗り(建築工事)
		同上		柱型：LGS(25×50)溶接止め下地PB（GB-R）t=12.5mm		換気扇(設備工事)
				仕上げ：目地処理後 ＥＰ塗り		
	収納	同上	雑巾摺24×15	間仕切り壁：ｽﾀｯﾄﾞ65mm下地PB（GB-R）t=12.5mm張り	同上	中段・上段付き
		同上		外壁廻り：LGS(25×50)下地PB（GB-R）t=12.5mm張り	同上	
		同上		柱型：防錆塗装		
共通	階段	鉄骨階段	ｻｻﾗ桁：FB12×250		屋根材表し	共通事項：階段鉄部は防錆塗装下地 ＯＰ塗りとする
		段板：Ｃ PL-6　水抜き穴加工	ｻｻﾗ OP塗り			防犯扉、片側手摺付き
		踊場				
		床：Ｃ PL-4.5　根太：Ｃ－100×50×20×3.2				

摘要		設計	承認	縮尺	工事名称　笛吹市消防団　御坂分団第９部拠点施設新築工事	NO　D-06
1				設計年月日	図面名称　工事概要・仕上表	
2						
3						
4						

1階 平面詳細図 S＝1／50
2階 平面詳細図 S＝1／50
車庫
48.75m²
待機室
44.16m²
玄関
1.44m²
収納
便所
下駄箱
外階段
木製棚
土間：コンクリート
車止め
600*190*115
反射板付き
水勾配
積載車：5010*1690
水槽車：5240*1890
別途工事：冷蔵庫・食器戸棚・神棚
神棚 W=900
IH仕様(100V) L=900
ﾐﾆｷｯﾁﾝ(建築工事)換気扇付き
給排水・換気接続：設備工事
上部棚：栂 30×240×770
化粧棚：栂 30×300×520
換気扇
設備工事
AC
(設備工事)
ｼｯｸﾊｳｽ用換気扇
設備工事
ｼｯｸﾊｳｽ用給気口 (建築工事)
ﾌｰﾄﾞｶﾞﾗﾘ：ステンレス製 網付き 100φ
ﾚｼﾞｽﾀｰ：ステンレス製 100φ 網付き
ﾎｰｽﾎﾟｰﾙ
間仕切壁：LGS(ｽﾀｯﾄﾞ65)下地
PB(GB-R) t=12.5mm両面
展開方向
工事名称 笛吹市消防団 御坂分団第9部拠点施設新築工事
図面名称 平面詳細図
縮尺 S＝1／50
設計年月日
設計
承認
摘要
NO D-07

消防法無窓チェック（２階）	
床面積	７.５００×６.５００＝４８.７５０
必要面積	４８.７５０／３０　約 １.６２５
有孔面積	ＡＷ－３　２ヶ所 １.６３０×１.３１０×０.５×２＝２.１３５３
判　定	１.６２５ ≦２.１３５３　∴ ＯＫ

室　名	床面積	採光計算					
待機室	45.60	必要面積 床面積／20	窓ﾘｽﾄ番号	W	H	ヶ所数	有効面積
		2.28	ＡＷ－３	1.63	1.31	2	4.2706
		換気計算					
		必要面積 床面積／20	窓ﾘｽﾄ番号	W	H	ヶ所数	有効面積
		2.28	ＡＷ－３	1.63 × 0.5	1.31	2	2.1353
			ＡＷ－２	1.63 × 0.5	1.11	3	2.71395
							4.84925
		排煙計算					
		必要面積 床面積／50	窓ﾘｽﾄ番号	W	有効な　H	ヶ所数	有効面積
		0.912	ＡＷ－３	1.63 × 0.5	0.567	2	0.924210
			ＡＷ－２	1.63 × 0.5	0.367	3	0.897315
							1.821525

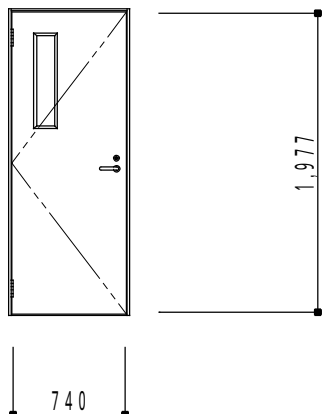
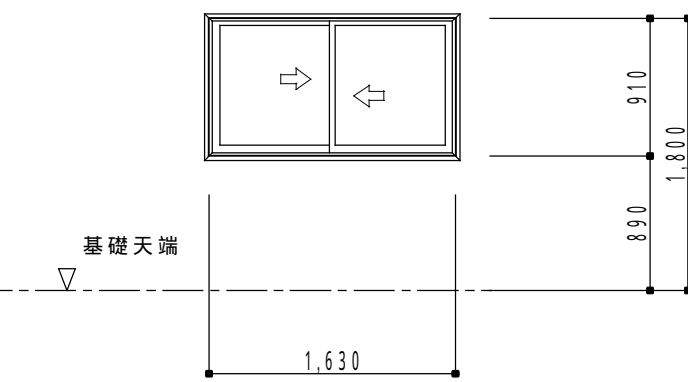
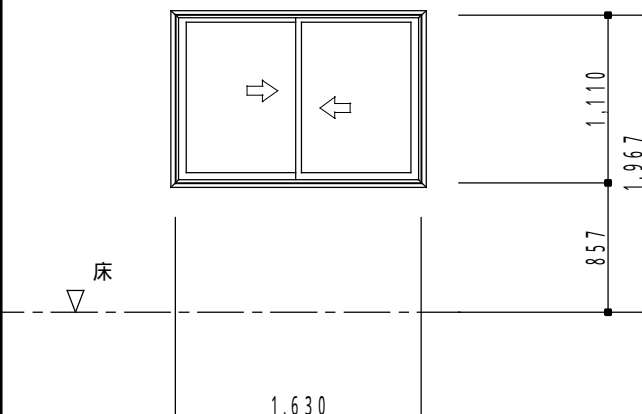
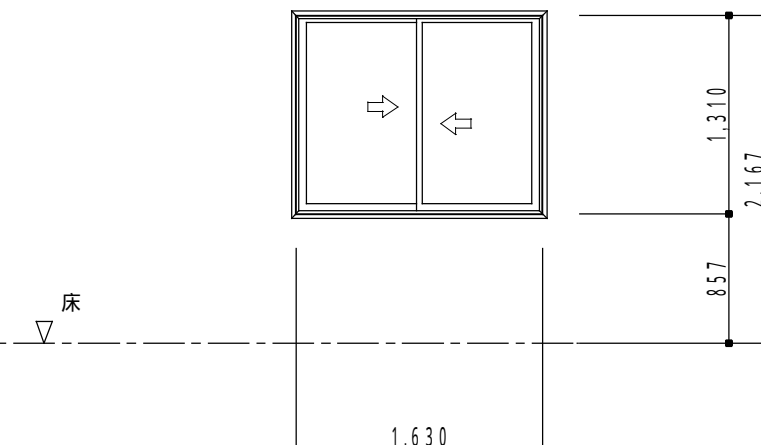
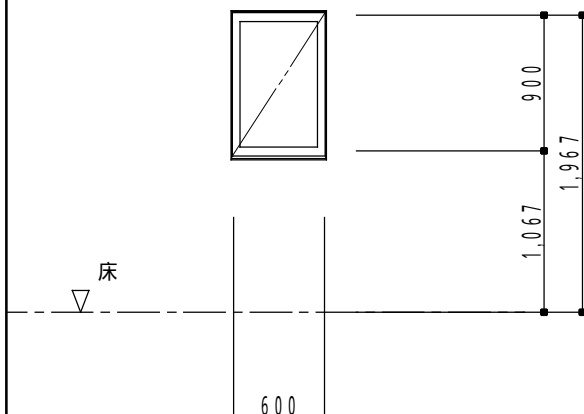
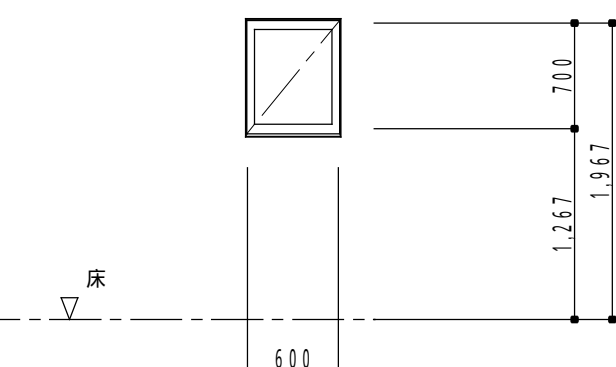
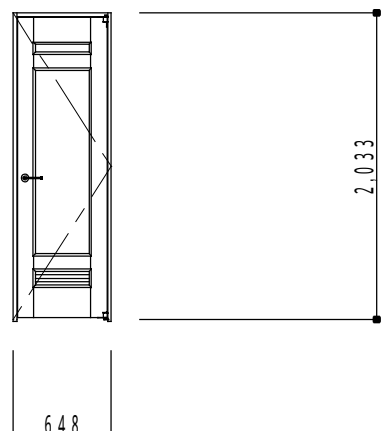
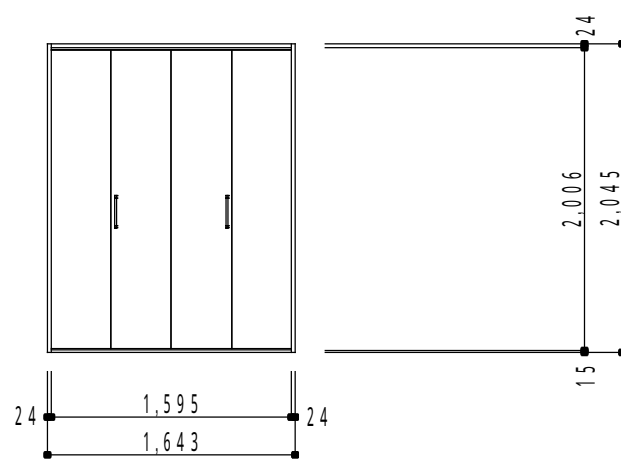
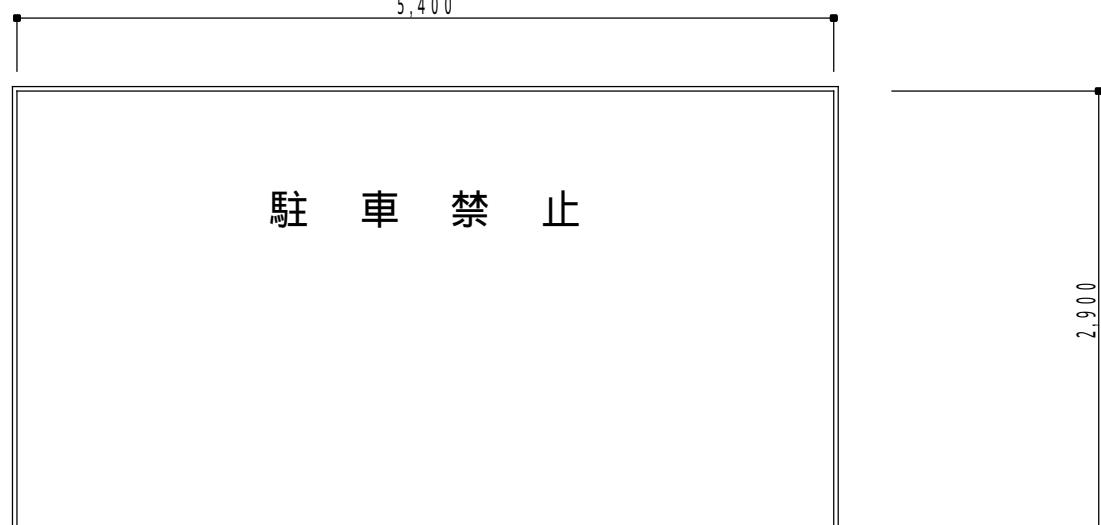
建物面積表				
区　分		用　途	算　定　式	
床面積	１階	車庫	A	６.５００ × ７.５００ ＝ ４８.７５０
			計	４８.７５㎡
	２階	消防拠点施設	B	６.５００ × ７.５００ ＝ ４８.７５０
			計	４８.７５㎡
延べ面積				９７.５０㎡
建築面積				４８.７５㎡

摘要	1 2 3 4	設計	承認	縮尺 Ｓ＝１／５０ 設計年月日	工事名称　笛吹市消防団　御坂分団第９部拠点施設新築工事 図面名称　屋根伏図・面積表	NO　D-08

屋根：騙折板
ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.8mm 断熱シート付き
雪止め：L-50*50*4 亜鉛ﾒｯｷ仕上げ
ｹﾗﾊﾞ：ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.8mm曲げ加工
給気口
換気扇
設計ＧＬ
南側
東側
基礎：ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し(型枠：塗装合板)
補修仕上げ
待機室
車庫
軒先見切面戸
外壁：ｹｲｶﾙ板 t=6mm 捨張り
透湿防止シート貼り
金属製サイディング縦張り t=15mm
シックハウス用換気扇
笛吹市消防団 御坂分団第９部
駐車禁止
カッティングシート張り ５００角
看板文字：ステンレス箱文字 ＨＬ
２００×２００
北側
西側
玄関
立面図 Ｓ＝１／１００
断面図 Ｓ＝１／１００
摘要
設計
承認
縮尺
Ａ２（Ａ４） Ｓ＝１／１００（２００）
設計年月日
工事名称 笛吹市消防団 御坂分団第９部拠点施設新築工事
図面名称 立面図・断面図
NO D-09

摘要	設計	承認	縮尺	
1			Ｓ＝１／３０	工事名称 笛吹市消防団 御坂分団第９部拠点施設新築工事
2			設計年月日	図面名称 矩計図
3				NO D-10
4				

摘要	1	設計	承認	縮尺 S＝1／50	工事名称 笛吹市消防団 御坂分団第9部拠点施設新築工事	
	2					
	3			設計年月日	図面名称 階段詳細図	NO D-11
	4					

6,500
シャッター受け
□－150*150*4.5
3,750
7,500
3,750
6,500
1階 天井伏図 S＝1／50
1階車庫鉄部(柱・梁・胴縁)：防錆塗装下地 OP塗り
下り壁 H=500
LGS下地 PB (GB-R) t=12.5mm
目地処理後 立体模様吹付け
ミニキッチン H=1900
CH=2300
CH=2400
CH=2400
ﾋﾟｸﾁｬｰﾚｰﾙ(建築工事)
天井点検口(枠：アルミ) 450角
3,100
1,800
900
1,700
900
5,600
6,500
2階 天井伏図 S＝1／50
凡例
① ﾃﾞｯｷ表し(素地のまま)
② LGS(19型)下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞGB-D直張り t=9.5mm 野縁 @303 吊りﾎﾞﾙﾄ @900 廻縁：塩ビ
③ LGS(耐風圧用Ⅱ型)下地 ｹｲｶﾙ板 t=6mm ﾒｽｶｼ張り EP塗り 野縁 @303 吊りﾎﾞﾙﾄ @750以下
摘要 1 2 3 4
設計
承認
縮尺 S＝1／50
設計年月日
工事名称 笛吹市消防団 御坂分団第９部拠点施設新築工事
図面名称 天井伏図
NO D-12

建具表　S＝1／50
符　号
1A AD　1ヶ所
1B AD　1ヶ所
1 AW　3ヶ所
2 AW　3ヶ所
3 AW　2ヶ所
4 AW　1ヶ所
形状寸法
AD-1Bは三方額縁付きとする
1,977
740
基礎天端
910
1,800
890
1,630
床
1,110
1,967
857
1,630
1,310
2,167
857
1,630
900
1,967
1,067
600
形式・材料
汎用ドア　2HD　フラッシュドアタイプ　半外付型　小窓付き
住宅用ｱﾙﾐ引き違い 半外付型　(ｶﾗｰ)　　アングルなし
住宅用ｱﾙﾐ引き違い 半外付型　(ｶﾗｰ)
住宅用ｱﾙﾐ引き違い 半外付型　(ｶﾗｰ)
住宅用ｱﾙﾐすべり出し窓　半外付型　(ｶﾗｰ)
硝　子
型板ガラス　ｔ＝4mm
型板ガラス　ｔ＝4mm
型板ガラス　ｔ＝4mm
型板ガラス　ｔ＝4mm
型板ガラス　ｔ＝4mm
金　物
丁番、ハンドル、ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞｰ、CL錠
ｸﾚｾﾝﾄ、網戸
ｸﾚｾﾝﾄ、網戸、四方額縁
ｸﾚｾﾝﾄ、網戸、四方額縁
網戸、四方額縁
付属品１式
付属品１式
付属品１式
付属品１式
付属品１式
符　号
5 AW　1ヶ所
1 WD　1ヶ所
2 WD　1ヶ所
形状寸法
700
1,967
1,267
床
600
2,033
648
24
2,006
2,045
15
24
1,595
24
1,643
形式・材料
住宅用ｱﾙﾐすべり出し窓　半外付型　(ｶﾗｰ)
木質ｲﾝﾃﾘｱ建材　室内ﾄﾞｱ（ﾌﾗｯｼｭ構造）ﾄｲﾚﾄﾞｱ
クローゼットドア 折れ戸 ﾉﾝｹｰｼﾝｸﾞﾀｲﾌﾟ LCF-16420-2A　特殊化粧シート
硝　子
型板ガラス　ｔ＝4mm
金　物
網戸、四方額縁
ノンケーシングタイプ3方枠
丁番・ハンドル・吊車・吊車ホルダー・下軸受け・振れ止め(凸形)(凹形)
付属品１式
枠見込み186/埋込沓摺(アルミ)
上下キャッチ・ガイドローラ・ビス隠しキャップ
符　号
1 SS　1ヶ所
形状寸法
5,400
駐　車　禁　止
2,900
形式・材料
オバースライディングドア　ローヘッド型　バランス式
硝　子
スチール
金　物
ステンレス３方枠､付属品１式
文字は別途工事
摘　要
1
2
3
4
設　計
承　認
縮　尺
S＝1／50
設計年月日
工事名称　笛吹市消防団　御坂分団第９部拠点施設新築工事
図面名称　建具表
NO　D-13

車庫	
床	再生砕石 40～0　転圧 ｺﾝｸﾘｰﾄ土間金鏝仕上げ　水勾配付き
巾木	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し　補修
内壁	軸組･柱：鉄部　防錆塗装下地　OP塗り仕上げ
天井	ﾃﾞｯｷ表し(素地のまま) 1階車庫鉄部(柱･梁・胴縁)：防錆塗装下地 OP塗り

待機室	
床	デッキプレート+溶接金網+コンクリート金鏝仕上げ 根太フォーム(洋室用) t＝40mm フローリング t=12mm張り
巾木	ソフト巾木 H=60mm
内壁	間仕切り壁：スタッド65mm下地PB (GB-R) t=12.5mm 外壁廻り：LGS(25×50)下地PB (GB-R) t=12.5mm 柱型：LGS(25×50)溶接止め下地PB (GB-R) t=12.5mm 仕上げ：目地処理後 EP塗り
天井	LGS(19型)下地化粧石膏ボードGB-D直張り t=9.5mm 野縁 @303 吊りボルト @900 廻縁：塩ビ

便所	
床	デッキプレート+溶接金網+コンクリート金鏝仕上げ 根太フォーム(洋室用) t＝40mm フローリング t=12mm張り
巾木	ソフト巾木 H=60mm
内壁	間仕切り壁：スタッド65mm下地PB (GB-R) t=12.5mm 外壁廻り：LGS(25×50)下地PB (GB-R) t=12.5mm 柱型：LGS(25×50)溶接止め下地PB (GB-R) t=12.5mm 仕上げ：目地処理後 EP塗り
天井	LGS(19型)下地化粧石膏ボードGB-D直張り t=9.5mm 野縁 @303 吊りボルト @900 廻縁：塩ビ

側溝（開渠）
道　路
道路中心線
外構図　S＝1／100
申請建物
アスファルト舗装
コンクリート土間
コンクリート境界杭
地先境界ブロックA種
境界コンクリート A
境界コンクリート B
境界コンクリート C
境界コンクリート D
境界コンクリート E
境界コンクリート F
境界コンクリート G
再生砕石 40～0
D10－2
D10－@300
D10－4
D10－@150 タテヨコ
再生砕石
共通事項　コンクリート：Fc18　スランプ18
コンクリート土間　S=1/10
密粒度アスファルト混合物　t=50mm
路盤再生砕石クラッシャラン砕石　t=150
アスファルト舗装断面　S=1/10
地先境界ブロックA種
敷モルタル
基礎再生砕石
現場事務所
仮設便所
仮設図　S＝1／200
摘　要
設　計
承　認
縮　尺
S＝1/100･200
設計年月日
工事名称　笛吹市消防団　御坂分団第９部拠点施設新築工事
図面名称　外構工事1・仮設工事
NO　D-16

□ 特記事項

1．施工に先立ち、施工計画書・工程表・承認図等を提出して、係員の承認を得ること。

2．工程計画は、待機所本体工事と充分調整すること。

3．工事完了時には、機器取扱説明書・保証書・竣工図・完成写真を提出すること。

4．消耗品(ホース引上げロープ)以外は、永年使用するものであるため、錆等の発生を考慮し、十分な注意を行い施工すること。

5. 取付品の製品決定後、その荷重を加味し、「電気設備の技術基準の解釈」58条から60条に準ずる強度に適合することを確かめること。

6. 鉄骨部分は全てドブ付け塗装とする。

□ ホース乾燥塔仕様書

1.本体

・乾燥塔本体は、コンクリート柱とする。

2.設置

・コンクリート柱は、倒れないように地面地埋設し、下部をコンクリートで周囲を四角に固めること。

・地上高は、ホース，サイレン取付等を考慮して１２m以上とする。

3.取付品

・コンクリート柱上部にアームバンド等を使用しステーを作り、サイレン台及びサイレン小屋を設け、その中にサイレン本体を取付けること。

・ホース引上げ用ステーをホースの長さに合せ、アームバンド等でホース引上げ用滑車を左右２ヶ所ずつ取付けること。滑車は濡れて重くなったホースでも壊れず引上げ可能な滑車とする。

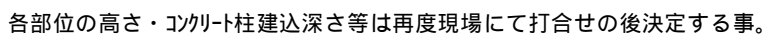
・滑車にホース引上げ用の１２mmクレモナロープを十分引上げられる長さを通すこと。

・ロープ先端に６５mm引上げ用のＬ字フックを設け、Ｌ字フックは、掛けたホースが風等で簡単に取れないような構造とする。

・コンクリート柱下部にアームバンド等を使用し、ホース引上げロープを留めておくステーをＬ字フックと同数取付けること。

・サイレンは、電気配線により待機所内にて操作可能とすること。(信号音タイプ)

・半鐘を使用する建物の２FLからの高さに合わせ、コンクリート柱からアームバンド等を使用しステーを出し、屋根を設置して、その下に半鐘を使用できる位置に吊り下げること

・図示の支持金物については参考寸法とし、同等品以上とする。また施工に先立ち、検討書等を提出し、係員の承認を得ること。

立面図 S=1:50

※各部位の高さ・コンクリート柱建込深さ等は再度現場にて打合せの後決定する事。

サイレン架台詳細図 S=1:30

ホース掛け詳細図 S=1:30

半鐘架台詳細図 S=1:30

摘要	1	設計	承認	縮尺 S＝1/30・50	工事名称 笛吹市消防団 御坂分団第９部拠点施設新築工事	NO D-18
	2			設計年月日	図面名称 ホースポール詳細	
	3					
	4					

構造設計標準仕様

適用は☑　印を記入する。

1，建築物の構造内容

（１）建築場所　笛吹市御坂町蕎麦塚 628-3
（２）工事種別 ☑新築　☐増築　☐増改築　☐改築
（３）構造設計一級建築士の関与　☐必要　☑必要としない
☐法第２０条第一号（高さ 60 m超）
☐法第２０条第二号（☐RC造高さ 20 m超　☐S造 4 階建以上　☐木造高さ 13 m超　☐その他 ）
注(3)構造設計一級建築士の関与が義務づけられる建築物については解説書等を参照して確認する事。
（４）構造種別
☐木造（W）　☐補強コンクリートブロック造（CB）　☑鉄骨造(S)
☐鉄筋コンクリート造(RC)　☐壁式鉄筋コンクリート造(WRC)
☐鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC)　☐壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造(WPRC)
☐プレキャスト鉄筋コンクリート造(PRC)　☐
（５）階数
棟　地下　0 階　地上　2 階　塔屋　0 階
（６）主要用途　消防詰所
（７）屋上付属物
☐高架水槽　KN　☐キュービクル　KN　☐広告塔　☐煙突
（８）特別な荷重
☐エレベータ　人乗(マシンルームレス　ロープ式　油圧式)　☐リフト　KN　☐ホイスト　KN
☐倉庫積載床用　N/m²　☐受水槽　KN
（９）付帯工事
☐門塀　☐擁壁　☐駐輪場　☐機械式駐車場　☐
（１０）増築計画　☐有（　）☑無
（１１）構造計算ルート　X方向ルート（ 1-2 ）　Y方向ルート（ 1-2 ）

2，使用建築材料表・使用構造材料一覧表

（１）コンクリート　（レディーミクストコンクリート　JIS G 1001,JIS G 1011,JIS A 5308)

適用箇所	種類	設計基準強度F_C=N/mm²		スランプ cm	備考
捨コンクリート	☑普通	18		18	
土間コンクリート	☑普通	21		18	
基礎、基礎梁	☑普通	21		18	
柱、梁、床、壁	☑普通 ☐軽量	21		18	比重
	☐普通 ☐軽量				比重
押えコンクリート	☐普通 ☐軽量				比重
細骨材の種類		☑砂　☑山砂　☐人工　☐			
粗細骨材の種類		☑砂利　☑砕石　☐人工　☐			
水の区分		☑水道水　☑地下水　☐工業用水　☐			
混和材料の種類　(JIS　)		☑AE減水剤　☐高性能AE減水剤 ☐　☐			
呼び強度を保証する材齢、養生		☑材齢（☐28日　☐56日　☑ 91 日　☐　）			
		☑養生（☑現場封かん　☐現場水中　☐標準　☐　）			

☐ 単位水量は185Kg/m³以下,単位セメント量は270Kg/m³以上とする。

（２）コンクリートブロック　（☐ JIS A 5406 ）
☐A種　☐B種　☐C種　厚☐100　☐120　☐150　☐190　使用箇所（☐　）

（３）鉄筋

	種類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋 (JIS G 3112)	☑SD295A	D10～D16	基礎	☑重ね継手
	☐SD295B			☑ガス圧接継手
	☑SD345	D19以上	基礎	☐溶接継手
	☐SD390			☐機械式継手
	☐			（　）
高強度せん断補強筋	☐材種			各継手の使用詳細については
	☐大臣認定番号 MSRB-			本仕様5.(2)鉄筋の項の鉄筋
丸　鋼（JIS G 3112)	☐SR235			継手等の■にて表示すること。
溶接金網(JIS G 3551)	☐			

（４）鉄骨

種類	使用箇所	現場溶接	JIS規格・認定番号等
☑SS400　☐SM400　☑SN400A,Ⓑ,C	梁	☐有 ☑無	JIS G
☑STKR400　☐STKR490　☐	間柱	☐有 ☑無	JIS G
☑BCR295　☐BCP235　☐BCP325	柱	☐有 ☑無	大臣認定品　認定番号
☐SN490A　☐SN490B　☑SN490C	通しダイア	☐有 ☑無	JIS G
☑SSC400　☐	胴縁	☐有 ☑無	JIS G
溶接材料　☐ JIS Z			

○使用箇所の詳細については別途図示とする。

（５）ボルト
☑高力ボルト
☐F10T(JIS B1186)　☑S10T認定番号(　)　☐F8T認定番号(　)（☐M12 ☑M16 ☐M20 ☐M22 ☐M24）
☑中ボルト(JIS B1180)　M12　M　☐4.8(4T)　☐
☑アンカーボルト
☑SS400　M＝12　L＝300 mm　ナット（☐シングル　☑ダブル ）
☐SS400　M＝　L＝　mm　ナット（☐シングル　☐ダブル ）
☐頭付スタッドボルト
φ＝13　L＝　mm　使用箇所（☐柱　☐大梁　☐小梁 ）
φ＝13　L＝　mm　使用箇所（☐柱　☐大梁　☐小梁 ）

（６）屋根、床、壁

材種	型式　厚　その他	使用箇所	仕様・構法
ALC板　(JIS A 5416)	厚	☐壁　☐床版	☐スライド　☐ボルト止め
			☐ロッキング　☐
折版	H=165　厚 0.8	☑床版 ☐	
特殊デッキプレート (JIS G 3352)	型式QL99−50　厚1.2	☑床版 ☐	
デッキプレート　(JIS G 3352)	型式　厚	☐床版 ☐	
キーストンプレート (JIS G 3352)	型式　厚	☐床版 ☐	

3，地盤

(1) 地盤調査資料と調査計画
有（☑敷地内　☑近隣 ）　☐無　（調査予定　☐有　☐無）

調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査	●		静的貫入試験			標準貫入試験		
水平地盤反力係数の測定			土質試験			物理探査		
試験堀（支持層の確認)			平板載荷試験			液状化判定		
スウェーデン式サウンディング	●		現場透水試験			ＰＳ検層		

注）上記表中の資料があるもの、調査計画が有るものに○を記入する。

(2) スウェーデン式サウンディング試験

貫入深さ	土質	換算N値	荷重 Wsw(KN) 0.00 / 0.25 / 0.50 / 0.75	貫入量1m当たりの半回転数 Nsw 50 / 100 / 150 / 200 / 250
0.25	粘性土	1.5		
0.50	粘性土	3.0		
0.75	粘性土	5.6		
1.00	粘性土	6.4		
1.20	礫質土	22.8		

注）地盤調査及び試験杭の結果により、杭長さ、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

4，地業工事

(1)直接基礎　☐ベタ基礎　☐布基礎　☑独立基礎　試験堀 ☑有　☐無
深さGL- 1.25 m、支持層 −　長期許容支持力度 120 KN/m²　載荷試験 ☐有　☐無
(2) 地盤改良　☐浅層混合処理工法　☐深層混合処理工法　☐
深さGL-　m、長期許容支持力度　KN/m²　載荷試験 ☐有　☐無
注）「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針：日本建築センター2002」を参考とする
(3) 基礎杭　支持層 −

杭種	材料	施工法	備考
☐RC ☐PRC ☐PHC ☐H鋼 ☐鋼管 ☐摩擦杭 ☐SC杭 ☐	PRC（☐Ⅰ種 ☐Ⅱ種 ☐Ⅲ種） PHC（☐A種 ☐B種 ☐C種） 鋼材 ☐SS400 ☐STK400 ☐JIS	☐打ち込み ☐埋込み(セメントミルク工法) ☐ ☐	認定第　号 年　月　日
☐場所打ち コンクリート杭	コンクリート Fc=　N/mm² Fq=　N/mm² スランプ　cm セメント量　Kg/m² 単位水量　Kg/m² 鉄筋　主筋 SD HOOP SD	☐オールケーシング ☐拡底杭 ☐リバースサーキュレーション ☐アースドリル ☐ミニアース ☐BH ☐深礎（☐手堀 ☐機械堀）	認定 第　号 年　月　日

杭仕様　☐施工計画書承認　☐杭施工結果報告書
試験杭　（☐有　☐無 ）　（☐打ち込み　☐載荷　☐孔壁測定 ）　本

杭径（mm)	設計支持力（t）	杭の先端の深さ（m)	本数	特記事項

5，鉄筋コンクリート工事（施工方法等計画書）

(1) コンクリート
☑ コンクリートはJIS A 5308に適合するJIS認定工場の製品とし、施工に関しては標準図に記載されている事項を除き、JASS 5 による。
☑ 耐久設計基準強度　Fd　☑短期　☐標準　☐長期　☐超長期
☑ セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
☑ 調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
☑ 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
☑ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。
測定検査の回数は、通常の場合、１日１回以上とし、１回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて３回行い、その平均値を試験値とする。
☑ 構造体コンクリートについて現場の圧縮度試験方法はJASS 5T-603によることとし、供試体は現場水中養生、
または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。
また、打込み量が150m³をこえる場合は150m³ごとまたは、その端数ごとに一回を標準とする。一回に採取する供試体は、適当な闘隔をおいた３台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき湯合は、１回当リ６本以上とし、そのうち４週用に３本を用いる。
☑ ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート庄送技士または同等以上の技能を有する者か従事すること。なお、灯ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の賜合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。
☑ コンクリート打込み中及び打込み後5日間は、コンクリートの温度が2度を下がらないようにする。
☑ 乾燥、振動等によってコンクリートの凝結及び硬化が妨げられないように養生を行う。

（２）鉄筋
☑ 鉄筋はJIS G3112の規格品を標準とする。施工は、標準図に記載されている事項を除き、コンクリートと同様に、JASS 5 による。
☑ 高強度せん断補強筋は、JIS G 3137 に規定されるD種1号適合品とする。
☑ 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋基準図(1)(2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」による。
☑ 鉄筋継手等

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級				鉄筋の径
	(1) 引張力最小部位	(2) (1) 以外の部位 (注)			
		A級	B級	SA級	
☐重ね継手	☐ 40d ☐ 35d ☐（ ）d				☐ D(　)以下
☐ガス圧接継手	☐告示1463号第2項各号	☐			☐ D(　)以下
☐溶接継手	☐告示1463号第3項各号	☐	☐		☐ D(　)以下
☐機械式継手	☐告示1463号第4項各号	☐	☐	☐	☐ D(　)以下

注）(1) 以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継協会、日本建築センター等の認定、認定等を取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって「鉄筋継手使用基準（建築物の構造関係技術基準解説書2007」によって検討した部材の条件・仕様によること。
☑ D19未満は、すべて重ね継手とする。
☑ 継手部分の施工要領は、社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」（ガス圧接継手工事、溶接継手工事、機械式継手工事）による。
継手部の検査方法：外観検査 ☑有　☐無　・引張試験 ☑有　☐無　・超音波探傷試験　☐有　☐無
ガス圧接部分の検査超音波探傷試験によって行う場合、最初の数ロットについては引張試験も併用し、1回の試験は5本以上とする。
（1ロットは同一作業班が同一日に作業した圧接箇所で200箇所程度とする）
☑ 柱の帯筋（HOOP）の加工方法は、☑H型（タガ型）　☐W型（溶接型）　☐S型（スパイラルラル型）とする。
☐ コンクリート及び鉄筋の試験は「建筆物の工事における試験及び検査に関する東京都採取要綱」第４条の試験機関で行うこと。
試験機関名
代行業者名
代行業者名とは、試験、検査に伴なう業務を代行する者をいう。

（３）型枠
☑ 材料　合板厚　12㎜を標準とする。　☐施工　JASS 5 による
☑ 型枠存置期間

種類 / 部位 / セメントの種類 / 存値期間の平均気温	せき板 基礎、梁側、柱、壁		せき板 スラブ下、はり下		支柱 スラブ下		支柱 はり下
	早強度ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強度ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強度ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強度ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種
コンクリートの材令(日) 15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28
5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度	5N/cm²		設計基準強度の50%		設計基準強度の 85%		100%

注）1　片持ばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。
注）2　大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。
注）3　支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
主）4　盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注）5　支柱の盛りかえは、小ばりが終ってから、スラブを行う。
一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
注）7　直上階に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱（大梁の支柱は除く）の盛りかえを行わない。
注）8　支柱の盛りかえは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動又は衝撃を与えないように行う。

6，鉄骨工事（施工方法等計画書）

（１）鉄骨工導は指示のない限り下記による
☑ 日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工字技術指針」
☑ 社）日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
☑ 鉄骨製作管理技術者登録機構「突合わ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」

（２）工事監理者の承認を必要とするもの
☑制作工場　☑製作要領書　☑工作図　☑施工計画書
☐ 認定または登録工場（大臣認定 S　H　M　Ⓡ　J　グレードまたは都登録　T1　T2　T3　ランク）
☑ 材料規格証明書または試験成績書
☑鋼材　☑高力ポルト　☑特殊ボルト　☐頭付スタッド
※ 社）日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート。
☑社内検査表

（３）工事監理者が行う検査項目
（☑印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告するニと）
☑現寸検査　☑組立・開先検査　☑製品検査　☑建方検査　☐

（４）接合部の溶接は下記によること
☑ 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロ
☑ 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱
☑ 日本建築学会「溶接工作基準、同解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」
☑ 日本建築学会「鉄骨工事技術指針　工事現場施工編」

（５）接合部の検査
☑ 溶接部の検査（検査結果は後日工事監理者に報告するニこ）

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数 工場自主検査	第三者受入検査	工事監理者	備考
☑完全溶込み溶接部（突合せ溶接部）	外観検査（※）	%	100%	50%	※平成12年建設省告示第1464号第二号による（目視及び計測）
	超音波探傷試験	%	100%	30%	(注) 東京都の要綱に基づき必要となる建築物の場合に実施する
☐	内質検査(注) ☐硬さ試験				
	内質検査(注) ☐示温塗料塗布				柱脚部は、全て超音波探傷試験を行う事。
	マクロ試験・その他	個	個	個	
☐	外観検査（※）				
第三者検査機関名					
第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。					

注1）現場溶接部については原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100%行うこと。
注2）知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主事等に報告すること。

☑ 高カボルトの検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）
軸力導入試験　☐要　☐否　高力ボルトすべり係数試験　☐要　☐否
☑ 一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、共回り等の異常がないことを確認する。
☑ トルシヤ形高力ボルトは二次締め後、ピンテールが破断していることを確認すること。

（６）防錆塗装
☑ 防錆塗装の範囲は、高カボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被服される以外の部分とする。
錆止めペイントは、☐ JIS K5621　☑JIS K5674　☐　☐　を使用して、
４つ星２回塗りを標準とするが、実情に応じて決定すること。
☑ 現場における高カボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し２回塗りとする。

（７）耐火被覆の材料
☐

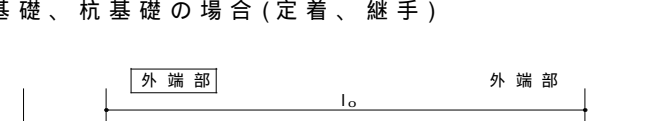
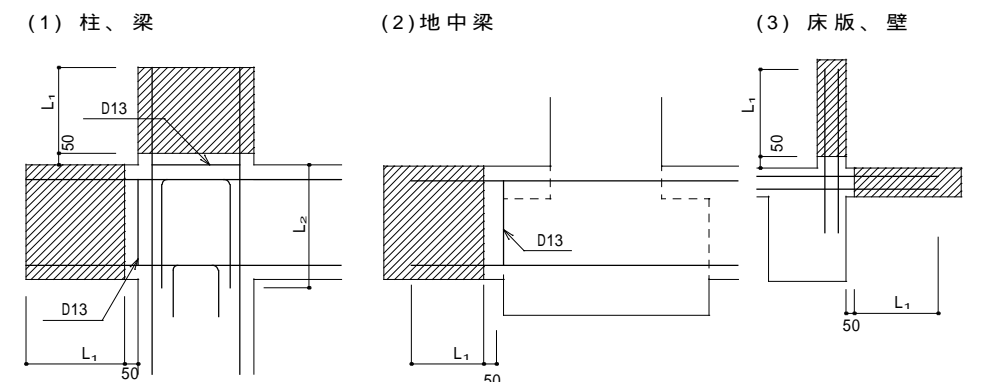
7．設備関係

☑ 建築設備の構造は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。
☑ 建築設備の支持構造部および緊結金物には、錆止め等、防腐のための有効な措置を講じること。
☑ 建築物に設ける屋上からの突出する水槽・煙突・その他これらに類するものは、風圧・地震力等に対して構造耐力上主要な部分に緊結され、安全であること。
☑ 煙突は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造とすること。
☑ 設備配管は、地震時等の建物変形に追従できること。また、地震力等に対して適切に支持されていること。
☑ エレベーターの駆動装置等は、構造体に安全に緊結されていること。
☑ 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。
☑ 床スラフ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の３倍以上かつ５cn以上を原則とする。

8．その他

☑ 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
☑ 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
☑ 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

摘要	設計	承認	縮尺	
1				工事名称　笛吹市消防団　御坂分団第９部拠点施設新築工事
2			設計年月日	
3				図面名称　構造設計標準仕様
4				NO　S-01

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 （1）
1．一般事項
(1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
(2) 記号
d…異形棒鋼の呼び名に用いた数値　丸鋼では径　D…部材の成　R…直径
@…間隔　r…半径　℄…中心線　l₀部材の内寸法距離　h₀…部材間の内法高さ
ST…あばら筋　HOOP…帯筋　S.HOOP…補強帯筋　φ…直径又は丸鋼
2．鉄筋加工、かぶり
(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状
折曲げ角度　180°　135°　90°
図
鉄筋の予長　4d以上　6d以上(※4d以上)　8d以上(※4d以上)
折まげ角度90°はスラブ筋、壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込むT形およびL形梁のキャップタイにのみ用いる。
キャップタイ
※片持スラブ、L配筋の先端
折曲げ内法寸法Rは、SR235は3d以上、SD295A、SD295B
SD345のD16以下は、3d以上、D19以上は4d以上
(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状　鉄筋折り曲げ角度90°以下
図　鉄筋の使用箇所による呼称　鉄筋の種類　鉄筋の径による区分　鉄筋の折曲げ内の寸法(R)
帯筋　あばら筋　スパイラル筋　SR235、SD295A　SD295B、SD345　16φ以下 D16　3d以上　19φ以上 D19　4d以上
上記以外の鉄筋　SR235、SD295A　SD295B、SD345　16φ以下 D16　4d以上　19φ〜25φ D19〜D25　6d以上　28φ〜32φ D29〜D38　8d以上
(3) 鉄筋の定着及び重ね継手長さ
鉄筋の種類　普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲(N/mm²)　定着の長さ　一般(L₂)　下端筋(L₃)　小梁　スラブ　特別の定着及び重ね継手の長さ(L₁)
SR235　21 24　35d フックつき　25d フックつき　15d フックつき　35d フックつき
16 18　45d フックつき　45d フックつき
SD295A SD295B SD345　21 24　35d または 25d フックつき　25d または 15d フックつき　10d かつ 15cm以上　40d または 30d フックつき
16 18　40d または 30d フックつき　45d または 35d フックつき
継手
1，末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2，継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3，直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
4，D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
5，鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない
ガス圧接形状
3mm以下　圧接面　θ>80°　1.1d以上　1.4d以上　d/5以下　d/4以下
圧接継手　重ね継手(下図のいずれかとする)　a≧400　1.5L₁以上　約0.5L₁
(4) かぶり厚さ(単位：mm)
ひびわれ誘発目地部など鉄筋のかぶり、厚さが部分的に減少する箇所に付いても最小かぶり厚さを確保する。
かぶり厚さ
部位　設計かぶり厚さ(mm)
土に接しない部分　屋根スラブ 床スラブ 非耐力壁　屋内 30　屋外 40　はり 柱 耐力壁　屋内 40　屋外 50　擁壁 50
土に接する部分　柱・はり・スラブ・耐力壁 50　基礎・擁壁 70
※ 軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
(5) 鉄筋のあき
丸鋼では径、異型鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上
粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上
異型鉄筋　丸鋼　間隔　あき
図の●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要
柱　梁
(6) 鉄筋のフック (a-fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)
a，丸鋼　b，あばら筋,帯筋　c，煙突の鉄筋
d，柱、梁(基礎梁は除く)の出すみ部分の鉄筋(右図参照)
e，その他、本配筋標準に記載する箇所
3．杭 (地震力等の水平力を考慮する必要のある場合は、別途検討すること。)
(1) PC杭、又はPHC杭全てに補強を行う
所定の場所に止まった場合　所定より低く止まった場合
補強筋　HOOP @150　基礎下端　コンクリート止め板
但しl≦φの場合　l>φの場合は工事管理者の指示による
HOOP @150　3-D16　基礎下端
杭径　300φ、350φ　400φ　450φ　500φ　600φ
補強筋　6-D13　8-D13　10-D13　8-D16　10-D16
HOOP　D10-@150
(2) 現場打ちコンクリート杭
杭頭処理
破り折り部分　余盛コンクリート 800〜1000　へりあき200以上　杭間隔は2xφかつφ+1000以上
柱主筋40d　45d 重ね継手
HOOP筋の継手は片側溶接10d又は重ね継手40d
スペーサー フラットバー@3,000 (各4ヶ所)
主筋のかぶりは100以上とする
4．基礎
(1) 直接基礎
ベース筋 a=D₁+2dの範囲 主筋間隔は200以下
bの範囲 主筋間隔の1.5倍以上かつ300以下
捨フープ
斜め筋 3-D13以上
(2) 杭基礎
フック付　フック無し　余長d　かぶり厚さ　20d (両側)　40d (片側)
(3) べた基礎
ハンチを付けた場合(a≧3)
1，耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう 但し上端と下筋を読みかえる
2，①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
3，②の鉄筋はD13以上
4，埋戻し上のある場合は4070とする
(4) 基礎接合部の補強
3-D13　500<H≦100+H　2-D16以上　45°〜60°
※印筋はD10-@200とする
W₁の三角壁厚さは、200以上又は地中梁幅とし、配筋は同厚の壁リストにならう
H≦500は※印筋は不用とする
5．地中梁
(1) 独立基礎、杭基礎の場合(定着、継手)
外端部　外端部　(継手範囲)
※上端筋の定着は、やむを得ない場合上向きとすることができる
(2) 布基礎、べた基礎の場合(定着、継手)
外端部　内端部　(継手範囲)
上端筋継手範囲　下端筋継手範囲　上端筋継手範囲
(3) 小規模鉄骨構造の柱脚固定の背筋
地中梁の主筋、スタッドボルト(スタッドジベル)による、おさまりに注意する
埋込形　根巻形　鉄骨柱D　HOOP 2-D13以上
地中梁上端筋　主筋の40d以上かつ埋込み形の埋込長さ以上とする　地中梁下下端筋
B.PL下端　30〜50
埋込み長さh 角形鋼管3D以上 H型鋼2.5D以上
(半固定として行政指導されることもあるので留意すること)
注) 根巻形柱脚を採用する場合には耐力、変形、性能などについて十分に注意して設計されたもの。
ベース下の施工を慎重にする
(4) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領
ハンチ　梁幅　ハンチ
※ 一般のあばら筋と同様のものを2本重ねる
(5) せいの高い梁のあばら筋
加工要領図
Dが1500を超える場合
イの拡大図
6．柱
(1) 柱主筋の継手　(2) 柱主筋の定着
鉄筋のフックは柱頭の四隅の鉄筋並びに梁の清華小さく、設計応力に対して必要な定着長さが不足する箇所に付ける
圧接継手　重ね継手　継手の好ましい位置
(3) 帯筋
イ H型(タガ型)　ロ W型(溶接型)　ハ S型(スパイラル型)
設計ピッチ以下　第1帯筋
ロ型　日型　田型
Lは中間部50dかつ300以上 末端部の根巻は1.5巻以上とする
l は片面溶接10d 両面溶接5d以上
Lは50D以上かつ30cm以上とする
注1 第1帯筋は、梁づらに入れる
注2 W型で現場溶接をする場合は主筋の位置をさける
注3 フックおよび継手の位置は、交互とする
(4) 斜め柱・斜め梁
○ 柱幅と斜材(柱又は梁)幅が同一　○ 柱幅と斜材幅が異る　○ 柱脚で斜材となる
注1. 1.5Dの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、又はダブル巻きとし@100以下とする
注2. ①の鉄筋は2-D13かつ、2本の一段太い鉄筋とする
(5) 絞り
帯筋より1サイズ太く又は同サイズ2本
e≦D/6　e>D/6
(6) 二段筋の保持
6φ-@1000　a=1.5x(呼び名の数値)
摘要 1 2 3 4
設計　承認　縮尺　設計年月日
工事名称　笛吹市消防団　御坂分団第9部拠点施設新築工事
図面名称　鉄筋コンクリート構造配筋標準図 （1）
NO S-02

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)
L=鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)の2-(3)による。
7. 大梁、小梁、片持梁
(1) 定着
ⓐ大梁
柱幅が大きい場合
つりあげ筋 (梁主筋を折り曲げるとき)
最上階
折り曲げ起点は柱せいの3／4倍をこえることを原則とする
フック付
※ 柱幅が大きくて、直線部だけで L₁がとれる場合でも柱中心線をこえて中間折り曲げテール長150以上又は180°フック付とする
一般階
斜めでもよい
ⓑ小梁の定着
斜めでもよい
下向きでもよい
最終端
連続端
平面
正面
補強あばら筋は小梁主筋側に必ず入れること。
ⓒ片持梁の定着
先端
端部
平面
片持梁折り下げ
あばら筋を入れる
(2) 大梁主筋の継手
は継手の好ましい位置
(3) あばら筋、腹筋、幅止めの配置
つりあげ筋
第1あばら筋は柱面より配筋する
×印は幅止め筋
つりあげ筋は、一般のあばら筋より、1サイズ太い鉄筋か、又は、同サイズを2本巻とする
(4) あばら筋の型 (注、床板がない場合は135°以上のフックとする)
(イ) 原則としてⓐのフック先曲げとする。片側床版付(L型)梁で b 、両側床板付(T型)梁で ⓒ又はⓑとすることができる
(ロ) フックの位置はⓐにあっては交互、ⓑ似合ってはスラブ側とする。
(5) 幅止め筋の本数、加工
腹筋 D<600 不要 / 600≦D< 900 2-D10(9φ) 1段 / 900≦D<1200 4-D10(9φ) 2段 / 1200≦D D10(9φ)@300以内
幅止め筋 D10(9φ)@1000位内で割り付ける
幅止め筋
腹筋
8. 床板
(1) 定着および継手
ⓐ片持ち床スラブ
ⓑ一般床スラブ
バーサポート
継手位置は原則として下表による。
上端筋 端辺方向 B / 長辺方向 B
下端筋 短辺・長辺方向 A C
肩筋D13以上
10dかつ150以上
(2) 屋根スラブの補強
ⓐ 補強筋は各3-D13又はスラブ主筋の同一径でl=1,500とし、上端筋の下に配筋する
ⓑ ※の箇所(入隅)は各階補強する
(3) 片持ちスラブ出隅部補強
一般床版配力筋
補強筋の定着
出隅部分の補強筋
注 l₁≧l₂とする。
(出隅部分補強配筋)
出隅部
出隅受け部
(出隅受け部配筋)
(4) 床板開口部の補強(開口の径500程度の場合)
周囲補強筋
斜め補強筋
孔と孔のへりあき100以上
床板厚さD 周囲 斜め
D≦150 各2−D13 各1−D13
150<D≦200 各2−D13 各2−D13
200<D≦300 各2−D19 各2−D16
注) 設備の小開口口が連続してあく場合は縦、横、斜補強筋とは別に開口によって切られる鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。
(5) 床板段差
端部
中央
1200x600以下
(6) 土間コンクリート
ⓐ軽作業の土間
折曲 D10−@200
D10−@200
ⓑ間仕切壁との交差部
(7) 釜場
(8) 打継ぎ補強(ダメ穴打継面について)
・設計配筋間隔の1/2ピッチ 長さ2L₁以上
・無筋部分D10−@200 長さ800以上
9. 壁
(1) 定着
ⓐ梁に
横筋の配置は上下端とも梁、又は床面に一段目を配置する。
ⓑ柱に(平面図)
L₂かつ柱中心線を越える
縦筋は、柱面に一本目を配置する。
ⓒ床に (非耐力壁とスラブが取り合う場合)
スラブに上端筋がある場合
スラブに上端筋がない場合
受筋D10
ⓓは壁配筋と同じ
ⓓ壁と壁(平面図)
シングル配筋
ダブル配筋
(2) スリット部(設計図に記入のあるとき)部分スリットの場合
スリット部の鉄筋の被り厚さは2-(4)がかぶり厚さの表、最小かぶり厚さ以上とする。
W≦D/6、Wt/2かつ7cm
tは階高の1/100程度
(3)手摺、パラペット
手摺
パラペット
(但し、H>800以上の場合、設計図による)
(4) コンクリートブロック帳壁
一般の場合
下部防水立上りのある場合
注) h₀≦25tかつ3500以下とする。但し直交方向25t以内に壁、又は柱がある場合は除く
注) hはコンクリートブロック段数調節寸法とする。但し、200≦h≦400
注) 継手部は必ずモルタルをてん充すること
10. 柱、梁増打コンクリート補強 (増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打ち合わせのこと)
a及びa≦200
ハッチ部の面積Acm² 補強縦筋
A<500 3-D16 / 500≦A<1000 4-D16 / 1000≦A<1500 6-D16
ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
●印は補強筋
※は柱と同径、同ピッチとする。
(2) 梁
補強筋
あばら補強筋
・補強筋は、張主筋の1段落し径(D16以上)とする。
・あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。
・腹筋D10ピッチは、梁の腹筋と合わせる。
・D≧400の場合は補強筋を3本とする。
・aは100〜200程度。
・梁下端増打コンクリートの場合も上端打コンクリート補強と同様とする。
・ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
11. 梁貫通孔補強
(1) 設置可能範囲
梁端部(スパンl/10以内かつ2D以内)はさける
望ましい範囲
(φ₁+φ₂)x3/2以上
梁貫通孔が連続して間隔等が取れない場合は設計者又は工事管理者と打合せのこと。
(2) 鉄筋標準配筋但し、φ≦D/3とする
80≦φ≦100 折筋 2-(2-D13) 縦筋 ST2-D13
100≦φ≦150 折筋 2-(2-D13) 縦筋 ST2-D13-100@ 横筋 2-(2-D13)
150≦φ≦250 斜筋 4-(2-D13) 縦筋 ST2-D13-100@ 横筋 2-(2-D13) 縦筋 ST2-D13
φ>250
孔補強の有効範囲と定着長さのとり方
※ 部分については計算で確認された場合は右記の鉄筋で、寸法によらなくて良い。
・梁幅が400を超える場合は補強筋でD13はD16又は、2-D13は3-D13と、各々読みかえる
(3)既製品(使用するときは、設計者又は工事管理者と打合せのこと)
リング型 パイプ型 金網型 プレート型
12. 増築予定 (将来増築予定のコンクリート間仕打ち部分は、増築時の鉄筋継手工事を考慮して配置する)
(1) 柱、梁
(2)地中梁
(3) 床版、壁
摘要 1 2 3 4
設計
承認
縮尺
設計年月日
工事名称 笛吹市消防団 御坂分団第9部拠点施設新築工事
図面名称 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)
NO S-03

鉄 骨 構 造 標 準 図 （1）
1．一般事項
(1) 材料及び検査
(a) 構造設計仕様による
(b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする
(c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する
(2) 工作一般
(a) 鉄骨製作及び施行に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事管理者の承認を得る
(b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による
(c) 高張力鋼のひずみきょう正は、冷間きょう正とする
(3) 高力ボルト接合
(a) 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない
(4) 溶接接合
(a) 溶接技能者
溶接技能者は施工する溶接に適用するJIS Z3801(手溶接)又はJIS Z3841(半自動溶接)の溶接
技術検定試験に合格し引き続き、半年以上溶接に従事している者とする
(b) 溶接機器
(ｲ) 交流アーク溶接機 300A～500A
(ﾛ) アークエアーガウジング機(直流)
(ﾊ) サブマージアーク溶接機１式
(ﾆ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
(ﾎ) 溶接電流を測定する電流計
(ﾍ) 溶接棒乾燥器
(c) 溶接方法
アーク手溶接(MC)
セルフ(ﾉﾝｶﾞｽ)シールドアーク半自動溶接(NGC)
ガスシールドアーク半自動溶接(GC)
アークエアーガウジング(AAG)
(d) 溶接姿勢
下向 F
立向 V
横向 H
上向 O
(e) 組立て溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う
(ｲ) 仮付位置
組立て溶接は溶接の初、終端、遇角部など用度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける
仮付不良
良
仮付不良
良
(ﾛ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する
仮付溶接
裏はつり側にする。
開先面
(f) 溶接施工
(ｲ) エンドタブ
Ⅰ) 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状の
エンドタブを取り付ける
Ⅱ) エンドタブの材質は、母材と同質とする
Ⅲ) エンドタブの長さは、MC：35mm以上
NCG、GC:40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、エンドタブ
母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする
Ⅳ) プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出して設計者
又は工事監理者の承認を得る
t
35mm以上
かつ2t以下
(ﾛ) 裏あて金
材質は母材と同質材料とし
板厚は9mm以上とする
(ﾊ)スカラップ 半径は30mmとする。
但し梁成がD=150mm未満の場合のスカラップはR=20mmとする
R10
R30
45°
R15
(ﾆ) 裏はつり
基準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監理者の承認を
励行し、部材に確認マークを付ける
(ﾎ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部
をいためない様に、養生を行う
(5) 塗装
コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの摩擦面で、コンクリートと
一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない
2．溶接基準図 (注) f:余盛 G:ルート間隔 R:フェース S：脚長 (単位 mm)
(1) スミ肉溶接
t≦16mm
t | 7以下 | 8～10 | 11～13 | 14～16
8 | 6 | 7 | 10 | 12
・但し片面溶接の場合はS＝tとする
・tはt₁、t₂の小なる方とする
余盛は(1+0.1S)mm以下とする
・軸力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい
(2) 部分溶込み溶接 (使用箇所に注意)
D₁≧t/3
t/4≦S≦10mm
t≦t₁
θ=60°
t | t＞16mm
溶接姿勢 | F.V
・両端に補強すみ肉溶接を付加する
(3) 完全溶込み溶接 (平継手、T継手)
θ=45°
R≦2
G=0～2(裏はつり後裏溶接)
t＝4/4
t | 6＜t＜19mm
溶接姿勢 | F.V
・両側に補強すみ肉溶接を付加する AAG
t＝4/4
| MC NGC | | | | GC | | |
t (mm) | θ | G | t₁ | L | θ | G | t₁ | L
6≦t≦12 | 45° | 6 | 6 | 5 | 45° | 6 | 6 | 5
12≦t＜16 | 35° | 9 | 9 | 8 | 45° | 6 | 9 | 8
16≦t | 35° | 9 | 9 | 8 | 35° | 9 | 9 | 8
溶接姿勢 | F.V
25mm以上
・補強すみ肉溶接を付加する
f＝t/4
T形突合せ継手余盛
のど厚 tmm | 余盛の高さ mm
t≦4 | 1
4＜t≦12 | 2
12＜t≦19 | 3
t＞19 | 4
θ=45°(55°)
θ=60°
G=0～2
2/3t
1/3t
・AAG( )内はGCでFHの場合
・両側に補強すみ肉溶接を付加する
t | 6＜t＜19mm
溶接姿勢 | F.V
f≧0.5mm(ただし、t≧15mm のとき4mmとする)
θ=45°
G=0～2
(裏はつり後溶接)
・両端に補強すみ肉溶接を付加する
削り面
a＞4mmの場合
平継手で板厚が異なるとき
G=0～2(裏はつり後溶接)
t | 6＜t＜19mm
溶接姿勢 | F.V
f=t/4
25mm以上
| MC NGC | | | | GC | | |
t mm | θ | G | t₁ | L | θ | G | t₁ | L
6≦t≦12 | 45° | 6 | 6 | 5 | 45° | 6 | 6 | 5
12≦t≦19 | 35° | 9 | 9 | 5 | 45° | 6 | 9 | 5
t≧19 | 35° | 9 | 9 | 8 | 35° | 9 | 9 | 8
溶接姿勢 | F.V
(4) フレアー溶接
プレート
寸法 (mm)
φ | B | S
9 | 7 | 4
13 | 8 | 4.5
16 | 9 | 5
19 | 10 | 6
22 | 11 | 7
25 | 12 | 8
・フレアー溶接長は、鋼板に接する全長とする
・9mm～16mmは1スパン以上、19mm以上は2パス以上とする
溶接棒角度θは30°～40°とする
・溶接記号番号を○中に記入のこと
・BOX型(通しダイヤフラムの場合)
内ダイヤフラム
150以下
80以下
根巻の場合
Ⓐ－Ⓐ 断面図
スカラップ部分は回し溶接する
100以上
25以上かつエンドタブが互にあたらぬこと
内ダイヤフラム
平面詳細図
内ダイヤフラムの場合は柱の角のRに接しないこと
ガス抜き φ=20
25以上
25以上
断面
・柱が途中で折れる場合及梁成が異なる場合
内ダイヤフラム
フランジが柱のRに接しないこと
t＞柱フランジのプレート厚
θ=75°～105°
大梁が斜めの場合は溶接と添板の内側板に注意のこと
・H型
スカラップ部分は回し溶接する
・B．H方式
Ⓐ－Ⓐ 断面図
平面詳細
※全周すみ肉溶接又は完全溶込み（裏あて金付）
摘要 1 2 3 4
設計
承認
縮尺
設計年月日
工事名称 笛吹市消防団 御坂分団第９部拠点施設新築工事
図面名称 鉄骨構造標準図 （1）
NO S-04

鉄 骨 構 造 標 準 図 （2）

3．継手基準、その他

(1) ボルトピッチ(P)、ボルト穴径・最小縁端距離

呼び	ボルト穴径	最小縁端距離(e) (1)	(2)	(3)	(2)(3)の標準	ピッチ(P) 最小	標準
M16	18	40	28	22	40	40	60
M20	22	50	34	26	40	50	60
M22	24	55	38	28	40	55	60
M24	26	60	44	30	45	60	70

〔注〕(1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上ならばない場合の応力方向の縁端距離
(2) せん断縁・主動ガス切断機の場合の縁端距離
(3) 圧延縁・自動ガス切断機・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

(2) ピン接合継手リスト

TYPE－1　TYPE－2

符号	タイプ	部材	PL-(1)	PL-(2)	N-径

(3) 梁剛接合継手リスト

(SCSS-H97による)

注）端部をBHとする場合の部材は設計図による

符号	部材	フランジ PL-(1)	PL-(2)	N1-径	ウェブ PL-(3)	N2-径

(4) ハンチ部の継手

フランジ及ウエブ厚の差のある場合

ハンチ勾配は普通1：4程度であるが構造図による

Ft₁-Ft₂≧1㎜フィラープレート採用のこと

(5) 継手リスト

(㎜)

B_1	B_2
150	60
175	70
200	80
250	100
300	110
350	140
400	170

注)現場溶接は原則として超音波深傷試験を100%行う

符号	部材	フランジ PL-(1)	PL-(2)	N1-径	ウェブ PL-(3)	N2-径

(6) 鉄筋ブレース(JIS規格品とする…JISA5540～5542…1982)

(a) 羽子板ボルト

ねじの呼び(d)			M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径d_1	最大		10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99
	最小		10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77
調整ねじ長さ		S	100	115	125	140	150	165	175
取付ボルト穴径 許容さ+0．-0.5㎜		R	13	17	17	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき(最小) (2)		C_1	35	40	45	50	50	55	50
切板製	へりあき(最小) (1)	e_2	22	28	28	34	34	38	38
	板厚	t	4.5	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へりあき(最小) (1)	e_2	19	25	25	32.5	32.5	37.5	37.5
	板厚	t	4.5	6	6	9	9	9	9
ボルト端から取付ボルト穴心のあき(最小)		e_3	47	52	59	66	66	73	70
溶接長さ(最小)		l	40	50	55	60	75	85	85
取付ボルト (2)	種類		JIS B 1186 2種高力ボルト（F10T）又は JIS B 1180 中 8g 10.9						
	ねじの呼び		M12	M16	M16	M20	M20	M20	M20
	本数		1	1	1	1	1	1	2

注 (1) e_1、e_2が確保されていれば形状は自由でよい
(2) 羽子板とがセットプレートの場合は表に示す取付ボルトを使用し、一面（支圧）接合とする

(b)型鋼ブレース

符号	部材	PL-(1)	N-径	

羽子板ボルト　型鋼ブレース

(7) デッキプレート（床剛性を考慮する合成床、合成は埋のときは構造図参照）

梁との溶接及びコネクター

アークスポット溶接 16φ @200

水平ブレース

受梁へのかかり寸法および端部処理

梁上通しの場合　梁上切断の場合　e≧35㎜　既製品面戸(鉄板)　折曲加工　あて板（鉄板）　あて板（非金属）

スラブ端部の補足材　補足受材

(8) ALC取付け要領

縦筋工法

押入筋構法　スライド構法

横壁工法

ボルト止め構法　カバープレート構法

(9) 頭付きスタッド(JIS1198)

スタッド材の標準形状・寸法

形状	呼び名	軸径d ㎜	頭径D ㎜	頭高さT ㎜	溶接後の長さL ㎜
	φ13㎜	13.0 12.7	22.0 25.4	10.0 7.9	50,80,100,130
	φ16㎜	16.0 15.8	29.0 31.7	10.0 7.9	80,100,130
	φ19㎜	19.0 19.0	32.0 31.7	10.0 9.5	80,100,130,150
	φ22㎜	22.0 22.2	35.0 34.9	10.0 9.5	100,130,150

(10) 梁貫通補強

- 計算で確認された場合は下記の位置、寸法によらなくて良い。
- 梁端部(スパンの1/10以内かつ2D以内)は避ける
- φ≦0.4D

プレート補強(片面又は両面)　パイプとプレート補強(片面)　パイプ補強(小径の場合)　リブプレート補強

(11)その他

摘要	
1	
2	
3	
4	

設計　承認　縮尺　設計年月日

工事名称　笛吹市消防団　御坂分団第9部拠点施設新築工事

図面名称　鉄骨構造標準図　（2）

NO　S-05

ベースパックⅠ型	角形鋼管 F値295N/mm² 以下 □-150×150 ～ □-300×300 用

（財）日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-10」（平成23年2月18日付）

ベースパック柱脚工法 設計 施工 標準図

●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。

1．工法概要

1．1 構成部材

① アンカーボルト
② 注入座金
③ Mナット
④ ベースパックグラウト(グラウト材)
⑤ 定着座金
⑥ テンプレート
⑦ フレームポスト
⑧ フレームベース
⑨ ステコンアンカー（コンクリートアンカー）
⑩ ベースプレート

(注)上記①～⑩の構成部材はベースパック構成部品として供給される。
(注)上記⑥～⑨は現場状況により仕様が異なる場合がある。

1．2 柱脚の定着方法概要

2．柱

F値(N/mm²)	鋼種	採用
235	BCP235	
	STKR400	
295	BCR295	○

3．構成部材・寸法

3．1 ベースプレート

●材質
SN490B 【JIS G 3136】

3．2 アンカーボルト（Mアンカーボルト）

i）アンカーフレーム Aタイプ・特Aタイプ の場合

単位 mm

呼び d	異形部呼び名	L 注1)	X	b 注1)	材質
M27	D29	665,715	45	108,153	SD490 (降伏比75%以下)
M30	D32	710,755	45	108,153	
M33	D35	715,755,795	45	85,113,153	
M36	D38	815,850	60	121,156	

【JIS G 3112】

ii）アンカーフレーム Bタイプ の場合

単位 mm

呼び d	異形部呼び名	L 注1)	X	材質
M27	D29	650,695	45	SD490 (降伏比75%以下)
M30	D32	650,695	45	
M33	D35	695,775	45	
M36	D38	740,775	60	

【JIS G 3112】

注1)据付け高さが低い場合に短いアンカーボルトを使用する。

3．3 Mナット

単位 mm

呼び	A	B	(e)
M27	22	41	47
M30	24	46	53
M33	26	50	58
M36	29	55	64

3．4 定着座金

単位 mm

適用アンカーボルト	g	t	d	材質
M27	55	9	28	SS400
M30	55	9	31	
M33	60	9	34	
M36	65	12	37	

3．5 注入座金

単位 mm

記号	適用アンカーボルト	a1	a2	c	t	d	材質
PM27	M27	32	42	101	18	28	SS400
PM30	M30	32	42	101	18	31	
PM33	M33	35	45	110	18	34	
PM36	M36	35	45	110	18	37	

3．6 フレームベース

i）Aタイプ・特Aタイプ

ii）Bタイプ

3．7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

●ベースパックの据付け高さ（h寸法）はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ（最低h寸法）は下表に記載の値とする。

< Aタイプ >

< Bタイプ※ >

※杭頭納まり及び配筋状況に合わせて特Aタイプを選択できる。

< 特Aタイプ >

単位 mm

採用	ベースパック記号	柱 外径(mm)	柱 板厚(mm)	ベースプレート 材質	形状	a	t	l1	l2	d	アンカーボルト 本数-呼び	材質	標準アンカーフレームタイプ
	15-12R	□-150×150	t≦12	SN490B	(イ)	300	28	50	200	φ45	4-M27	SD490	A
	17-12R	□-175×175	t≦12	SN490B	(イ)	320	32	45	230	φ45	4-M30	SD490	A
	20-09R	□-200×200	t≦9	SN490B	(イ)	360	32	45	270	φ45	4-M30	SD490	A
	20-12R	□-200×200	t≦12	SN490B	(イ)	360	36	45	270	φ50	4-M33	SD490	A
	25-09R	□-250×250	t≦9	SN490B	(ロ)	460	32	55	175	φ45	8-M27	SD490	B
○	25-12R	□-250×250	t≦12	SN490B	(ロ)	460	36	55	175	φ45	8-M30	SD490	B
	25-16R	□-250×250	t≦16	SN490B	(ロ)	460	40	55	175	φ50	8-M33	SD490	B
	30-09R	□-300×300	t≦9	SN490B	(ロ)	520	40	50	210	φ50	8-M30	SD490	B
	30-12R	□-300×300	t≦12	SN490B	(ロ)	520	40	50	210	φ50	8-M33	SD490	B
	30-16R	□-300×300	t≦16	SN490B	(ロ)	520	45	50	210	φ55	8-M36	SD490	B
	30-19R	□-300×300	t≦19	SN490B	(ロ)	560	50	60	220	φ55	8-M36	SD490	B

ベースパック記号	コンクリート柱型 寸法D(mm) 標準フレーム	特A	配筋 立上り筋	フープ筋	設計基準強度 (N/mm²)	フレームベース 寸法W(mm) 標準フレーム	特A	フレームポスト間 寸法x(mm) 標準フレーム	特A	最低h寸法(mm) 標準フレーム	特A	J寸法(mm)
15-12R	460	-	8-D13	D10@150	21以上	250	-	150	-	550	-	135
17-12R	500	-	8-D16	D10@150	21以上	280	-	180	-	600	-	135
20-09R	550	-	8-D13	D10@150	21以上	320	-	220	-	600	-	135
20-12R	550	-	8-D16	D10@150	21以上	320	-	220	-	600	-	135
25-09R	620(600) 注2)	630(600) 注2)	8-D16	D13@150	21以上	223	400	123	300	600	600	135
25-12R	620(600) 注2)	630(600) 注2)	8-D16	D13@150	21以上	220	400	120	300	600	600	135
25-16R	630(600) 注2)	640(600) 注2)	8-D19	D13@150	21以上	216	400	116	300	600	600	135
30-09R	700	700	8-D16	D13@150	21以上	290	470	190	370	600	600	135
30-12R	700	710(700) 注2)	8-D19	D13@150	21以上	286	470	186	370	600	600	135
30-16R	730(700) 注2)	730(700) 注2)	8-D22	D13@150	21以上	283	470	183	370	600	700	150
30-19R	730	730	12-D22	D13@150	21以上	303	490	203	390	600	700	150

4．コンクリート柱型

4．1 形状・材質

注2)アンカーボルト外側に基礎梁主筋を配筋しない場合、下表の（ ）内の寸法を使用できる。

●コンクリート
普通コンクリートとし、設計基準強度は21N/mm² 以上とする。

●鉄筋
SD295(D10,D13,D16)
SD345(D19,D22)

4．2 配筋

フープ筋
立上り筋
150以上

※トップフープはダブルとする

4．3 基礎立上がり

●基礎立上がり高さは50mm以下とする。
※ただし基礎立上がり高さが50mmを超え300mm以下の場合、Lシリーズを使用することができる。

5．工場製作（溶接）

■組立
●ベースプレートの中心線（ｹｶﾞｷ線）に柱材軸心を合わせる。

■溶接方法（完全溶込み溶接）
●完全溶込み溶接とする。(JASS 6 鉄骨工事による)

完全溶込み溶接の開先標準（JASS 6 鉄骨工事 2007年版より）

図	溶接方法	適用板厚 T(mm)	ルート間隔G(mm) 標準値	許容差	ルート面R(mm) 標準値	許容差	開先角度α1(°) 標準値	許容差	溶接姿勢
	被覆アーク溶接	6～	7	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1：45	-2.5,+∞ (-5,+∞)	下向き
			9	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1：35		
	ガスシールドアーク溶接 セルフシールドアーク溶接	6～	6	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1：45	-2.5,+∞ (-5,+∞)	下向き
			7	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1：35		

許容差 ・記号+∞は制限無しを示す。
・2段書きは「鉄骨精度検査基準」に規定する許容差（上段：管理許容差、下段括弧内：限界許容差）を示す。

■ベースプレートの予熱
●気温(鋼材表面温度)が5°C以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼種	板厚(mm) t<32	32≦t<40	40≦t≦50
低水素系被覆アーク溶接	SN490B	予熱なし	50 ℃	50 ℃
CO2 ガスシールドアーク溶接	SN490B	予熱なし	予熱なし	予熱なし

■検査方法：溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。
■施工管理：7．本工法の施工及び施工管理参照。

6．工事場施工

6．1 基礎工事

●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6．2 アンカーボルト据付け

●アンカーボルト（フレーム）の組立ては、4隅のアンカーボルト4本で組立てを行う。

●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。

●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。

e1 :柱心とテンプレートのけがき線との許容差

標準許容差	-2≦e1≦2 基準高さより誤差は -3≦ e ≦10

6．3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト（フレーム）との取り合いを考慮する。
●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6．4 建方

●レベルモルタルはベースパックグラウト（グラウト材）を使用し大きさは右図による。

6．5 アンカーボルトの本締め（弛み止め）

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。

6．6 ベースパックグラウト(グラウト材)の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材1袋（6kg）に対して、計量カップで1.0～1.1ℓ の水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

7．本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者（元請）の管理のもとで実施するものとする。

●本工法のうち6．2アンカーボルト据付け及び6．6ベースパックグラウトの注入は、ベースパック施工技術委員会によって認定された有資格者（ベースパック施工管理技術者・施工技能者）が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。

●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作業者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

摘要	1
	2
	3
	4

設計	承認	縮尺
		設計年月日

工事名称 笛吹市消防団 御坂分団第9部拠点施設新築工事
図面名称 ベースパック柱脚工法標準図
NO S-06

デッキ合成スラブ設計・施工標準

デッキ合成スラブの設計・施工は、日本建築学会「各種合成構造設計指針・同解説」、（社）日本鉄鋼連盟
「デッキプレート床構造設計・施工規準-2004」、デッキ設計マニュアル・同施工マニュアルによる。

設計

材料／デッキプレート　［ISO 9001認証取得］

デッキプレート種類		板厚(mm)	表面処理
QLデッキ	■QL99-50 □QL99-75	■1.2 □1.6	□裏面防錆処理(一次塗装) QLプライマー(P) □亜鉛メッキ(G) [□Z12 □Z27] □ZAM(高耐食溶融めっき鋼板) [□K27 □] □無し( )
QLセルラー	□GKX-50 □GKX-75	□1.2 □1.6	亜鉛メッキ Z27限定

材質	JIS G 3352に定めるSDP1T、SDP2、SDP2G

材料／コンクリート

種類	■普通コンクリート　□軽量コンクリート（□1種 □2種）
設計基準強度	□18　■21　□(　)N/mm²
厚さ(デッキ山上)	■60 □70 □80 □85 □90 □95 □100 □(　)mm

材料／溶接金網・異形鉄筋

■溶接金網	JIS G 3551	■φ6-150×150　□φ6-100×100
□異形鉄筋	JIS G 3112、3117	□D10-@200　□(　)

接合

■焼抜き栓溶接	下記焼抜き栓溶接の項による
□打込み鋲	別途打込み鋲の仕様による
□頭付きスタッド	JIS B 1198　□φ13 □φ16 □φ19 □φ22
□その他	

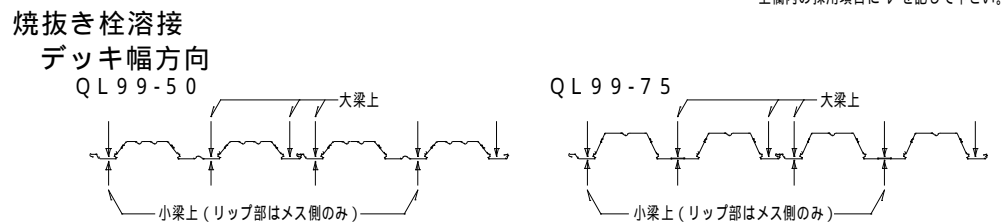
耐火

	1時間	2時間
連続支持	□FP060FL−9095	□FP120FL−9107
単純支持	□FP060FL−9101	□FP120FL−9113
その他 □指定なし	□(　) □(　)	□(　) □(　)

特記

支保工有無	その他：
■無 □有	

上欄内の採用項目に☑を記して下さい。

焼抜き栓溶接
デッキ幅方向
QL99-50　QL99-75
大梁上
小梁上（リップ部はメス側のみ）

デッキスパン方向
「QLデッキ設計マニュアル」に基づいて決定する。

$$A_W = \frac{1.5Q_a}{Q_D} \times 1000\text{mm かつ}600\text{mm 以下}$$

Qa：焼抜き栓溶接1個当たりの長期許容せん断力（N）
QD：設計最大せん断力(N/m)
Aw：焼抜き栓溶接ピッチ

板厚	Qa (N)
1.2	4,900
1.6	7,350(SPW)、6,860(A.P.W)

Aw ＝（ 500 ）mm
（注）接合に頭付きスタッドを用いる場合、焼抜き栓溶接は不要
焼抜き栓溶接
Aw
大梁

アクセサリー
フラッシング（QLデッキ割付の幅調整に用いる。）
W（100〜250）　26　13.5
クローサー（QLデッキの小口ふさぎに用いる。）
ハンガー金具（QLデッキ下溝を利用する天井インサート用金具。）
40　28　185
スペーサー（ワイヤーメッシュの高さ確保用。）

耐火仕様

【連続支持合成スラブ】
支持梁：鉄骨梁 及び 大梁：鉄筋コンクリート梁又は鉄骨鉄筋コンクリート梁、小梁：鉄骨梁
コンクリート：設計基準強度18N/mm²以上の普通コンクリート、及び、軽量コンクリート（1種・2種）

耐火時間	コンクリート種類	デッキのサイズ	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋（D10−@200）	許容積載荷重
床、1時間耐火 FP060FL-9095	普通コンクリート	QL99−50	3.0m 以下	80mm 以上	φ6−150x150	算出式 注5)A 参照
		QL99−75	3.4m 以下			算出式 注5)B 参照
			3.6m 以下	90mm 以上	φ6−100x100	4,400N/m²以下 注2)
	軽量コンクリート	QL99−50	3.0m 以下	80mm 以上	φ6−150x150	算出式 注5)A 参照
		QL99−75	3.4m 以下			算出式 注5)B 参照
床、2時間耐火 FP120FL-9107	普通コンクリート	QL99−50	2.7m 以下	95mm 以上	φ6−100x100	算出式 注5)A 参照
		QL99−75	3.4m 以下	90mm 以上		算出式 注5)B 参照
			3.6m 以下	95mm 以上	D10−@200	5,400N/m²以下 注2)
	軽量コンクリート	QL99−50	2.7m 以下	85mm 以上	φ6−100x100	算出式 注5)A 参照
		QL99−75	3.4m 以下			算出式 注5)B 参照
			3.6m 以下	90mm 以上	D10−@200	5,400N/m²以下 注2)

ワイヤーメッシュ（φ6−150×150またはφ6−100×100）または異形鉄筋（D10以上、@200以下）（床全面敷設）
端部補強筋D13、長さ1.0m
普通又は軽量コンクリート
コンクリート厚さ　デッキ高さ
QLデッキ（メッキまたは防錆処理）
RC梁又はSRC梁
QLデッキ
焼抜き栓溶接、打込み鋲又は頭付きスタッド
鉄骨梁
30　150　850　50　スパン　スパン

【単純支持合成スラブ】
支持梁：鉄骨梁　コンクリート：設計基準強度18N/mm²以上の普通コンクリート、及び、軽量コンクリート（1種・2種）
耐火補強筋：D13（デッキプレート各溝@300）

耐火時間	コンクリート種類	デッキのサイズ	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋（D10−@200）	許容積載荷重
床、1時間耐火 FP060FL-9101	普通コンクリート	QL99−50	2.7m 以下	80mm 以上	φ6−150x150	算出式 注5)A 参照
		QL99−75	3.4m 以下			算出式 注5)B 参照
	軽量コンクリート	QL99−50	2.7m 以下			算出式 注5)A 参照
		QL99−75	3.4m 以下			算出式 注5)B 参照
床、2時間耐火 FP120FL-9113	普通コンクリート	QL99−50	2.7m 以下	95mm 以上	φ6−100x100	算出式 注5)A 参照
		QL99−75	3.4m 以下	90mm 以上		算出式 注5)B 参照
	軽量コンクリート	QL99−50	2.7m 以下	85mm 以上		算出式 注5)A 参照
		QL99−75	3.4m 以下			算出式 注5)B 参照

支持梁：鉄筋コンクリート梁又は鉄骨鉄筋コンクリート梁の場合　コンクリート：設計基準強度18N/mm²以上の普通コンクリート
耐火補強筋：D13（デッキプレート各溝@300）

耐火時間	コンクリート種類	デッキのサイズ	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋（D10−@200）	許容積載荷重
床、1時間耐火 FP060FL-9101	普通コンクリート	QL99−50	2.7m 以下	80mm 以上	φ6−150x150	算出式 注5)A 参照
		QL99−75	3.4m 以下			算出式 注5)B 参照
床、2時間耐火 FP120FL-9113	普通コンクリート	QL99−50	2.7m 以下	95mm 以上	φ6−100x100	算出式 注5)A 参照
		QL99−75	3.4m 以下	90mm 以上		算出式 注5)B 参照

ワイヤーメッシュ（φ6−150×150またはφ6−100×100）または異形鉄筋（D10以上、@200以下）（床全面敷設）
普通コンクリート
普通又は軽量コンクリート
耐火補強筋 D13
コンクリート厚さ　デッキ高さ
QLデッキ（メッキまたは防錆処理）
RC梁又はSRC梁
鉄骨梁
焼抜き栓溶接、打込み鋲又は頭付きスタッド

注1）スパンとは鉄骨梁の場合デッキプレートを支持する梁の中心間距離、鉄筋コンクリート梁の場合梁内法寸法をいう。
注2）スパンが3.4mを超える場合は、合成スラブと梁とは頭付きスタッド（軸径16mm以上、ピッチ300mm以下）で結合する。
注3）鉄骨梁の場合、梁との接合は焼抜き栓溶接、打込み鋲、または頭付きスタッドを用いる。
注4）梁の耐火被覆　梁に1、2または3時間の耐火性能が要求される場合は、それらに応じ耐火被覆を施す。
注5）許容積載荷重W　算出式　ℓ：支持スパン（m）

[A] QL99−50	[B] QL99−75
$W=5{,}400\times(\frac{2.7}{\ell})^2$ かつ9,800 N/m² 以下	$W=5{,}400\times(\frac{3.4}{\ell})^2$ かつ9,800 N/m² 以下

※許容積載荷重は、床にかかる全荷重(仕上げ荷重も含む)から床荷重(デッキプレートとコンクリートの自重)を差し引いた値を示します。

付帯条件　連続支持合成スラブの場合、デッキプレートは2スパン以上にわたって連続的に小ばり等によって、ほぼ等間隔に支持されるものとする。

標準納まり

支持梁：鉄筋コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート梁
a：外周梁（デッキスパン方向）
b：内部梁（〃 〃）
c：外周梁（デッキ幅方向）
d：内部梁（〃 〃）
e：柱廻り

支持梁：鉄骨梁
A：外周梁（デッキスパン方向）
B：内部梁（〃 〃）
C：外周梁（デッキ幅方向）
D：内部梁（〃 〃）
E：梁継手（デッキスパン方向）
F：〃（デッキ幅方向）
G：柱廻り
H：連続支持と単純支持

溶接金網
コンクリート表面よりのかぶり厚さが30mmになるようレベル保持し、全面に配筋する。
溶接金網の重ね代L1：
1メッシュと50mm以上
φ6-150×150は200mm以上
φ6-100×100は150mm以上
異形鉄筋の重ね代L2：
45D以上

開口部補強案
1）開口がφ150程度の場合
2）w：600mm以下 L：900mm程度以下
3）w＞600mmの場合

施工

施工順序	敷込み
墨出し → 敷込み仮止め溶接 → デッキと梁との接合（1）頭付きスタッド 2）打込み鋲 3）焼抜き栓溶接）→ 溶接金網敷込み → コンクリート打設 → 検査	1）墨出し線に合わせて1枚目のデッキプレートを仮止め溶接した後、順次適当な枚数(5〜10枚)ごとに仮止め溶接する。 2）デッキプレートの溝部が各大梁上に乗るように敷込む。（50mm以上） 3）デッキプレートの長さ方向の梁上のかかり幅は、50mm 以上に敷込む。

デッキと梁との接合
1）頭付きスタッド
仕様及び打設位置は別途設計図による。
デッキプレートと梁とはアークスポット溶接等で接合する。
2）打込み鋲
別途打込み鋲の施工要領による。
3）焼抜き栓溶接
平成14年4月16日 国土交通省告示第326号 第2接合ハ(4)焼抜き栓溶接に基づく下記仕様による。（梁フランジの表面処理条件；黒皮または一般錆止め塗装）

焼抜き栓溶接［SPW］—アーク手溶接—
（1）溶接機
交流アーク溶接機 AW250A以上 エンジン溶接機 230A以上
（2）溶接棒
JIS Z 3211のD4316、JIS Z 3212のD5016 に定める低水素系被覆アーク溶接棒で棒径4mmφのもの
（3）標準溶接条件

梁フランジ板厚	溶接電流
6mm以上	190〜230A(標準210A)

（4）溶接工の資格
JIS Z 3801、JIS Z 3841 における基本級の有資格者
（5）手順・要領
右の1〜4の順に行う。

	工程	手順・要領
1	アーク発生	デッキを梁になじませ(隙間2mm以下)溶接棒をデッキに垂直にしてアークを発生させる。
2	デッキ焼抜き	溶接棒を若干引き上げてアークを飛ばし、径10mm弱で"の"の字を描いてデッキを焼抜く。
3	押し込み・溶着	溶接棒を梁上まで押し込み、焼抜きの内側をなぞるように円中央へ2〜3回転しながら運棒。
4	整形	溶着金属を整え、中央部でそっと溶接棒を引き上げる。スラグを除去して仕上がりを確認。

溶接時間の目安；電流値210A(標準)の場合8秒程度

自動焼抜き栓溶接［A.P.W］—CO2アークスポット溶接—
（1）一次側電源の必要容量：仮設電力の場合 18KVA以上 3相 200V
発電機の場合 35KVA以上 3相 200V
（2）ワイヤの種類と直径：YGW 11、12 φ1.2mm
（3）標準溶接条件：下表

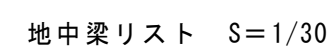
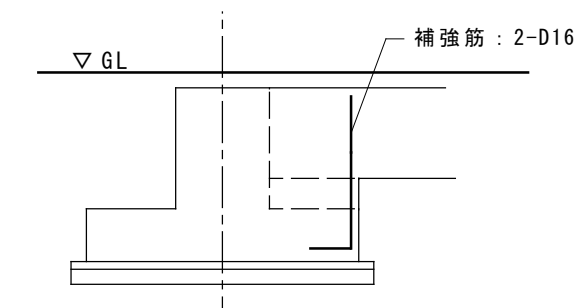
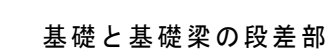
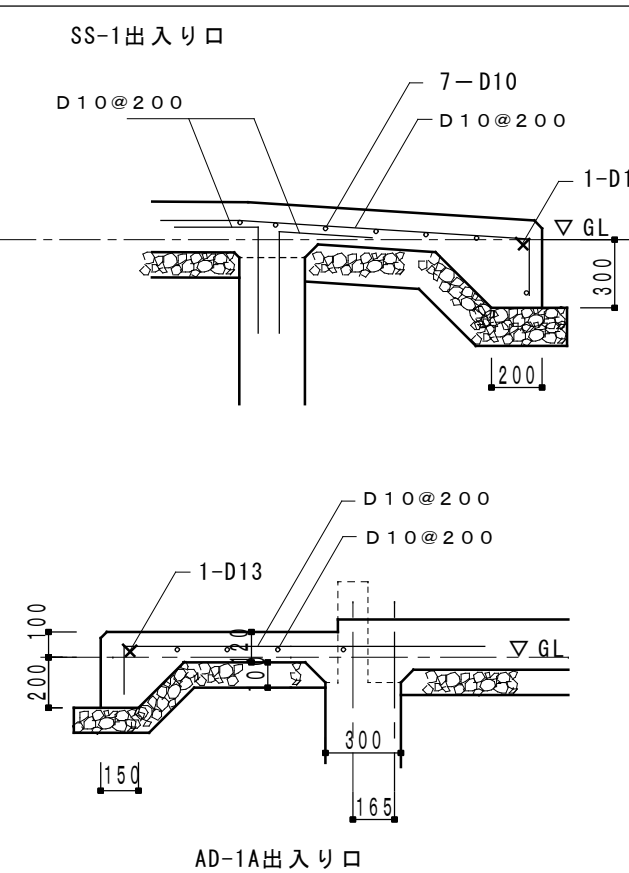
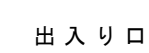
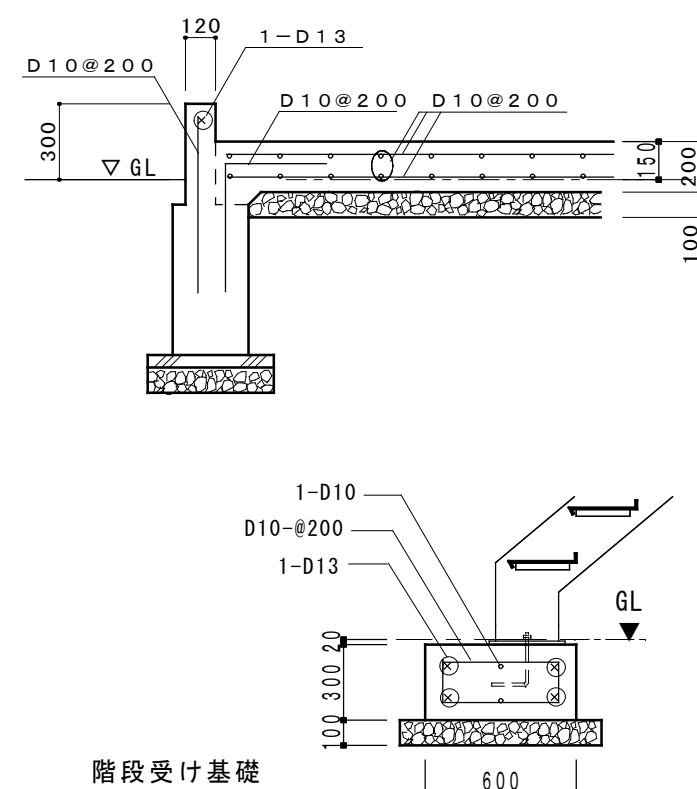
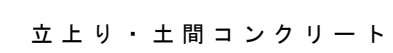
デッキ板厚(mm)	梁フランジ板厚(mm)	電流(A)	電圧(V)	アークタイム(秒)
1.2	6〜9未満	300〜320	33〜35	3.0〜4.0×1度打ち
	9以上	300〜320	33〜35	3.0〜4.0×2度打ち
1.6	6〜9未満	300〜320	34〜36	3.5〜4.5×1度打ち
	9以上	300〜320	34〜36	4.0〜4.5×2度打ち

注1.デッキプレート 板厚1.2、1.6mm 表面条件：Z12、Z27、裏面塗装
2.CO2ガス流量：20ℓ／分以上

検査
【焼抜き栓溶接（SPW）及び自動焼抜き栓溶接（A.P.W）】
□事前検査
SPW：適正な溶接を行うため下記の方法で電流値をチェックする。
1）検流計での計測
2）溶接棒の消費長さによる確認 —— 未使用の規定の溶接棒を用いて、アーク長さを約3mmに保持し、10mm程度の円を描いて10秒間溶接した時の溶接棒の消費長さが45〜53mmであること。
A.P.W：試し溶接を行って溶接径を確認する。
□溶接後の外観検査
1）溶接箇所の確認　2）焼き切れ、余盛り不足の有無
3）標準余盛り径 SPW；18mm以上 A.P.W；25mm±3
□不良部の補修
SPW の場合：スラグ除去後、梁にデッキプレートを密着させて再溶接する。不具合箇所に溶着金属を流し込む要領で補修。
A.P.Wの場合：重ね溶接して補修する。
【その他】
(1)デッキ相互の嵌合状況　(2)溶接金網の敷込み状況　(3)開口部の補強状況

□2008/12/04/A2-JWW/A□

摘要 1 2 3 4
設計　承認　縮尺　設計年月日
工事名称　笛吹市消防団　御坂分団第9部拠点施設新築工事
図面名称　デッキ合成スラブ設計・施工標準
NO S-07

基礎伏図 S＝1／100
境界線
階段受け
基礎リスト S＝1/30
F１
設計GL
6-D13
ベースパック 25-12R
FC
柱部材 □-250×250×12
ベースプレート 460×460×36
アンカーボルト 8-M30(SD490) L=695
コンクリート柱断面 620×620
立上り筋 8-D16(SD295)
フープ筋 D13@150(SD295)
コンクリート設計基準強度 21N/mm² 以上
地中梁リスト S＝1/30
D19は圧接継手とする
符号 FG１ FG２
位置 全断面 全断面
断面
上端筋 2-D19 2-D19
下端筋 2-D19 2-D19
S.T.P D10-@200 D10-@200
腹筋 2-D10 2-D10
立上り・土間コンクリート
階段受け基礎
出入り口
SS-1出入り口
AD-1A出入り口
基礎と基礎梁の段差部
補強筋：2-D16
特記事項
（１） 鉄筋 ： (D10～D16)ＳＤ２９５Ａ (D19以上)ＳＤ３４５
（２） コンクリート： Ｆｃ＝２１ N/mm²
（３） 長期許容支持力度 ： ｑａ＝１２０ KN/m²
（４） ： 基礎伏図土間コンクリート部分を示す。
（５） ： 基礎伏図立上り部分を示す。
摘要
設計
承認
縮尺 S＝1/100･30
設計年月日
工事名称 笛吹市消防団 御坂分団第９部拠点施設新築工事
図面名称 基礎伏図・基礎リスト
NO S-08

梁リスト　ガセットプレート　SS400

符号	継手	使用材料	2階	継手	使用材料	R階
G 1	J 1	SN400B	H－300x150x 6.5 x 9	J 2	SN400B	H－250x125x 6 x 9
G 2	J 1	SN400B	H－300x150x 6.5 x 9	J 2	SN400B	H－250x125x 6 x 9
G 0		SN400B	H－300x150x 6.5 x 9		SN400B	H－250x125x 6 x 9
B 1	J 3	SS400	H－200x100x5.5x 8	J 3	SS400	H－175x90 x 5 x 8
水平ブレース				J 6	JIS建築用ターンバックル筋かい	1－M16

階段

柱リスト　通しダイアプレート　SN490C

符号	継手	使用材料	1階		継手	使用材料	2階	
C 1	ベースパック（25-12R）	BCR295	□－250x250x 12	λ＝102.6		BCR295	□－250x250x 9	λ＝67.0
P 1	J 7	STKR400	□－100x100x3.2		J 7	STKR400	□－100x100x3.2	
P 2	J 8	STKR400	□－100x100x3.2		J 8	STKR400	□－100x100x3.2	
胴縁		SSC400	C－100x 50x20x2.3@600 2C－100x 50x20x2.3	（仕上材継手部分）		SSC400	C－100x 50x20x2.3@600 2C－100x 50x20x2.3	（仕上材継手部分）

床版

J 7　□－100x100x3.2

ベースプレート	PL－ 6x120x300
A. BOLT	2－M12 L＝300
スチフナー	PL － 6

継手リスト　S=1/20

J 1　H－300x150x6.5x9

フランジ	2PL－9x150x290
	2PL－9x60x290
ウェブ	2PL－6x170x200

J 2　H－250x125x6x9

フランジ	2PL－12x125x410
ウェブ	2PL－ 6x170x290

J 3　H－200x100x5.5x8　H－175x90x5x8

ガセットプレート	PL － 6
H. T. B	2 － M16
スチフナー	PL － 6

J 6　1－ M16

ガセットプレート	PL － 6
H. T. B	1 － M16
羽子板	FB－6x50

J 8　□－100x100x3.2

ベースプレート	PL－ 6x120x300
A. BOLT	2－M12 L＝300
スチフナー	PL － 6

摘要	設計	承認	縮尺 S＝1/20	工事名称　笛吹市消防団　御坂分団第9部拠点施設新築工事	
1 2 3 4			設計年月日	図面名称　部材リスト	NO S-10

摘要	1		設計	承認	縮尺 S＝1/30	工事名称 笛吹市消防団 御坂分団第９部拠点施設新築工事	NO S-11
	2				設計年月日	図面名称 架構詳細図	
	3						
	4						

工事名　笛吹市消防団　御坂分団第９部拠点施設新築工事

電気設備仕様書

(1) 工事概要

1. 工事場所　笛吹市御坂町蕎麦塚６２８－１

2. 建物概要

建物名称	構造	階数	延べ面積 (m²)	消防法施行令 別表第一	建築基準法 別表第一	備考
消防詰所	S	2 階建	97.5			新築

(注記：延べ面積は建築基準法による表記)

3. 工事種目 (○印のついたものを適用する)

建物別及び屋外 / 工事種目	工事種別 消防詰所				備考
受変電設備					
発電設備					
○ 幹線設備	新設一式				
動力設備					
○ 電灯コンセント設備	新設一式				
電話配管設備					
拡声設備					
テレビ共聴視設備					
電気時計設備					
インターホン設備					
トイレ呼出設備					
LAN配管設備					
監視カメラ設備					
火災報知設備					
機械警報配管設備					
構内配電線路					
構内通信線路					

(2) 工事仕様

1. 共通仕様
   (1) 図面及び特記仕様に記載されてない事項は、全て下記による。
   1) 国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書　(電気設備工事編・最新版)」
   「公共建築改修工事標準仕様書 (電気設備工事編・最新版)」
   及び「公共建築設備工事標準図　(電気設備工事編・最新版)」

   (2) 機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合は、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。
   尚、機械設備工事の工事仕様書及び建築工事の工事仕様書は、各々電気設備工事に準ずる。

2. 工事範囲
   設計図書、現場説明及び工事契約書による。

3. 提出書類
   現場説明書、工事契約書及び監督員の指示するもの。(○印の付いたものを適用する)

○工程表	○施工計画書	○設備機材等選定表	○機器類製作図	○施工図面
○工程写真	○完成写真	○試験成績書	○機器類完成図	○完成図面
○保証書類	○取扱説明書	○届出書類の控え	○機器材納品書	○工事日報
○	○	○	○	○

4. 特記仕様
   (1) 項目は番号に○印の付いたものを適用する。
   (2) 特記事項において選択する内容の事項は、○印の付いたものを適用する。
   (3) その他細部については、監督員の指示による。

項目	特記事項
① グリーン購入法	グリーン購入法に該当する品目は、その判断基準よる仕様を満足すること。
② 機材等	本工事に使用する設備機材等は、設計図書 (「設備機材等選定表」を含む) に規定するもの又は、これらと同等なものとする。ただし、これらと同等のものとする場合は監督員の承諾を受ける。 化学物質を発散する建築材料等はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 尚、ホルムアルデヒドを発散しないものとは JIS及び JISの F☆☆☆☆表示建築材料を、ホルムアルデヒドの発散が極めて少ないものとは JIS及び JASの F☆☆☆表示建築材料又は同等品を云い、原則として F☆☆☆☆表示建築材料を使用するものとするが、該当する材料等がない場合は、F☆☆☆表示建築材料又は同等品を使用するものとする。
③ 工事用電力・水・その他	本工事に必要な工事用電力、水等の費用及び官公署その他の関係機関への諸手続等に要する費用は請負者の負担とする。
④ 工事写真	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「工事写真の撮り方 (最新版) 建築設備編」による。
⑤ 発生材の処理	1) 引渡しを要するもの　⊙ 無し ・ 有 (　　　) 2) 引渡しを要するもの以外 構外搬出とし、搬出及びその処理は　・ 別途工事とする。⊙ 本工事とする。 3) 特別管理産業廃棄物　⊙ 無し ・ 有 (PCB 使用機器：　　　) PCB 使用機器は関係法令により適切に処理し、建物管理者に引渡す。 4) 再利用又は再資源化を図るもの　・ 無し ・ 有 (現場監督職員の指示による　　　) ・ 現場説明書による。
6 残土処理	・ 埋戻し後の建設残土は、監督職員が指示する構内の場所に敷きならしとする。 ・ 現場説明書による。　・ 場外搬出処分とする。
⑦ 電線本数管路など	分電盤、制御盤及び端子盤等の二次側以降の配線経路は、電線太さ、電線本数及び管経等は監督職員の承諾を受けて変更しても差し支えない。 また、機械室等の床配線は図面上 PF 管で記載している場合であっても、立上げ部分等の露出配管部分は金属管とし、その場合は全長に亘って接地線を設ける。
⑧ 使用電線管	特記なき電線管は、合成樹脂可とう電線管 (PF一重管) とし、ボックス及び附属品等も樹脂製とする。露出配管はネジナシ電線管 (EP)とする。 ただし雨線外の露出部分は、薄鋼電線管 (CP) を使用すること。
⑨ 予備配管	埋込形の盤類には、予備配管を設ける。［予備回路×3 までは (22) 相当を 1本、×4 以上は (22) 相当を 2本とし、予備スペース 1に対して (28) 相当を各 1本天井内まで立ち上げる］
⑩ 導入線	予備 (空) 配管には、太さ 1.2mm以上の被覆鉄線を挿入する。
⑪ 金属製電線管の塗装	下記の露出配管は塗装を行う。(プライマー処理後、OP2回塗り指定色仕上) ・ 屋外 (　　　)・ 屋内 (　　　)
⑫ 産廃物の適正処理	施工に際して発生する建設副産物は、関係法令に従って適切に処理すること。
⑬ 寸法・形状	本設計図のうち、機器姿図等に記入の寸法・形状は参考とする。
⑭ 盤類の鍵	盤類の鍵は、基本的に 200番とし、使い分けが必要な場合は 550番と併用する。
⑮ 電磁開閉器用	遠方操作用押ボタンは、連用形とする。
⑯ スイッチ	⊙ タンブラ JIS連用大角形　⊙ ネーム付 (印刷文字)　・ ワイド形
⑰ コンセント	図面に特記なき場合は、コンセント 2P15A (接地極付) は、プラグ不要とする。
18 フロアコンセント	プラグ収納形　・ アップ形　・ 上下動形
⑲ プレートの材質	フラッシプレート　⊙ 金属製　・ 樹脂製
20 ローテンションアウトレット	フロアプレート　・ 砲金製　・ アルミ合金製 ・ ＯＡ対応形 (大口) ・ 片口形　・ 両口形
21 保安器用接地	・ 本工事　・ 別途
㉒ 接地極埋設標	屋外灯を除く接地極埋設個所には接地極埋設標 (金属製・国土交通省形) を取付けること。
23 地中線の埋設標	構内線路における埋設標の材質及びその個数は、図面に記載のない場合は次による。 ・ 鉄製 (　箇所)　・ コンクリート製 (　箇所)
㉔ 施工図等の取扱い	施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。
㉕ 環境対策型製品 (線ケーブル類)	電線ケーブル類は、環境対策型「エコマテリアル」(EM) 製品を使用する。 但し、既製品のない種類の物は監督職員の承諾を得ること。 EM電線等で規格等の記載のないものは、ハロゲン及び鉛を含まない材料により構成されているものとし、次の記号、仕様による。

記号	仕様
EM－UTP	JIS X 5150 (UTP)に準じ、シースに JCS規格による EMケーブルの耐燃性ポリエチレンを用いたもの
EM－CEES	JIS X 4258 D(制御用ケーブル(遮へい付))に準じ,絶縁材及シースに JIS規格による EMケーブルの耐燃性ポリエチレンを用いたもの
EM－MEES	JCS 271(MVVS) に準じ、シースに JCS規格による EMケーブルの耐燃性ポリエチレンを用いたもの

㉖ 取付高さ　壁付、壁掛形の機器等の取付高さは、図面に記載のない場合は原則として下表による。

名称	測点	取付高さ(mm)
ブラケット (一般)	床上～中心	2,100
〃 (踊場)	〃	2,500
〃 (鏡上)	鏡上～中心	150
避難口誘導灯	床上～下端	1,500 以上
廊下通路誘導灯	床上～上端	1,000 以下
スイッチ (一般)	床上～中心	1,300
〃 (身体障害者用)	〃	1,100
コンセント、電話アウトレット、直列ユニット	〃	300
〃 (和室)	〃	150
コンセント(車庫)	〃	800
子時計、スピーカ	〃	(天井高) * 0.9
アッテネータ	〃	1,300
出退表示盤 (表示灯)	〃	(天井高) * 0.8
発信器 (出退表示用)	〃	1,300
インターホン	〃	1,500
身体障害者用インターホン子機	〃	1,100
呼出ボタン (身体障害者用)	〃	900
復帰ボタン (〃)	〃	1,800
廊下表示灯 (〃)	〃	2,000

備考：(天井高) * 0.9 及び (天井高) * 0.8 は大凡天井高が 2,500～3,000mm の場合に適用する。

項目	特記事項
㉗ その他	⊙ 機材メーカーに拠る施工要領で禁止事項及び注意義務は施工者の責任施工とする。 ⊙ ケーブル配線等、防火区画貫通個所は、耐火処置を施すこと。 ⊙ 屋外 (多湿所) に使用するプルボックス、支持金物及びビス類はステンレス製とすること。 ・ 波付硬質ポリエチレン管 (FEP) は難燃性製品を使用すること。 ・ 波付硬質ポリエチレン管より建物、盤及び露出立上がり箇所は、異種管接続材を使用し厚鋼電線管等にて施工すること。(耐震処置例による) ・ 屋外より地下ピットへの配管飛込み部分は、つば付スリーブ、防水用止水材を使用し防水処置を行う。 ・ 地中配管口には、湿気、泥水、小動物及び危険性ガス等が浸入せぬ様、管口止水材 (パテ、シール等) を使用すること。 ・ 建築構造上のエキスパンジョイント箇所は、配線上支障なき様処置すること。 ⊙ ハンドホール、プルボックス内では、ケーブル本数及び、点検等を考慮しケーブル支持金物などを設ける。 ⊙ ハンドホール、幹線用プルボックス及び、分電盤等要所の電線等には、プラスチック製の名札を取付け、配線サイズ、系統種別、行先、施工年月日及び施工者名を刻印表示する。 ⊙ 断熱施工する外壁面取付の位置ボックスには、結露防止材を使用すること。 ⊙ 図面に特別指示なくも技術上、構造上、美観上当然必要とみとめられるものは請負者負担において、良心的に行うものとする。 ⊙ 引込み取付け点は、電力会社,NTT,CATV等 関係担当員と協議の上決定する。
㉘ 機器類の施工	メーカー建材・製品・電気及び機械設備機器類の施工については、工事標準仕様書によるほかメーカー仕様書に基づき責任施工とし、メーカー立会いのもと施工状況を確認し完成届を監理者に提出する事。 完成届受理後、監理者は検査を行なうが、メーカー建材・製品・設備機器類、施工の瑕疵については、監理者は責任を負わない事とする。

5. 凡例

図中特記なきシンボル等は JIS-C-0303-00 に準拠。(細目は、平面図等による)

(3) 設備機材等選定表 (下記以外は監督員の承諾を得ること)

機材名	指定メーカー					
受変電、配電盤類	新星	小林	ﾋﾞｰﾃｯｸ	誠和		
○ 分電、端子盤類	ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ	内外	日東	河村		
○ 制御盤類	新星	小林	ﾋﾞｰﾃｯｸ	誠和		
変圧器、コンデンサー	日立	富士	東芝	三菱	ニチコン	ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
発電機	日立	東京電機	明電舎			
○ 照明器具類	ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ	東芝	三菱	岩崎		
電話機器類	日立	ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ	富士通	ＮＥＣ	沖電気	ＮＴＴ
電気時計・表示機器類	シチズン	セイコー	ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ			
拡声、視聴覚機器	ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ	ＴＯＡ	JVCｹﾝｳｯﾄﾞ	ﾕﾆﾍﾞｯｸｽ		
テレビ共聴機器	ＤＸ	ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ	八木	マスプロ	日本ｱﾝﾃﾅ	
誘導支援・呼び出し機器	アイホン	ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ	ケアコム			
火災報知機器	能美	ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ	沖電気	ホーチキ	ニッタン	
防排煙制御機器	能美	ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ	沖電気	ホーチキ	ニッタン	
ハンドホール類	フジプレ	日本資材	関根	杉江	土井	北関東
ケーブルラック類	ネグロス	ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ	カナフジ			
避雷設備機器類	東京	大阪	ワールド	村田	ライオン	沖電気
○ 配線器具類	ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ	東芝	神保	寺田	明工社	アメリカン
○ 電線ケーブル類	JISマーク表示品、又はJISマーク表示許可工場					
○ 電線管、付属品類	同上					

(4) 工事区分表(○印付が適用を示す)

他工事との取り合い (工事内容)		電気	機械	建築	別途	備考
電力会社の引込工事負担金					○	
CATV・有線等の加入金					○	
配管、配線用の梁、壁等構造体貫通部の	補強			○		
	スリーブ仮枠					
埋込形分電盤プールボックス類の	補強					
	仮枠					
埋込照明具の天井下地開口及び補強						
ダウンライトの天井切込開口補強		○				
屋内、室外に設置する機器類の基礎	屋内、屋上					
	屋外					
キュービクル・発電機廻りのフェンス						
壁、床、天井に設ける点検口				○		
別途機器等への接続(直接接続するもの)		○				
自動扉等の2次側配線						
誘導標識・消火器					○	
電話機器及び配線						
電波受信障害調査及び対策					○	
換気扇			○			
同上電源及びスイッチ配線		○				シックハウス用共電気設備工事
ガス漏れ警報器					○	リース対応品
各槽類の電極 (含む、保持器)						
同上電極等の長さ又は設定位置指示						
昇降機のインターホン機器						
同上配管・配線						

摘要	設計	承認	縮尺	
1 2 3 4			S＝N．S 設計年月日	工事名称　笛吹市消防団　御坂分団第９部拠点施設新築工事 図面名称　電気設備工事　特記仕様書

NO　E-1

摘要	1		設計	承認	縮尺 S＝1／100	工事名称　笛吹市消防団　御坂分団第９部拠点施設新築工事	
	2						
	3				設計年月日	図面名称　配置図	NO　E-2
	4						

盤名称　主幹開閉器
電源方式
キャビネット方式

回路番号 100V	回路番号 200V	負荷容量 VA	負荷容量 KW	負荷名称	分岐開閉器 MCCB	ELCB	R-RY	AF	AT	方式 操作制御	スイッチ 操作制御	備考
	1	1910		エアコン屋外機AC-1	2P			30	30			
	2			予備	2P			30	20			
1		562		1F 電灯	2P			30	20			
2		478		2F 電灯	2P			30	20			
3		600		1F コンセント	2P			30	20			
4		750		2F コンセント	2P			30	20			
5		1000		2F コンセント	2P			30	20			冷蔵庫
6		1200		2F コンセント	2P			30	20			IHヒーター
7		800		1F コンセント	2P			30	20			凍結防止ヒーター回路
8		1080		モーターサイレン	2P			30	20			
9				予備	2P			30	20			
10				予備	2P			30	20			
11				予備	2P			30	20			
12				予備	2P			30	20			
												ｻｲﾚﾝｺﾝﾄﾛｰﾗｰ(支給品)盤表面に取付
												寸法（W250*H101*D151)
												ｻｲﾚﾝｺﾝﾄﾛｰﾗｰの機能は下記の通り
												1,5種類の設定された自動断続吹鳴
												2,手動ﾎﾞﾀﾝによる吹鳴（ONの間）
		1080		モーターサイレン						4-1	I	3,停止ﾎﾞﾀﾝ（自動断続吹鳴用）
												4,自動断続吹鳴の設定を任意に
												ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ変更可能
												ｻｲﾚﾝｺﾝﾄﾛｰﾗｰによる出力回路組込
												*参考　矢萩工業(株) ｻｲﾚﾝｺﾝﾄﾛｰﾗｰ

L-1

1φ3W 100/200V
14°
L
ELCB3P
60/60A
計 8,380 VA
ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ製 露出形 ドア付
避雷器,保安灯(停電時用) 付

サイレン制御盤

L-1 電灯分電盤より
1φ2W 100V
2.0
MCCB2P
30/20A
(ﾘﾓｺﾝﾌﾞﾚｰｶｰ)
鋼鈑製,露出形,標準色

A　EFD 25W*1(WP)　ランプ電球色
点灯照度・点灯保持時間調整機能付
ｱﾙﾐﾀﾞｲｶｽﾄ(ｼﾙﾊﾞｰﾒﾀﾘｯｸ)
明るさセンサ付
照射方向可動型
HWC3100S E

B　LED 2.2W*1(WP)　赤色表示灯
ｸﾞﾛｰﾌﾞ：ｶﾞﾗｽ（200φ）
NNF20293K

C　FHT 32W*1
枠 クールホワイトつや消し仕上
150φ,211H
FRS21-H321 PN

D　FHT 24W*1
枠 クールホワイトつや消し仕上
150φ,211H
FRS21-H241 PN

E　LED 5.2W*1
ガラスカバー(乳白つや消し)
120*120
LGB87030

F　Hf 32W*1
反射板：鋼板（高反射白色粉体塗装）
FSA41515A VPH9

G　Hf 32W*2　初期照度補正機能付
反射板：鋼板（高反射白色粉体塗装）
FSS9-322 PK9

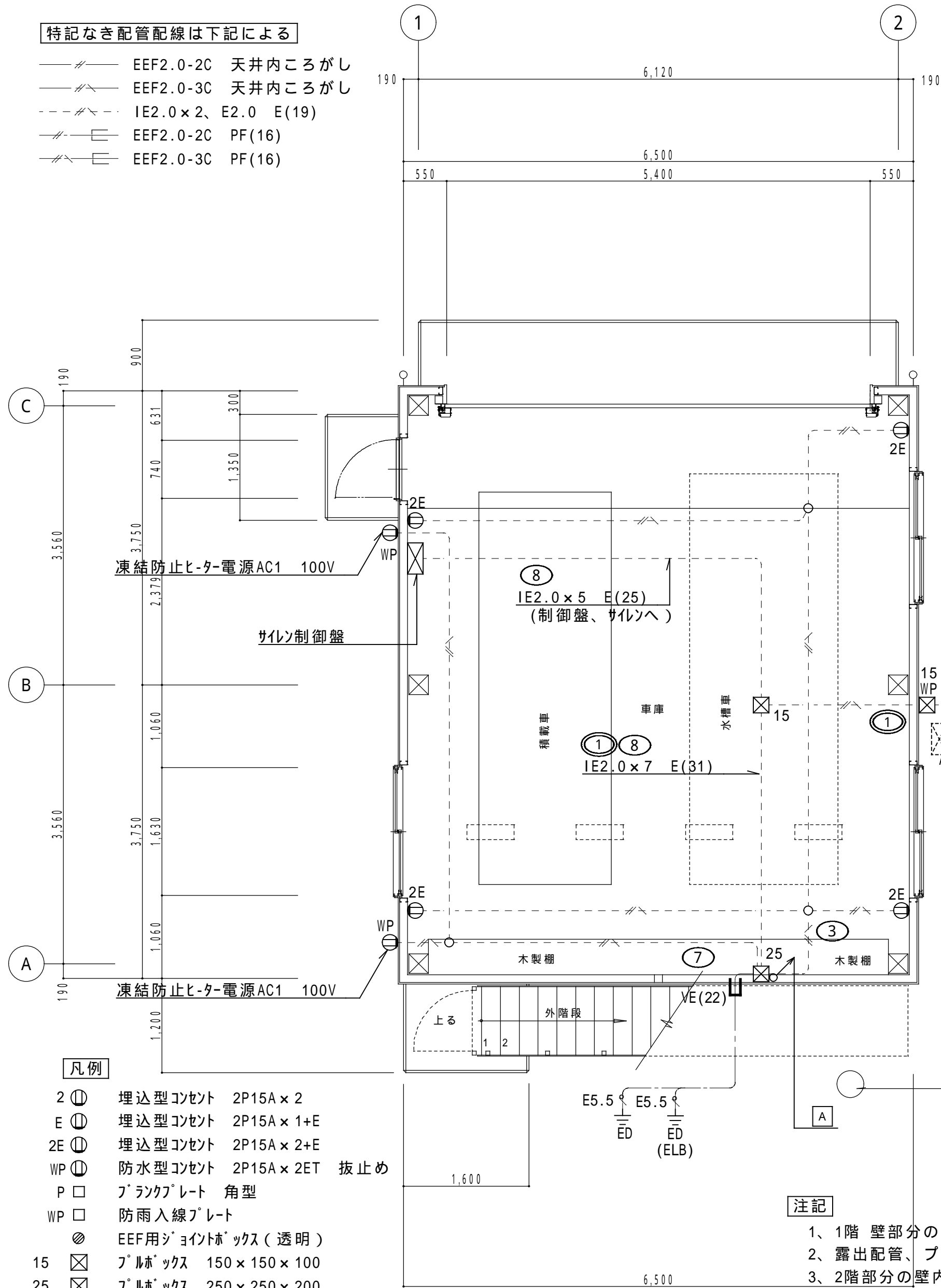
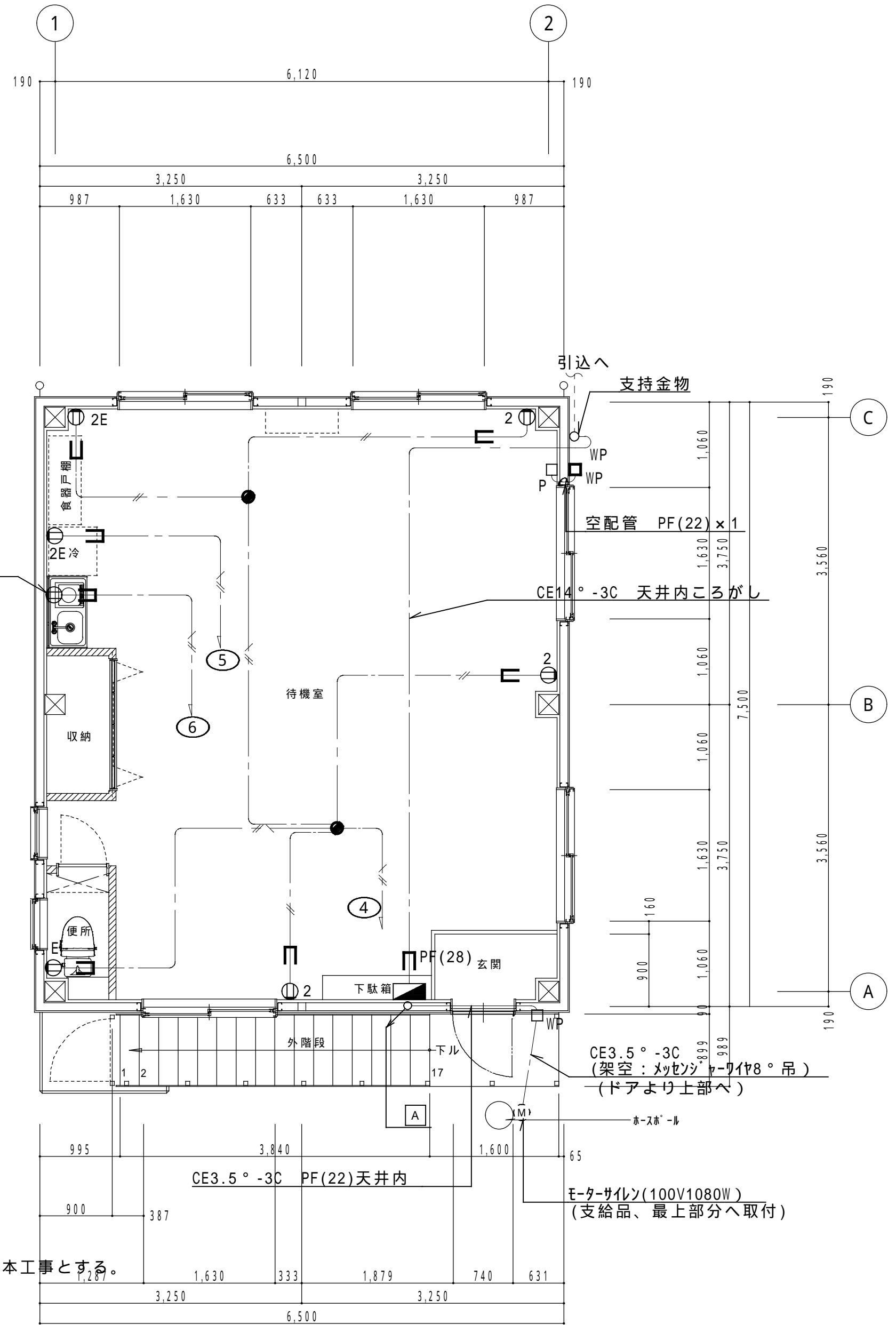
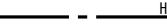
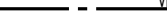
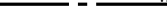
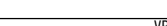
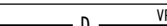
H　JDR 300W*1(WP)
アルミダイカスト（オフブラック）
前面：耐熱特殊ガラス
広角タイプ
YA55978K

注記

1、東電との契約容量は　現場にて協議により決定とする。

摘要	設計	承認	縮尺	
1 2 3 4			S＝N．S 設計年月日	工事名称　笛吹市消防団　御坂分団第９部拠点施設新築工事 図面名称　電灯分電盤結線図、照明器具姿図

NO　E-3

特記なき配管配線は下記による
EEF2.0-2C 天井内ころがし
EEF2.0-3C 天井内ころがし
IE2.0×2、E2.0 E(19)
EEF2.0-2C PF(16)
EEF2.0-3C PF(16)
A
1 IE2.0×2、E2.0
3 IE2.0×2
7 IE2.0×2
PF(22)
8 IE2.0×2:制御盤
CE3.5°-3C:ｻｲﾚﾝ
PF(22)
(接地線共用)
接地 IE5.5°×2
PF(16)
凍結防止ﾋｰﾀｰ電源AC1Φ100V
ｻｲﾚﾝ制御盤
IE2.0×5 E(25)
(制御盤、ｻｲﾚﾝへ)
IE2.0×7 E(31)
車庫
積載車
水槽車
木製棚
外階段
上る
VE(22)
E5.5 E5.5
ED ED
(ELB)
EEF2.0-3C F2(24)WP
RA-1室外機(設備工事)1Φ200V1.91KW
ﾎｰｽﾎﾟｰﾙ
IHﾋｰﾀｰ用ｺﾝｾﾝﾄ(1Φ100V1200W)
引込へ
支持金物
空配管 PF(22)×1
CE14°-3C 天井内ころがし
待機室
食器戸棚
収納
便所
玄関
下駄箱
PF(28)
下ル
CE3.5°-3C
(架空：ﾒｯｾﾝｼﾞｬｰﾜｲﾔ8°吊)
(ドアより上部へ)
CE3.5°-3C PF(22)天井内
ﾓｰﾀｰｻｲﾚﾝ(100V1080W)
(支給品、最上部分へ取付)
凡例
2 埋込型ｺﾝｾﾝﾄ 2P15A×2
E 埋込型ｺﾝｾﾝﾄ 2P15A×1+E
2E 埋込型ｺﾝｾﾝﾄ 2P15A×2+E
WP 防水型ｺﾝｾﾝﾄ 2P15A×2ET 抜止め
P ﾌﾞﾗﾝｸﾌﾟﾚｰﾄ 角型
WP 防雨入線ﾌﾟﾚｰﾄ
EEF用ｼﾞｮｲﾝﾄﾎﾞｯｸｽ（透明）
15 ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ 150×150×100
25 ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ 250×250×200
15WP ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ 150×150×100SUS-WP
露出ﾎﾞｯｸｽ(丸形)
電灯分電盤（結線図参照）
注記
1、1階 壁部分の仕上げは無くC鋼表しの為、機器取付用の部材は本工事とする。
2、露出配管、プルボックスは指定色塗装を行う。
3、2階部分の壁内ケーブルはPF管にて保護の事。
4、電灯分電盤裏に配管用裏ﾎﾞｯｸｽ 200×200×100を取り付ける。
5、テレビ共聴視設備は別途とする。
6、機器等位置・仕様については現場にて確認の上施工すること。
1階 平面詳細図 S＝1／50
2階 平面詳細図 S＝1／50
摘要
設計
承認
縮尺 S＝1／50
設計年月日
工事名称 笛吹市消防団 御坂分団第9部拠点施設新築工事
図面名称 1、2階 幹線、コンセント設備図
NO E-4

特記なき配管配線は下記による
IE1.6×2 E(19)
IE1.6×3 E(19)
IE1.6×4 E(25)
IE1.6×5 E(25)
IE1.6×6 E(25)
IE1.6×7 E(25)
IE2.0×2、E2.0 E(19)
EEF1.6-2C 天井内ころがし
EEF1.6-3C 天井内ころがし
EEF2.0-3C 天井内ころがし
EEF1.6-2C PF(16)
EEF1.6-3C PF(16)
EEF2.0-3C PF(16)
IE1.6×2 PF(16) ｲﾝﾍﾟｲ
IE1.6×3 PF(16) ｲﾝﾍﾟｲ
自動点滅器にて点滅する。
IE1.6×3 PF(16)
木製棚
外階段
車庫
積載車
水槽車
IE1.6×3 PF(16)より
１階部はE(19)に接続替え
IE2.0×2、E2.0 PF(16)
凡例
埋込型ｽｲｯﾁ 1P15A×2+1PL15A×1
埋込型ｽｲｯﾁ 1P15A×3+1PL15A×1
埋込型ｽｲｯﾁ 3W15A×1 防水ｶﾊﾞｰ付
24時間換気扇ｽｲｯﾁ P-10SWL(参考)
自動点滅器(100V3A)露出型
明るさ・人感ｾﾝｻｰ付ｽｲｯﾁ(天井埋込広角形) 100V8A
明るさ・人感ｾﾝｻｰ付ｽｲｯﾁ(天井埋込広角形) 100V8A(照明・換気扇連動)
埋込型ｺﾝｾﾝﾄ 2P15A×1
EEF用ｼﾞｮｲﾝﾄﾎﾞｯｸｽ（透明）
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ 150×150×100
露出ﾎﾞｯｸｽ(丸形)
換気扇(設備工事)
注記
1、1階 壁部分の仕上げは無くC鋼表しの為、機器取付用の部材は本工事とする。
2、露出配管、プルボックスは指定色塗装を行う。
3、2階部分の壁内ケーブルはPF管にて保護の事。
4、点線及び細線のﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽはｺﾝｾﾝﾄと共用とする。
5、機器等位置・仕様については現場にて確認の上施工すること。
１階 平面詳細図 S＝1／50
ﾐﾆｷｯﾁﾝ換気扇用電源
G×4
待機室
収納
玄関
下駄箱
IE1.6×3 PF(16)
IE1.6×3 PF(16)より
１階部はE(19)に接続替え
IE2.0×2、E2.0 PF(16)
２階 平面詳細図 S＝1／50
摘要
設計
承認
縮尺 S＝1／50
設計年月日
工事名称 笛吹市消防団 御坂分団第９部拠点施設新築工事
図面名称 １、２階 電灯設備図
NO E-5

特記仕様書

A

工事名称　笛吹市消防団　御坂分団大９部拠点施設新築工事

工事場所　笛吹市御坂町蕎麦塚628-3

工事範囲　設計図書・工事契約書による

建設概要　ＳＣ造　２階建て

延べ床面積　97.5ｍ２

B 一般事項

本工事は特記仕様書，設計図によるほか，消防法、建築基準法及び、
国土交通省営繕部監修機械設備工事標準仕様書（Ｈ22年版）に基づき施工すること。

２　本工事に於いて、図面・本仕様書に疑義が生じた場合、及びそれに明記なきものでも技術上,
管理上当然必要なものは、係員と協議の上誠実に施工するものとする。
なお、軽微な変更は請負者の責任にて行う。

３　本設計図を請負者は十分なる理解のうえ、工事着手前に工程表・施工計画書・材料承諾願図
施工図等を提出し、係員の承諾を得ること。

４　本工事請負者は、定められた工期内で完全な状態で引渡し出来るよう工事を完成させ、完成時に
機器取扱説明書・保証書・各申請書類・試験成績書・工事写真等の完成書類を提出し、完成検査
を受けなければならない。

５　本工事請負者は工事完成引渡し後でも施工方法、器具類の不良等に起因する事故に対しては
責任を持って修復しなければならない。

６　設計数量書は参考とし、設計図書を良く精査し積算すること。

C 工事項目

１　給水設備工事　２　排水通気設備工事　３　衛生器具設備工事　　４　冷暖房設備工事
５　換気設備工事

D 優先順位

１　法令・政令・規則等の定め、及び指導
２　現場説明事項　質疑事項
３　特記仕様書
４　設計図書

E 使用機材

機材はメーカーリストによる他、同等品とし、請負者は契約後監督員の指示に従いリストを作成し、
承諾を受けたものを使用する。

F 工事概要

１・給水設備工事
道路内給水本管より20Φにて分岐し、量水器を経て以下直結給水方式にて給水する。

２・排水設備工事
本工事は、汚水、雑排水の合流式とし公共下水桝に接続する。
雨水配管は前面道路部の水路に接続する。

３・衛生器具設備工事
図示の各位置に器具表で示した器具を設置する。

４・冷暖房設備工事
本工事はルームエアコンにて待機室の冷暖房を行う。

６・換気設備工事
全て第３種換気とする。※　シックハウス対策（24h換気）併用とする。

G 特記事項

１　主要な弁類には、使用用途を記したプラスチックの用途札を取付ける。
２　給水等に使用する器具・バルブ類は鉛レス対策品とする。
３　排水管の勾配は屋内１／５０,屋外１／50を標準とする。
４　陶器の色は標準色同価格品とし係員と協議の上決定する。
５　配管設備の耐震施工は、国土交通省施工指針等により実施すること。
６　水道加入負担金は本工事とし、分水工事、申請手続費も本工事に含むものとする。
７　通気口離隔距離は最上階建物開口部より有効600mm以上、水平離隔距離3000mm以上とする。
８　水道局直結部分、その他指定する部分の弁類はＪＩＳ１０ｋｇ/ｃｍ2とする。
９　給水埋設深さは屋外部分ＧＬ－６００（管上）以上を標準とする。
１０　使用管材等は凡例参照とする。
１１　床上掃除口は鋼付化粧型ＶＰ用とする。
１２　土間下埋設配管は沈下防止の為、それぞれの管種に応じ天井配管と同ピッチで土間配筋より
吊ること。
１３　配管に使用するボルト・ナット及びフランジアングル類は電蝕を考慮し亜鉛メッキ以上の物を
使用する。
１４　屋外給水管には埋設表示標、標示柱を取付けること。
１５　給水配管は、バルブの前後等適当な箇所にフランジ継手又は、ユニオンを挿入し取外しを
容易にすること。又軽量間仕切内の給水接続は座付継手とする。
１６　スパイラルダクト及びフレキダクトは亜鉛鉄板製とし、切断面は防錆処置を講じること。
１７　屋外露出（一部車庫内）の給水配管は凍結防止ヒーター巻き（自己制御ＡＣ100Ｖ）とする。
１８　冷媒管径及び二次側配線仕様は参考の為、最終使用決定メーカーに対応する仕様とすること。
１９　水道事業法１６条の給水装置の構造及び材質の基準は水道法施工令第5条に従うこと。
２０　下水道法第10条第1項の排水設備は下水道法施工令第8条及びそれに基づく条例の規定に従うこと。
２１　公共下水桝の設置、下水本管接続までの工事も本工事とする。
２２　施工前、上下水道局と打合せを行い施工にあたること。
２３　道路横断は断面図による。舗装復旧は本復旧とし、仮復旧は行なわない。
２４　上水、下の水道路横断は交通誘導員、安全バリケード等は含むものとする。

H 保温・塗装・防食仕様

給水管	地中・コンクリート内	:	粘着テープ（１／２重ね）2回巻き　但しHIVP,VD,管は除く
	屋外露出	:	グラスウール保温筒(20mm)+粘着ﾃｰﾌﾟ+ｶﾗｰ鋼板
	天井・ＰＳ内	:	グラスウール保温筒(20mm)+粘着ﾃｰﾌﾟ+ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ
	壁内	:	ﾜﾝﾀｯﾁ保温筒（10mm）　ワンダーチューブ
排水管	屋内露出	:	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ保温筒(20mm)+粘着ﾃｰﾌﾟ+ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ
	屋外露出	:	調合ﾍﾟｲﾝﾄ2回塗り又は、ｶﾗｰＶＰ
冷媒管	屋外露出	:	M-07の施工要領図を参照
	天井・ＰＳ内	:	M-07の施工要領図を参照
ドレン管	屋外露出	:	調合ﾍﾟｲﾝﾄ2回塗り又は、ｶﾗｰＶＰ
	天井・ＰＳ内	:	ワンタッチ保温筒（10mm）　ワンダーチューブ
ダクト	一般		グラスウール保温板+アルミガラスクロス
ダクト	火気使用ヶ所		ロックウール保温板25mm+アルミガラスクロス

※　ﾗｲﾆﾝｸﾞ内配管の保温施工不可能なヶ所はワンタッチ保温筒でも良い。

J 凡例

記号	名称	区分	管種	記号	規格
HI	給水管	（屋外埋設）	耐衝撃性塩化ビニール管	HIVP	JIS-K6742
VD	給水管	（屋内埋設）	内外面塩ビライニング鋼管		JWWA-K116
VB	給水管	（屋内一般）	内面塩ビライニング鋼管		JWWA-K116
VP	排水管	（屋外埋設）	硬質塩化ビニール管	ＶＰ	JIS-K6741
VP	排水管	（屋内埋設）	硬質塩化ビニール管	ＶＰ	JIS-K6741
VP	通気管	（屋内埋設）	硬質塩化ビニール管	ＶＰ	JIS-K6741
R A	冷媒管	（屋内一般）	冷媒配管用被覆銅管20mm+10mm		参考図参照
D VP	ドレン管	（屋内埋設）	硬質塩化ビニール管	ＶＰ	JIS-K6741
EA	ダクト	（屋内一般）	スパイラルダクト	ＳＤ	亜鉛メッキ鋼板

⋈　仕切り弁・ボール弁　ＪＩＳ１０Ｋ

⊠　◎　溜めます　・塩ビ桝　塩ビ蓋　・駐車場・車路は防護ハット（Ｔ-8）

K 工事区分

別紙工事区分表参照。

I メーカーリスト

管類	ＪＷＷＡ規格品	ＪＩＳ規格品	ＷＳＰ規格品
弁類	ＪＷＷＡ規格品	ＪＩＳ規格品	
衛生器具	ＴＯＴＯ	ＬＩＸＩＬ	
吸気弁付横水栓	竹村製作所		
エアコン	ダイキン工業	三菱電機	パナソニック
換気扇	三菱電機	パナソニック	ダイキン工業

又は、同等品とする。

摘要	設計	承認	縮尺
1 2 3 4			Ｓ＝NO 設計年月日

工事名称　笛吹市消防団　御坂分団第９部拠点施設新築工事

図面名称　特記仕様書

NO　M-01

摘要	1	設計	承認	縮尺 S＝1/100	工事名称 笛吹市消防団 御坂分団第９部拠点施設新築工事	NO M-02
	2			設計年月日	図面名称 配置図	
	3					
	4					

衛生設備器具表

名称	仕様	参考品番	2階 トイレ	2階 待機室			屋外	合計	備考
洋風便器	流動式・暖房便座・手洗い付ロータンク・床給水（固定金物）	CS670B SS671BFBL TCF226（AC100V） YH52R	1					1	TOTO同等品
吸気弁付横水栓	吐水口回転形 13A	KTL-25-13					1	1	竹村製作所同等品
ミニキッチン	水栓・排水金物・ＨＩコンロ・換気扇付　建築工事			1				1	

○ 配管口径は：SHASE（空気調和、衛生工学会）技術基準による。
○ 給水栓：吐水口空間を取ること。
○ 排水トラップの構造：昭50構造159号第2第3号の規定に適合すること。

空調設備機器表

記号	名称	仕様	参考電気容量（冷房時） 相Φ	電圧V	容量KW	数量	備考
RA-1	ルームエアコン	インバーター壁掛け・屋外機電源 ワイヤレスリモコン（屋外機電源） 冷房能力・6.3KW 暖房能力・7.1KW 屋外機・防振ゴム・基礎・詳細図参照	1	200	1.91 （20A）	1	待機室 S63PTCXV相当品
EF-1	有圧換気扇	標準タイプ・電気シャッター付・取付け木枠・ＳＵＳフード（防虫網） ３００Φｘ１２００ＣＭＨｘ４５Ｐａ	1	100	0.046	1	1階車庫 EFG-30SB
F-1	壁付け換気扇	低騒音・インテリア格子・電気式・取付け木枠・ＳＵＳフード（防虫網） ２５０Φｘ６６０ＣＭＨ 24H換気シール	1	100	0.016	1	2階待機室 EX-25EK6-C
PF-1	パイプファン	プラスティツクタイプ　電気シャッター・ＳＵＳ深形フード１００Φ（防虫網） １００Φｘ４０ＣＭＨｘ２０Ｐａ	1	100	0.006	1	2階便所 V-08PS6

摘要 1 2 3 4

設計　承認　縮尺 S＝NO　設計年月日

工事名称　笛吹市消防団　御坂分団第９部拠点施設新築工事
図面名称　衛生設備器具表・空調設備機器表
NO　M-03

摘要	1
	2
	3
	4

設計 / 承認

縮尺 Ｓ＝１／５０

設計年月日

工事名称 笛吹市消防団 御坂分団第９部拠点施設新築工事

図面名称 1・2階平面詳細図（衛生）

NO M-04

弁桝記号	弁の呼び径	B	H	T	t1	t3	t2	ふた	備考
VC －1	40以下	200	550	100	150	100	120	B1	（1）側塊の接合は防水モルタル塗りとしズレ止めをつけるものとする.
VC －2	40以下	200	850	100	150	100	120	B1	
VC －3	50～80	400	700	100	150	100	120	B2－A	（2）口環は鉄筋入りとする.
VC －4	50～80	200	900	100	150	100	120	B2－A	（3）B1では、鉄筋は4本とする.
VC －5	100～200	200	550	100	150	100	120	B1	

給排水管埋設断面図　NO，S

＊排水管管低400H以下のクッションは底部のみとし、上部は切込み砕石0～40

掃除口桝概要図　NOSCALE

掃除口桝（塩ビ桝）施工

① クラッシャランは、再生材とする。
② 桝本体下部の基礎板は、コンクリート板、若しくは再生プラスチック製台座を使用する。
③ 舗装工事など桝本体に外圧が加わる恐れがある箇所には、立ち上げ管より１サイズアップした保護管（３００H）を設ける。
但し、立ち上げ口径３００φの場合は保護管を使用しない。
④ 掃除口桝に接続される排水管、立ち上げ管、保護管は全てＶＵとする。
⑤ 掃除口桝と排水管の放流側接続には、ＶＰ変換ソケットを用いる。（市販品使用）
但し、トラップ桝への接続及び掃除口桝に接続される配管口径５０φの場合は、ＶＰ変換ソケットは使用しない。
⑥ ＰＣ口環ナシの掃除口（キャップ）は、メスミカゲ（ワンタッチ式ドライバータイプ）を用いる。但し、立ち上げ管径３００φの場合はオスミカゲとする。
⑦ 立ち上げ管が長くアスファルト舗装等を行うことによって桝本体に外圧が加わるような恐れのある場合には、途中にＤＶ継手を用いる。
⑧ 排水主管が７５φとなる掃除口は、使用しない。レジューサ等を用いて１００φサイズアップする。
⑨ 掃除口桝は、原則として放流深度３，５００Ｈまでとする。

桝型番	YV－01	YV－02
桝姿図		
参考型番	M－45YS－H100－150	M－90Y100＊75－150
	YV－03	YV－04
	M－90Y100－150	M－90L100－150

YV－01	YV－02	YV－03	YV－04	YV－05
M－45YS－H100－150	M－90Y100＊75－150	M－90Y100－150	M－90L100－150	M－22.5L100－150

YV－06	YV－07	YV－08	YV－09	YV－10	YV－11
M－45L100－150	M－ST100－150	M－STH100－150	M－STH100－150LB75	M－45WYS100－150	M－UTK100＊75S－150－B

YV－12	YV－13	YV－14
M－UTK100＊50S－150	M－UTK100＊100S－150	M－UT100＊75S－150
YV－15	YV－16	YV－17
M－UT100＊50S－150	M－UT100＊100S－150	MX－Y－UT100＊75S－150
YV－18	YV－19	YV－20
MX－UT－Y100＊75S＊75－150	MX－90YW100＊75－150	MX－UTW100＊75S－150
YV－21	YV－22	YV－23
MX－90L－Y100－150	MX－90L－Y100－150	MX－45YS100－150

汚水桝

桝番号	桝記号	桝仕様	地盤よりのよりの管底	桝設置地盤高	桝蓋	備考
Ⓐ	掃除口桝	90L100-150	-500	+150	樹脂蓋	
Ⓑ	掃除口桝	90Y100-150	-590	+150	樹脂蓋	
Ⓒ	掃除口桝	DL100-150	-850	-250	防護蓋	T－8
	公共桝	150Φ x 200Φ	-1200	-250	防護蓋	

雨水桝

桝番号	桝記号	桝仕様	地盤よりのよりの管底	桝設置地盤高	桝蓋	備考
①	塩ビ桝	90L 100-150	-400	+150	防護蓋	T－8
②	ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ桝	350x350	-450	+150	ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ	MHB

*桝の深さは.参考とする.（汚水1/50・雨水管勾配は1/100基準とする.）
*桝設置地盤高さは設計GL±0よりの高さとする。

摘要		設計	承認	縮尺 S＝NO 設計年月日	
1 2 3 4					工事名称　笛吹市消防団　御坂分団第９部拠点施設新築工事 図面名称　塩ビ桝施工詳細図・桝リスト・埋設要領図

NO　M-05

	冷　媒　管　保　温　施　工　仕　様		
	施　工　箇　所	保　温　の　種　別	施　工　例
冷媒管	天井内、ＰＳ内 屋外ラッキング内 その他いんぺい部 機械室内露出部	１．架橋ポリエチレンフォーム保温筒 ２．ビニールテープ	冷媒管 電源ケーブル 保温筒 制御ケーブル等 ビニールテープ
	屋内露出部	１．架橋ポリエチレンフォーム保温筒 ２．塩ビ樹脂製保温化粧ケース （直付け工法）	冷媒管 電源ケーブル 保温筒 制御ケーブル等 保温化粧ケース
	屋外露出部	１．架橋ポリエチレンフォーム保温筒 ２．塩ビ樹脂製保温化粧ケース （浮かせ工法）	冷媒管 電源ケーブル 保温筒 制御ケーブル等 保温化粧ケース
	○　冷媒管保温厚はガス管１０ｍｍ、液管２０ｍｍとする （口径９．５２φ以下の液管保温厚は８ｍｍとしても良い） ○　制御ケーブルは保温筒へビニールテープで固定する事（ピッチ２Ｍ）		

屋外機基礎図　Ｓ＝ＮＯ

摘要	1	設計	承認	縮尺	工事名称　笛吹市消防団　御坂分団第９部拠点施設新築工事	NO M-07
	2			設計年月日	図面名称　冷媒管保温施工図	
	3					
	4					